

### 3 伝統芸能の伝承者の養成及び 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

(1) 伝統芸能の伝承者の養成

ア 養成の計画的な実施

イ 既成者研修の実施

ウ 実施に当たっての留意事項

(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

ア 安定的、継続的な実演家の育成

イ 実施に当たっての留意事項



### 3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

|                         |   |
|-------------------------|---|
| 自己評定                    | <b>B</b>  |
| 自己評定の根拠                 | <p>以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を達成しているため、自己評定はB評定とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修発表会の実施状況の達成率は 105.9%であった。これは、現代舞台芸術分野において、インターネット小口寄附の用途としてオペラスタジオ（オペラ研修所）を指定された寄附金を公演費に充てることにより、オペラ研修所「スプリング・ガラコンサート 2025」を開催したことによる。</li> <li>・既成者研修発表会の実施状況について、「若手素浄瑠璃の会」は、出演予定者が、文楽協会の巡業等、他公演のスケジュールと重なったことにより実施を見送った。</li> <li>・伝統芸能の各分野の養成事業を横断的に所管する「国立劇場伝統芸能伝承者養成所」の機能強化のために養成企画課を新設し、養成事業の周知、研修生募集広報及び普及活動をより効果的に行った。</li> <li>・継続的な寄附受入れを目的とした「国立劇場養成所サポーター」に対し、活動報告や発表会への招待に加えてサポーターミーティングを実施し、会員と直接意見交換を行い、養成事業への理解を深めていただくとともに、安定した外部資金の獲得に貢献することができた。</li> <li>・再整備期間中の代替施設、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて養成事業を着実に継続するとともに、青少年を対象にセンターで行われるワークショップ等のイベントに積極的に協力し、伝統芸能の普及・振興に努めた。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響を受けた研修修了者に対するフォローアップ研修の実施によって就業後のサポートをするだけでなく、研修応募を検討している方に対する「プレ研修」を新たに実施し、受講者3名が令和7年4月開講の研修に応募して選考試験に合格した。</li> <li>・養成所の認知向上を主な目的として、外部団体等と協力し、若年層のための伝統芸能体験プログラムを各施設において実施した。</li> <li>・現代舞台芸術分野の研修では、国際的なレピュテーションの確立を目指し、舞台芸術グローバル拠点事業に取り組んだ。</li> <li>・バレエ研修所では、より優れたトップアーティストを育成するため、原則4年間の全日制一貫研修実施を目的とした新研修体系へ移行した。また、研修所入所前に受講できる基礎強化を目的とした基礎科を本格的に開始した。</li> <li>・全日本空輸株式会社の協賛による「ANA スカラシップ」（オペラ研修所・バレエ研修所研修生の海外研修サポート等）、「新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援」（演劇研修所の国内研修に関わる航空券のサポート）を実施した。</li> </ul> |
| 数値目標の達成状況<br>実績/目標（達成率） | <p>研修発表会の実施状況：18公演/17公演（105.9%）<br/>既成者研修発表会の実施状況：8公演/9公演（88.8%）</p>  |
| 主要な業務実績                 | <p>(1) 伝統芸能の伝承者の養成<br/>(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修<br/>各表参照</p>  |
| 課題と対応                   | <p>(1) 伝統芸能の伝承者の養成<br/>(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修<br/>各表参照</p>  |

## [1] 伝統芸能の伝承者の養成

|                         |  |
|-------------------------|--|
| 自己評定                    | <b>B</b>   |
| 自己評定の根拠                 | <p>以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を達成しているため、自己評定はB評定とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修発表会の実施状況の達成率は100.0%であった。</li> <li>・既成者研修発表会の実施状況について、「若手素浄瑠璃の会」は、出演予定者が、文楽協会の巡業等、他公演のスケジュールと重なったことにより実施を見送った。</li> <li>・伝統芸能の各分野の養成事業を横断的に所管する「国立劇場伝統芸能伝承者養成所」の機能強化のために養成企画課を新設し、養成事業の周知、研修生募集広報及び普及活動をより効果的に行った。</li> <li>・継続的な寄附受入れを目的とした「国立劇場養成所サポーター」に対し、活動報告や発表会への招待に加えてサポーターミーティングを実施し、会員と直接意見交換を行い、養成事業への理解を深めていただくとともに、安定した外部資金の獲得に貢献することができた。</li> <li>・再整備期間中の代替施設、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて養成事業を着実に継続するとともに、青少年を対象にセンターで行われるワークショップ等のイベントに積極的に協力し、伝統芸能の普及・振興に努めた。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響を受けた研修修了者に対するフォローアップ研修の実施によって就業後のサポートをするだけでなく、研修応募を検討している方に対する「プレ研修」を新たに実施し、受講者3名が令和7年4月開講の研修に応募して選考試験に合格した。</li> <li>・養成所の認知向上を主な目的として、外部団体等と協力し、若年層のための伝統芸能体験プログラムを各施設において実施した。</li> </ul>   |
| 数値目標の達成状況<br>実績/目標（達成率） | <p>研修発表会の実施状況:8公演/8公演(100.0%)<br/>既成者研修発表会の実施状況:8公演/9公演(88.8%)</p>   |
| 主要な業務実績                 | <p><b>ア 養成の計画的な実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌舞伎俳優、大衆芸能(太神楽)、能楽(三役)、組踊研修については計画通り研修を実施した。</li> <li>・第9期歌舞伎音楽(長唄)については研修辞退により在籍者がいなくなったため、年度途中で研修を中止した。</li> <li>・研修発表会を計画通り実施した。</li> </ul> <p><b>イ 既成者研修の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既成者研修発表会を計画通り実施した。</li> <li>・能楽研究課程を引き続き開講した(受講者44名、実施回数350回)。</li> </ul> <p><b>ウ 伝統芸能の伝承者の養成の実施に当たっての留意事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「国立劇場伝統芸能伝承者養成所」の研修生募集広報や普及活動を強化するため、養成企画課を令和6年4月に新設した。</li> <li>・研修生への応募を検討する方に向けての見学会を実施した。歌舞伎俳優、大衆芸能(太神楽)、文楽研修生の募集活動においては、三分野の合同見学会を開催。各分野の応募者に対して選考試験を実施し、合格者は次年度の研修を受講予定である。</li> <li>・歌舞伎音楽(長唄)研修生募集については、応募のあった1名が辞退したため、募集期間を延長するなどして、引き続き研修生確保に努めた。</li> <li>・外部資金の獲得及び養成事業の広報のため、「国立劇場養成所サポーター」を継続して募集し、会員数は昨年度より25名増えて151名となった。</li> <li>・国立オリンピック記念青少年総合センター主催の若年層に対するワークショップ等に協力した。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の拡大により、授業数の減少などカリキュラムに大</li> </ul> |

|                     |   |
|---------------------|---|
|                     | <p>きな影響を受けた研修修了者に対し、就業後の定着と技芸向上を図るため新たにフォローアップ研修を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来、研修応募を検討している方の受け皿として、学業と並行して研修を受けることができる「プレ研修」を新たに実施し、受講者3名が令和7年4月開講の研修に応募して選考試験に合格した。</li> <li>・養成所の認知向上を主な目的として、外部団体と協力し、若年層のための伝統芸能体験プログラムを各施設において実施した。</li> <li>・外部の施設及び公演・イベント会場、各種媒体等で養成研修事業を周知した。</li> <li>・五館合同特別講義、研修生交流会を開催し、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の共同研修を実施した。</li> </ul> |
| <p><b>課題と対応</b></p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・応募者が減少傾向にある中、国立劇場伝統芸能伝承者養成所による募集広報や普及活動を強化するとともに、プレ研修やフォローアップ研修など、伝承者の安定的な確保及び修了者の就業定着のための必要な措置を引き続き講じる。</li> </ul>   |

[2] 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 自己評定                     | <b>B</b>  |
| 自己評定の根拠                  | <p>以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を達成しているため、自己評定はB評定とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画どおり研修及び研修公演を実施した。なお、インターネット小口寄附の用途としてオペラスタジオ(オペラ研修所)を指定された寄附金を公演費に充てることにより、オペラ研修所「スプリング・ガラコンサート2025」を追加開催した。</li> <li>・国際的なレピュテーションの確立を目指し、舞台芸術グローバル拠点事業に取り組んだ。</li> <li>・バレエ研修所では、より優れたトップアーティストを育成するため、原則4年間の全日制一貫研修実施を目的とした新研修体系へ移行した。また、研修所入所に受講できる基礎強化を目的とした基礎科を本格的に開始した。</li> <li>・全日本空輸株式会社の協賛による「ANA スカラシップ」(オペラ研修所・バレエ研修所研修生の海外研修サポート等)、「新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援」(演劇研修所の国内研修に関わる航空券のサポート)を実施した。</li> <li>・研修の実施状況、修了生の活動状況等について、ホームページや SNS を活用して継続的に情報を発信し、研修事業の意義やそのレベルの高さを広く周知できた。</li> <li>・オープンスクールや説明会を対面及びオンラインで開催し、研修内容を具体的に理解してもらうことで将来の優秀な研修生獲得に努めた。</li> <li>・新国立劇場の人材及び施設を活かして、連携大学からのインターンシップ受入れ等を積極的に実施した。</li> </ul>  |
| 数値目標の達成状況<br>実績/目標 (達成率) | 研修発表会の実施状況：10公演/9公演 (111.1%)  |
| 主要な業務実績                  | <p><b>ア 安定的、継続的な実演家の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画どおり研修を実施し、オペラ研修生5名、バレエ研修生5名、演劇研修生10名が修了した。</li> <li>・研修公演を計画どおり実施した。</li> <li>・オペラ研修所では、インターネット小口寄附の用途としてオペラスタジオ(オペラ研修所)を指定された寄附金を公演費に充てることにより、計画の3公演に加えて、オペラパレスにて「スプリング・ガラコンサート2025」を開催した。</li> <li>・バレエ研修所では、より優れたトップアーティストを育成するため、原則4年間の全日制一貫研修実施を目的とした新研修体系へ移行した。また、研修所入所に受講できる基礎強化を目的とした基礎科を本格的に開始した。</li> <li>・演劇研修所では、平和の尊さをテーマにした夏の朗読劇上演として、絵本「スノーマン」で世界的に有名なレイモンド・ブリッグズ氏による「風が吹くとき」を朗読劇として新制作し、上演した。</li> <li>・国際的なレピュテーションの確立を目指し、舞台芸術グローバル拠点事業に取り組んだ。</li> <li>・全日本空輸株式会社の協賛による「ANA スカラシップ」(オペラ研修所・バレエ研修所研修生の海外研修サポート等)、「新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援」(演劇研修所の国内研修に関わる航空券のサポート)を実施した。</li> <li>・「バレエ・アステラス2024」では世界のバレエ学校として韓国芸術総合学校バレエアカデミーの生徒を招待し、交流を深めた。</li> <li>・韓国で開催された「ソウル国際ダンスコンクール2024」にて、バレエ研修所21期生 小寺夏鼓がバレエ・ジュニア男子部門で第1位、特別賞「ヒューストン・バレエ団夏季インテンシヴ・プログラム受講特待生」、「ヌレエフ賞」(第1号受賞者)を獲得した。</li> <li>・研修事業委員会を開催し、外部専門家である研修事業委員と各研修所所長が研</li> </ul> |

|              |   |
|--------------|---|
|              | <p>修所の現状を確認するとともに、今後の方向性を検討した。</p> <p><b>イ 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページや SNS を活用し、研修の実施状況、修了生の活動状況等の詳細な情報を各研修所が随時発信した。</li> <li>・オペラ研修所では高齢者用マンションでのサロンコンサート、演劇研修所では東京都立葛飾盲学校へのアウトリーチを行い、研修事業の普及に努めた。</li> <li>・事業周知と将来の研修生確保のため、オープンスクールや説明会を対面及びオンラインで開催した。</li> <li>・五館合同特別講義、研修生交流会を開催し、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の共同研修を実施した。</li> <li>・提携大学と連携してインターンシップの受入れを行うなど、新国立劇場の人材及び施設を活用した。</li> </ul> |
| <b>課題と対応</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修施設の充実については、関係各所と相談し、引き続き検討していく。</li> </ul>  |

### 3-(1) 伝統芸能の伝承者の養成

#### 《中期計画の概要》

#### 3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

##### (1) 伝統芸能の伝承者の養成

伝統芸能を長期的な視点に立って保存振興し、各分野の伝承者を安定的に確保するため、伝承者の養成を実施

ア 民間での養成が難しい分野に限定し、外部専門家等から、我が国の伝統芸能を保持するために引き続き伝承者を養成する必要があるとの意見が示された、歌舞伎、大衆芸能、能楽、文楽、組踊について実施各分野の充足状況等を把握するとともに、関係団体等との協議、外部専門家等の意見等を踏まえ、養成すべき分野、人数、研修期間等を定めた上で計画的に実施

研修修了生の動向把握等により成果の検証を行い、対象とする分野、人数等の不断の見直しを実施

歌舞伎、大衆芸能、能楽、文楽の各分野を横断的に所管する「国立劇場伝統芸能伝承者養成所」において、戦略的な広報宣伝活動等を実施、伝統芸能の各分野における課題について関係団体等とともに改善方策を検討し、研修生に対する支援の拡充等により研修修了後の就業定着に努める

イ 重要無形文化財保持者等を講師として、実技研修・研修発表会等を中心とする実践的・体系的なカリキュラムにより、養成研修を実施

- ① 歌舞伎俳優、歌舞伎音楽伝承者養成(研修期間2年間又は3年間)
- ② 大衆芸能伝承者養成(研修期間2年間又は3年間)
- ③ 能楽伝承者養成(研修期間:基礎研修課程3年間、専門研修課程3年間)
- ④ 文楽伝承者養成(研修期間2年間)
- ⑤ 組踊伝承者養成(研修期間3年間)

ウ 研修修了者を中心に伝承者の技芸の向上を図るため、次の既成者研修を実施

- ① 既成者研修発表会(歌舞伎俳優・歌舞伎音楽・能楽・文楽・組踊)
- ② 能楽研究課程(1年間)

##### (2) 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項

ア 養成・研修事業に関する国民の関心の喚起、理解促進のため、ホームページ、SNS等を活用して研修修了者の活動状況等を分かりやすく示すなど、広報活動を充実

イ 学校等との連携による養成・研修成果の活用及び研修生・研修修了者等が実演経験を積む機会の充実のための児童・生徒等の体験学習や劇場外における様々な文化普及活動への積極的参画

ウ 効果的かつ効率的な募集活動、研修見学会等について検討

エ 国立劇場再整備後を見据えた伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の養成・研修事業の在り方の検討

オ 国立劇場等の人材や施設を活用した公演制作者や舞台技術者等の実地研修等の受入れ、協力、舞台技術に関する安全管理等についての技術講習会実施に向けた検討

#### 《年度計画の概要》

#### 3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家等その他の関係者の研修

##### (1) 伝統芸能の伝承者の養成

##### ア 養成研修の実施

研修修了者の動向把握等による成果の検証

国立劇場伝統芸能伝承者養成所における戦略的な広報宣伝活動の強化、研修生に対する支援の在り方に関する検討等を実施

国立劇場等の再整備に伴い、歌舞伎及び大衆芸能の養成研修については、国立オリンピック記念青少年総合センターの施設を利用して実施

- ① 歌舞伎俳優・歌舞伎音楽  
(歌舞伎俳優)
  - (a) 第28期生(研修期間2年、4名)の2年目の養成研修(修了)
  - (b) 第29期生(研修期間2年、2名)の1年目の養成研修(歌舞伎音楽)
  - (c) 長唄第9期生(研修期間3年、1名)の3年目の養成研修(修了)
- ② 大衆芸能
  - (a) 太神楽第8期生(研修期間3年、2名)の3年目の養成研修(修了)
- ③ 能楽(ワキ・囃子・狂言:研修期間6年)

- (a) 第11期生(3名)の5年目の養成研修
- (b) 第12期生(3名)の2年目の養成研修
- ④ 文楽(研修期間2年)
  - (a) 第33期生(3名程度)の1年目の養成研修
- ⑤ 組踊(立方・地方:研修期間3年)
  - (a) 第7期生(9名)の2年目の養成研修
- ⑥ 研修発表会を別表8のとおり実施
- ⑦ 研修修了者の動向把握等による成果の検証を踏まえ、研修生を募集
  - (a) 第30期歌舞伎俳優
  - (b) 第26期歌舞伎音楽(竹本)
  - (c) 第19期歌舞伎音楽(鳴物)
  - (d) 第10期歌舞伎音楽(長唄)
  - (e) 第9期大衆芸能(太神楽)
  - (f) 第34期文楽
- イ 研修修了者等の伝承者の技芸向上を図るため、既成者研修を実施
  - ① 既成者研修発表会を別表8のとおり実施
  - ② 歌舞伎音楽について、研修修了者に対するフォローアップ研修を実施
  - ③ 能楽について、研究課程を開講し、研修機会の拡大と伝承者間の交流を促進
- ウ 伝統芸能の伝承者の養成の実施に当たっての留意事項
  - ① 養成事業についての国民の関心の喚起、理解促進のため、ホームページ、SNS 等を活用して研修修了者の活動状況等を紹介するなど、広報の充実に努める
  - ② 養成成果の活用及び研修修了者等が実演経験を積む機会の充実に努めるため、ワークショップ等を全国の文化施設、学校等と協力して実施し、文化普及活動への積極的参画に努める
  - ③ 研修生募集について、ホームページ、SNS 等での告知、研修紹介映像の活用、研修説明会・見学会の積極的な実施等により周知し、応募者の確保に努める
  - ④ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義を実施し両分野の相互交流を図る
  - ⑤ 国立劇場等の再整備後を見据えた伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の養成・研修事業の在り方について検討
  - ⑥ 舞台技術に関する安全管理等についての技術講習会実施に向け、試行的取組を実施

## ア 養成の計画的な実施

### 《研修方針》

歌舞伎俳優、歌舞伎音楽(竹本)、歌舞伎音楽(鳴物)においては2年間、歌舞伎音楽(長唄)、大衆芸能(太神楽)研修においては3年間の基礎的な研修を実施する。

能楽(三役)研修は、ワキ方・囃子方・狂言方について、基礎研修課程3年、専門研修課程3年、計6年の研修を実施する。

文楽研修においては、太夫・三味線・人形の後継者を養成するため、2年間の基礎的な研修を実施する。

組踊研修は、組踊の保存振興に寄与することを目的とし、将来にわたって継続的に組踊を支えうる、質の高い優れた立方・地方を養成するため、組踊実技を中心にして、琉球舞踊等の副実技、発声訓練等の基礎実技、芸能史等の講義等バランスのとれたカリキュラムを実施する。

### ① 養成研修実績

| 分野             |      | 期数        | 研修期間     | 年度計画 | 研修実績 | うち修了者 |
|----------------|------|-----------|----------|------|------|-------|
| 歌舞伎俳優<br>歌舞伎音楽 | 俳優   | 第28期(2年次) | 2年       | 4名   | 4名   | 4名    |
|                |      | 第29期(1年次) | 2年       | 2名   | 2名   |       |
|                | 長唄   | 第9期(3年次)  | 3年       | 1名   | 0名   |       |
| 大衆芸能           | 太神楽  | 第8期(3年次)  | 3年       | 2名   | 2名   | 2名    |
|                | 寄席囃子 | 休止中       |          |      |      |       |
| 能楽             |      | 第11期(5年次) | 専門研修課程3年 | 3名   | 3名   |       |
|                |      | 第12期(2年次) | 基礎研修課程3年 | 3名   | 3名   |       |
| 文楽             |      | 第33期(1年次) | 2年       | 3名程度 | 2名   |       |
| 組踊             |      | 第7期(2年次)  | 3年       | 9名   | 8名   |       |

- ・国立劇場養成所の研修生に対し臨床心理士によるカウンセリングを定期的実施し、研修生のメンタルヘルスの維持を図った。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大により、授業数の減少などカリキュラムにおいて大きな影響を受けた歌舞伎音楽研修修了者に対し、技芸向上を図るため新たにフォローアップ研修を実施した。
- ・第9期長唄研修生1名が10月に研修を辞退し、以後研修実施なし。
- ・第33期文楽研修生のうち1名が適性審査に不合格のため10月に除籍となった。
- ・第7期組踊研修生のうち1名が再適性審査に不合格のため8月に除籍となった。

### 《適性審査の実施等》

| 区分    | 試験日   | 受験者数 | 合格者数 |
|-------|-------|------|------|
| 歌舞伎俳優 | 9/26  | 2名   | 2名   |
| 文楽    | 10/28 | 3名   | 2名   |
| 組踊    | 8/1   | 1名   | 0名   |

### ② 主な授業等の概要

| 分野    | 合計回数       | 区分  | 回数  | 授業内容  |
|-------|------------|-----|-----|---|
| 歌舞伎俳優 | 第28期       | 実技  | 563 | 歌舞伎実技、立廻り・とんぼ、化粧・衣裳、日本舞踊、義太夫、長唄、鳴物、黒御簾音楽、箏曲 |
|       |            | その他 | 76  | 講義、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、舞台・楽屋実習、発表会ほか        |
|       |            | 合計  | 639 |   |
|       | 第29期       | 実技  | 562 | 歌舞伎実技、立廻り・とんぼ、化粧・衣裳、日本舞踊、義太夫、長唄、鳴物、箏曲       |
|       |            | その他 | 93  | 作法・講義、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、舞台・楽屋実習、発表会ほか     |
|       |            | 合計  | 655 |   |
| 歌舞伎音楽 | 長唄<br>第9期  | 実技  | 51  | 長唄、五線譜、鳴物                                   |
|       |            | その他 | 27  | 作法・講義、公演・稽古見学、あげざらい                         |
|       |            | 合計  | 78  |   |
| 大衆芸能  | 太神楽<br>第8期 | 実技  | 475 | 太神楽、長唄、囃子、寄席囃子、住吉踊り、日本舞踊                    |
|       |            | その他 | 54  | 講義、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、楽屋実習、発表会ほか           |
|       |            | 合計  | 529 |   |

|    |                          |     |       |   |
|----|--------------------------|-----|-------|---|
| 能楽 | 第 11 期<br>第 12 期<br>研究課程 | 実技  | 1,380 | シテ謡、ワキ、笛、小鼓、大鼓、太鼓、狂言                        |
|    |                          | その他 | 332   | 講義、和裁、五館合同特別講義、公演・稽古見学、舞台・楽屋実習、発表会ほか        |
|    |                          | 合計  | 1712  |   |
| 文楽 | 第 33 期                   | 実技  | 275   | 義太夫、義太夫・三味線、三味線、人形実技                        |
|    |                          | その他 | 253   | 箏曲・胡弓、能・狂言、日本舞踊、作法・講義、講義、実習(舞台実習含む)、公演・稽古見学 |
|    |                          | 合計  | 528   |   |
| 組踊 | 第 7 期                    | 実技  | 431   | 組踊実技、副実技(琉球舞踊・箏等)、基礎実技                      |
|    |                          | その他 | 60    | 講義、五館合同特別講義、鑑賞・見学研修等、研修生意見交換会、発表会ほか         |
|    |                          | 合計  | 491   |   |

- ・歌舞伎俳優研修生は、「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」にて舞台実習を実施した。修了後の職場環境や舞台・楽屋における作法等を学ぶことができ、貴重な経験となった。
- ・歌舞伎俳優研修では、11/27 に両国・深川界隈の史跡を巡る部外研修を実施した。事前に歴史文化に関する講義を受けた後、講師の案内により実際に史跡を訪れることで、現代の東京に残る江戸の面影を肌で感じ、歌舞伎や落語作品の理解を深めることができた。
- ・能楽研修では、10/10～11 に愛知・岐阜の謡躰を巡る部外研修を実施した。今年度の発表会で自分たちが出演する曲の謡躰を訪れることで、曲への理解を深めることができた。
- ・組踊研修では、東京で観劇実習を実施した。
- ・伝統歌舞伎保存会、松竹株式会社、太神楽曲芸協会の協力により、研修修了後の就業についてのガイダンスを行うなど、キャリアパスに関する研修を取り入れた。
- ・研修途中での辞退を予防するため、研修生に対し臨床心理士によるメンタルヘルスカウンセリングを定期的に実施し、研修生のメンタル不調の早期発見・早期対応を図った。

#### ◀外部専門家等の意見▶

- ・養成事業委員会を開催した。主な意見は以下のとおり。
  - ◇サポーターは 150 名を超える会員登録があったことが心強い。会員が友人や知人に会員登録を進めたいような運営を行い、より会員が増えることを期待する。サポーターから直接意見を伺うサポーターミーティングも継続して実施してほしい。
  - ◇研修生募集の広報について、説明会や見学会など様々な取り組みをしていることがよくわかった。
  - ◇養成所がアウトリーチ活動等の多くの普及活動により若年層に伝統芸能の魅力を伝え、応募者を増やそうとしていることに感心した。子供たちが伝統芸能に触れる機会を少しでも作る事が、入り口きっかけとして大事。養成所の認知度を高めるためにも今後も続けていただきたい。
  - ◇研修生応募検討者に対するプレ研修や研修修了者に対するフォローアップ研修といった研修の前後の期間を支援する様々な取り組みは、養成所の信頼感を高めることとなり、応募者が減少している今の状況においては必要性が高まっている。
  - ◇プレ研修で一流の講師からいろいろな話を聞き、実際の研修も体験できるのであれば、参加者は応募の意思が強くなるのではないかと。

### ③ 研修発表会の実施

#### (a) 研修発表会

##### ◀研修発表会の実施実績▶

| 区分            | 公演名  | 入場者数    | 入場率   | 入場料収入    |
|---------------|--|---------|-------|----------|
| 歌舞伎俳優<br>大衆芸能 | 第 28 期歌舞伎俳優・第 8 期大衆芸能(太神楽)修了発表会、第 29 期歌舞伎俳優研修発表会(合同) | 134 人   | 34.9% | 0 円      |
| 能楽            | 第 34 回青翔会  | 514 人   | 87.0% | 659 千円   |
| 能楽            | 第 35 回青翔会  | 577 人   | 97.6% | 739 千円   |
| 能楽            | 第 36 回青翔会  | 585 人   | 99.0% | 737 千円   |
| 能楽            | 第 53 回東西合同研究発表会                                      | 155 人   | 34.3% | 0 円      |
| 文楽            | 第 33 期文楽研修発表会  | 139 人   | 87.4% | 0 円      |
| 組踊            | 第 7 期組踊研修生第 3 回研修発表会                                 | 453 人   | 79.9% | 0 円      |
| 組踊            | 第 7 期組踊研修生第 4 回研修発表会                                 | 468 人   | 82.5% | 0 円      |
| 合計            | 8 公演(計画 8 公演)  | 3,025 人 | 69.5% | 2,135 千円 |

・8/27 に実施を予定していた第 53 回東西合同研究発表会は台風接近のため 1/29 に振り替えて実施した。

### 《 研修発表会の公演詳細 》

| 合同研修発表会                               |   |       |     |
|---------------------------------------|---|-------|-----|
| 劇場・日程・回数                              | 国立オリンピック記念青少年総合センター小ホール   | 3/15  | 1 回 |
| 演目等                                   | 日本舞踊「雨の五郎」、日本舞踊「末広狩」、太神楽「曲撥・傘・五階茶碗」、立廻り「歌舞伎の立廻り」、日本舞踊「玉屋」、囃子「祭囃子・寄席囃子」、歌舞伎「双蝶々曲輪日記」八幡の里引窓の場   |       |     |
| 出演者                                   | 第 28・29 期歌舞伎俳優研修生、第 8 期大衆芸能(太神楽)研修生   |       |     |
| 入場料                                   | 無料  |       |     |
| 第 34 回青翔会                             |   |       |     |
| 劇場・日程・回数                              | 能楽堂   | 6/11  | 1 回 |
| 演目等                                   | 舞囃子「竹生島」(宝生流)、舞囃子「生田」(金春流)、舞囃子「富士太鼓」(喜多流)、狂言「二人袴」(大藏流)、能「杜若」(観世流)   |       |     |
| 出演者                                   | 第 11 期研修生、第 8・9・10 期修了者、令和 6 年度研究生  |       |     |
| 入場料                                   | 正面 1,800 円、脇正面 1,200 円(学生 800 円)、中正面 900 円(学生 600 円)  |       |     |
| 第 35 回青翔会                             |   |       |     |
| 劇場・日程・回数                              | 能楽堂   | 10/22 | 1 回 |
| 演目等                                   | 舞囃子「放下僧」(喜多流)、舞囃子「六浦」(金春流)、舞囃子「百万」(観世流)、狂言「呼声」(大藏流)、能「鶉飼」(宝生流)  |       |     |
| 出演者                                   | 第 11 期研修生、第 1・9・10 期修了者、令和 6 年度研究生  |       |     |
| 入場料                                   | 正面 1,800 円、脇正面 1,200 円、中正面 900 円  |       |     |
| 第 36 回青翔会                             |   |       |     |
| 劇場・日程・回数                              | 能楽堂   | 3/25  | 1 回 |
| 演目等                                   | 舞囃子「安宅」(喜多流)、舞囃子「浮舟」(金春流)、舞囃子「海人」(宝生流)、狂言「薩摩守」(大藏流)、能「養老」(観世流)  |       |     |
| 出演者                                   | 第 11 期研修生、第 5・8・9・10 期修了者、令和 6 年度研究生  |       |     |
| 入場料                                   | 正面 1,800 円、脇正面 1,200 円(学生 800 円)、中正面 900 円(学生 600 円)  |       |     |
| 第 53 回東西合同研究発表会※台風接近のため公演中止(1/29 に振替) |   |       |     |
| 劇場・日程・回数                              | 京都観世会館  | 8/27  | 1 回 |
| 演目等                                   | 舞囃子「加茂」(金剛流)、舞囃子「敦盛」(金春流)、能「巴」(観世流)、狂言「土筆」(大藏流)、狂言小舞「宇治の晒」(大藏流)、舞囃子「枕慈童」(金剛流)、舞囃子「花月」(観世流)、狂言小舞「京童」「土車」(大藏流)、舞囃子「船弁慶」(喜多流)、能「車僧」(観世流) |       |     |
| 出演者                                   | 第 11 期研修生、第 7・10 期修了者、令和 6 年度研究生  |       |     |
| 入場料                                   | 無料  |       |     |
| 第 7 期組踊研修生第 3 回研修発表会                  |   |       |     |
| 劇場・日程・回数                              | 国立劇場おきなわ大劇場   | 10/10 | 1 回 |
| 演目等                                   | 組踊「孝行の巻」  |       |     |
| 出演者                                   | 第 7 期研修生ほか  |       |     |
| 入場料                                   | 無料  |       |     |
| 第 7 期組踊研修生第 4 回研修発表会                  |   |       |     |
| 劇場・日程・回数                              | 国立劇場おきなわ大劇場   | 3/6   | 1 回 |
| 演目等                                   | 組踊「銘苺子」   |       |     |
| 出演者                                   | 第 7 期研修生ほか  |       |     |
| 入場料                                   | 無料  |       |     |

・各分野で研修発表会を開催し、研修の成果を示すことができた。

### 《 研修発表会の公演周知 》

- ・振興会ホームページ、SNS に公演情報や出演者のコメントを投稿した。
- ・振興会出版物(あぜくら会報、月刊国立能楽堂、国立劇場おきなわ友の会会報)に公演情報を掲載した。
- ・新聞等への公演情報掲載、テレビ、ラジオ放送による公演情報及び養成事業の周知を行った。

### (b) その他の発表会等

| 区分 | 公演名  | 劇場                              | 日程   | 内容   |
|----|--|---------------------------------|------|--|
| 長唄 | 第 28 期・第 29 期歌舞伎俳優・第 9 期歌舞伎音楽(長唄)・第 8 期大衆芸能(太神楽)研修 | 国立オリンピック記念青少年総合センターカルチャー棟中練習室41 | 5/15 | ○第 8 期大衆芸能(太神楽)研修生<br>長唄「越後獅子」<br>指導者: 今藤長十郎、今藤郁子、今藤美治郎<br>○第 28 期歌舞伎俳優研修生<br>長唄「都鳥」 |

|            |  |   |      |   |
|------------|--|---|------|---|
|            | あげざらい  |   |      | 指導者:今藤長十郎、今藤郁子、今藤美治郎<br>○第9期歌舞伎音楽(長唄)研修生<br>「チャンチキおけさ」、三絃二重奏曲「太鼓の曲」<br>指導者: 柘屋巳織  |
| 歌舞伎        | 第28期・第29期<br>歌舞伎俳優研修<br>あげざらい                      | 国立オリンピック記念<br>青少年総合センター<br>カルチャー棟<br>中練習室41 | 9/25 | ○第28期・第29期歌舞伎俳優研修生<br>歌舞伎「仮名手本忠臣蔵」山崎街道鉄砲渡しの場・同 二つ玉の場<br>指導者: 中村萬壽、中村芝翫<br>○第28期歌舞伎俳優研修生<br>日本舞踊「関三奴」<br>指導者: 藤間勘喜郎、藤間涼花   |
| 歌舞伎<br>太神楽 | 第28期・第29期<br>歌舞伎俳優・<br>第8期大衆芸能<br>(太神楽)研修<br>あげざらい | 国立オリンピック記念<br>青少年総合センター<br>カルチャー棟<br>リハーサル室 | 1/23 | ○第28期・第29期歌舞伎俳優研修生<br>歌舞伎「仮名手本忠臣蔵」山崎街道鉄砲渡しの場・同 二つ玉の場<br>指導者: 中村萬壽、中村芝翫<br>○第8期大衆芸能(太神楽)研修生<br>「太神楽」<br>指導者: 鏡味繁二郎、鏡味仙志郎   |
| 能楽         | 令和6年度<br>第1回稽古会                                    | 能楽堂   | 4/22 | 素謡「経正」(観世流)、袴狂言「柑子」(大藏流)、舞囃子「弓八幡」(喜多流)、<br>舞囃子「藤」(宝生流)、舞囃子「桜川」(金春流)、袴能「花月」(観世流)<br>指導者: 観世清和・金春安明・友枝昭世ほか<br>出演者: 第11・12期研修生、第5・8・9・10期修了者、令和6年度研究生                                |
| 能楽         | 令和6年度<br>第2回稽古会                                    | 能楽堂   | 7/22 | 素謡「鶴亀」(観世流)、連吟「羽衣」(観世流)、袴狂言「盆山」(和泉流)、<br>舞囃子「難波」(金春流)、舞囃子「経正」(観世流)、舞囃子「吉野天人」<br>(観世流)、舞囃子「是界」(宝生流)、袴能「敦盛」(喜多流)<br>指導者: 観世清和、金春安明、友枝昭世ほか<br>出演者: 第11・12期研修生、第5・8・9・10期修了者、令和6年度研究生 |
| 能楽         | 令和6年度<br>第3回稽古会                                    | 能楽堂   | 1/20 | 狂言小舞「名取川」(和泉流)、舞囃子「養老」(観世流)、舞囃子「田村」(宝生流)、<br>舞囃子「松風」(喜多流)、舞囃子「玄象」(観世流)、袴能「巻絹」(金春流)<br>指導者: 観世清和、金春安明ほか<br>出演者: 第11・12期研修生、第8・9・10期修了者、令和6年度研究生                                    |

#### ④ 次年度の研修生募集

| 区分            | 選考日  | 応募者数 | 受験者数 | 合格者数 |
|---------------|------|------|------|------|
| 第30期歌舞伎俳優     | 2/15 | 2名   | 2名   | 2名   |
| 第26期歌舞伎音楽(竹本) | 2/21 | 1名   | 1名   | 1名   |
| 第19期歌舞伎音楽(鳴物) | 2/19 | 2名   | 2名   | 2名   |
| 第10期歌舞伎音楽(長唄) | -    | -    | -    | -    |
| 第9期大衆芸能(太神楽)  | 2/28 | 2名   | 2名   | 2名   |
| 第34期文楽        | 1/27 | 2名   | 2名   | 2名   |

- ・第10期歌舞伎音楽(長唄)研修は、1名より願書の提出があったが、高校進学のため今期は辞退することとなった。それに伴い募集期間を令和7年3月31日まで延長したが、応募はなかった。
- ・第34期文楽研修生の二次募集に応募はなかった。

#### ⑤ 研修修了者の動向把握等

《伝承者の現況(令和6年4月1日現在)》

| 分野         | 研修修了者総数<br>(A) | 研修修了者のうち<br>現在従事者数(B) | 伝承者総数<br>(C) | 研修修了者の<br>占める割合(B/C) |
|------------|----------------|-----------------------|--------------|----------------------|
| 歌舞伎俳優      | 194人           | 99人                   | 293人         | 33.8%                |
| 歌舞伎音楽(竹本)  | 46人            | 32人                   | 37人          | 86.5%                |
| 歌舞伎音楽(鳴物)  | 26人            | 15人                   | 39人          | 38.5%                |
| 歌舞伎音楽(長唄)  | 13人            | 11人                   | 44人          | 25.0%                |
| 大衆芸能(寄席囃子) | 49人            | 27人                   | 28人          | 96.4%                |
| 大衆芸能(太神楽)  | 15人            | 11人                   | 24人          | 45.8%                |
| 能楽         | 40人            | 31人                   | 356人         | 8.7%                 |
| 文楽         | 79人            | 48人                   | 83人          | 57.8%                |
| 組踊         | 57人            | 56人                   | 279人         | 20.1%                |

《受賞等》

・第6期能楽(三役)研修修了者の加藤洋輝が、西尾市文化賞を受賞した。

### 《主催公演への出演》

・国立劇場、国立能楽堂及び国立文楽劇場の主催公演に研修修了者が多数出演した。

### 《その他》

・第5期大衆芸能(太神楽)研修修了者の鏡味千代が、出身地である山梨県山中湖村の観光大使に任命された。

### ⑥ 養成研修制度の在り方に関する検討等

・研修生応募者が減少する中、意欲のある研修生を確保するため、伝統芸能に関心を持つ学生等が養成所に入所する前に、学業などと並行して基礎的な研修を受講することができる予科制度の設置を検討し、将来的な本格的実施に向けた調査のため、プレ研修として歌舞伎音楽分野で試行的に実施した。公募した竹本、鳴物、長唄の3コースにおいて研修生応募検討者4名が受講し、延べ14日間の研修を行った。

## イ 既成者研修の実施

### 《研修方針》

研修修了者の技芸の一層の向上を図るとともに、就業者としての意識の向上を促すため、既成者研修発表会等の公演を行う。さらに、既成者の技芸の向上のため、必要に応じて各種研修を適宜実施する。

### ① 既成者研修発表会の実施

| 区分    | 公演名                  | 入場者数   | 入場率   | 入場料収入    |
|-------|----------------------|--------|-------|----------|
| 歌舞伎俳優 | 稚魚の会・歌舞伎会合同公演        | 2,683人 | 69.4% | 10,985千円 |
| 歌舞伎俳優 | 上方歌舞伎会               | 1,914人 | 70.7% | 8,042千円  |
| 歌舞伎音楽 | 音の会                  | 328人   | 42.2% | 1,194千円  |
| 能楽    | 第33回能楽若手研究会 京都公演 若手能 | 370人   | 81.9% | 985千円    |
| 能楽    | 第33回能楽若手研究会 大阪公演 若手能 | 393人   | 87.7% | 1,001千円  |
| 能楽    | 第33回能楽若手研究会 東京公演 若手能 | 623人   | 99.4% | 1,746千円  |
| 文楽    | 文楽若手会                | 948人   | 64.8% | 2,519千円  |
| 文楽    | 若手素浄瑠璃の会             | -      | -     | -        |
| 組踊    | 第14回若手伝承者公演          | 318人   | 63.7% | 441千円    |
| 合計    | 8公演(計画9公演)           | 7,577  | 69.9% | 26,913千円 |

・「若手素浄瑠璃の会」は、出演予定者が、文楽協会の巡業等、他公演のスケジュールと重なったことにより実施を見送った。

### 《既成者研修発表会の公演詳細》

| 稚魚の会・歌舞伎会合同公演        |   |           |    |  |
|----------------------|---|-----------|----|--|
| 劇場・日程・回数             | 浅草公会堂   | 8/15~8/18 | 4回 |  |
| 演目等                  | 「傾城反魂香」土佐将監閑居の場、「太刀盗人」、「乗合船恵方萬歳」                                      |           |    |  |
| 出演者                  | 中村吉兵衛、中村竹蝶、大谷桂太郎、市川新次、中村春希ほか  |           |    |  |
| 入場料                  | 一般(1等)5,000円、(2等)4,000円、(3等)3,000円、学生(1等)3,500円、(2等)2,800円、(3等)2,100円 |           |    |  |
| 上方歌舞伎会               |   |           |    |  |
| 劇場・日程・回数             | 文楽劇場  | 8/24~8/25 | 4回 |  |
| 演目等                  | 「荒れねずみ」、「恋飛脚大和往来 封印切」   |           |    |  |
| 出演者                  | 片岡松十郎、片岡千壽、片岡千次郎、片岡りき彌、中村翫政、上村吉太郎ほか                                   |           |    |  |
| 入場料                  | 一般 4,700円、学生 3,300円   |           |    |  |
| 音の会                  |   |           |    |  |
| 劇場・日程・回数             | 浅草公会堂   | 8/8       | 1回 |  |
| 演目等                  | 長唄「多摩川」、鳴物長唄「操り三番叟」、長唄「矢の根」、義太夫「五條橋」                                  |           |    |  |
| 出演者                  | 田中傳左衛門社中、鳥羽屋三右衛門社中、尾上菊五郎劇団音楽部長唄、竹本連中ほか                                |           |    |  |
| 入場料                  | 一般 4,000円、学生 2,800円   |           |    |  |
| 第33回能楽若手研究会 京都公演 若手能 |   |           |    |  |
| 劇場・日程・回数             | 京都観世会館  | 6/22      | 1回 |  |

|                        |  |           |     |
|------------------------|--|-----------|-----|
| 演目等                    | 能「敦盛」(金剛流)、舞囃子「井筒」(観世流)、狂言「太刀奪」(大藏流)、能「葵上」(観世流)            |           |     |
| 出演者                    | 山田伊純、鈴木実、宮本茂樹ほか  |           |     |
| 入場料                    | 前売 3,200 円、当日 3,500 円、学生 1,700 円                           |           |     |
| 第 33 回能楽若手研究会 大阪公演 若手能 |  |           |     |
| 劇場・日程・回数               | 大槻能楽堂  | 2/1       | 1 回 |
| 演目等                    | 能「芦刈」(観世流)、狂言「魚説経」(大藏流)、能「大会」(金春流)                         |           |     |
| 出演者                    | 笠田祐樹、善竹忠亮、金春飛翔ほか   |           |     |
| 入場料                    | 前売 3,200 円、当日 3,500 円、学生 1,700 円                           |           |     |
| 第 33 回能楽若手研究会 東京公演 若手能 |  |           |     |
| 劇場・日程・回数               | 能楽堂  | 2/15      | 1 回 |
| 演目等                    | 能「祇王」(宝生流)、狂言「鐘の音」(和泉流)、能「殺生石」(観世流)                        |           |     |
| 出演者                    | 亀井雄二、三宅近成、青木健一ほか   |           |     |
| 入場料                    | 正面 3,500 円、脇正面 3,000 円(学生 2,100 円)、中正面 2,300 円(学生 1,700 円) |           |     |
| 文楽若手会                  |  |           |     |
| 劇場・日程・回数               | 文楽劇場   | 6/22～6/23 | 2 回 |
| 演目等                    | 「源平布引滝」九郎助住家の段、「菅原伝授手習鑑」寺入りの段・寺子屋の段、「五条橋」                  |           |     |
| 出演者                    | 豊竹芳穂太夫、鶴澤清丈、吉田文哉ほか   |           |     |
| 入場料                    | 3,300 円  |           |     |
| 第 14 回若手伝承者公演          |  |           |     |
| 劇場・日程・回数               | 国立劇場おきなわ大劇場  | 11/30     | 1 回 |
| 演目等                    | 琉球舞踊「作田」「ゼイ」「取納奉行」、組踊「雪払い」                                 |           |     |
| 出演者                    | 第 6 期研修修了生ほか   |           |     |
| 入場料                    | 2,000 円  |           |     |

- ・株式会社イヤホンガイドの協力により、スマートフォンアプリを利用した公演解説(英語)及び字幕ガイド(日本語)を試行的に実施し、希望者へ無料で提供した(合同公演)。

#### 《既成者研修発表会の公演周知》

- ・振興会ホームページ、SNS 及び外部のホームページや SNS 等に公演情報を掲載した。
- ・振興会出版物(あぜくら会報、月刊国立能楽堂、文楽劇場友の会会報、国立劇場おきなわ友の会会報)に公演情報を掲載した。
- ・新聞・雑誌等への公演情報掲載、ラジオ放送による公演周知を行った。
- ・振興会外部の劇場等にチラシ・ポスター等を配布・掲出した。
- ・台東区との連携協力として区民割引販売、区民親子招待、チラシの配布等を実施した(合同公演、音の会)。
- ・浅草観光連盟との広報協力により仲見世商店街等で公演を周知した(合同公演)。
- ・公演初日の前日及び公演期間中、TKTS(ディスカウントチケットストア)でチケットを販売した(合同公演、音の会)。
- ・外国人観光客向けに英語チラシを作成し、浅草近辺の宿泊・観光施設に配布した(合同公演、音の会)。
- ・公演初日の前日、前々日にわたり会場周辺で出演者によるチラシ配布を実施した(合同公演)。

#### ② 能楽研究課程の開講

- ・能楽の既成者研修として、研修修了者と能楽師子弟を対象に研究課程を開講し、研究生 44 名が受講した(実施回数:350 回)。研究課程では、若手能楽師が専門以外の副科(シテ謡・笛・小鼓・大鼓・太鼓)を受講し、稽古会や青翔会の出演機会においては、他役・他流儀との交流を通じて研鑽を積んだ。

### ウ 伝統芸能の伝承者の養成の実施に当たっての留意事項

#### ① 修了者の活動状況等、養成事業の周知

##### 《SNS 等登録者数》

| 区分  | Instagram  | TikTok  | X(旧 Twitter) |
|-----|------------|---------|--------------|
| 養成所 | 833 (+249) | 75 (+9) | 2,170 (+293) |

※( )内の数値は前年度からの増減。

##### 《インターネットの活用》

- ・振興会ホームページ、国立劇場養成所の SNS を活用した。  
  - ◇養成事業・研修発表会の情報や研修事業紹介映像を掲載した。

◇SNSについては、国立劇場養成所のアカウントから本館・能楽堂・文楽劇場の養成研修を一体的に情報発信した。

・外部のホームページやSNSを活用した。

◇高校生を対象とした進学情報サイトに養成所紹介情報を掲載した。

#### 《劇場内における周知》

・公演期間中、劇場ロビーにて養成事業紹介パンフレット・ポスター・チラシ等を掲出・配布し、養成事業を紹介する映像上映やパネル設置を行った。

・国立劇場おきなわの劇場ロビーで、研修発表会(入場料無料)の公演日前月に第7期組踊研修生が入場整理券を配布すると共に、研修風景を張り出したボードを設置し、来館者に研修事業の紹介をした(2公演。配布実績約190名、560枚以上)。

#### 《劇場外における周知》

・国立青少年機構との相互連携協定に基づき、同機構主催イベントにて事業周知を行った。

・国立オリンピック記念青少年総合センターカルチャー棟ロビーに研修生募集ポスターを掲出し、養成事業紹介パンフレット、募集チラシ等を配架した。

・ラジオでの放送、新聞・雑誌等への記事掲載を行った。

・新たに養成事業紹介映像を作成し、振興会ホームページ、SNS、各種公演やイベントの会場等で上映した。

・その他全国各地における各種公演やイベント等で広報ブースを出展、チラシ・パンフレット等を掲出・配布した。

◇「第25回日本こども歌舞伎まつり in 小松」において広報ブースを出展

◇全国高等学校総合文化祭のうち日本音楽、演劇、吟詠剣詩舞、郷土芸能の各部門で広報ブースを出展

◇一般社団法人伝統歌舞伎保存会主催「小学生のための歌舞伎体験教室発表会」のプログラムのなかで養成事業を紹介、同会場ロビーに広報ブースを出展

◇全校高等学校総合文化祭優秀校東京公演に広報ブースを出展

◇全国高校生伝統文化フェスティバルにおいて広報ブースを出展

◇各都道府県・地域の高等学校総合文化祭にてチラシ・パンフレット等を配布

◇全国地芝居サミット in おがのにおいて広報ブースを出展、交流会参加者へ広報を行う

◇清流の国ぎふ地芝居・伝統芸能フェスティバルにてチラシを配布

#### 《調査》

・愛知県「知立の山車文楽とからくり」、熊本県の「清和文楽」など、地方の民俗芸能継承団体に対し養成所の事業を紹介し、今後の連携協力について意見交換を行った。

・関係団体及び各都県の高等学校文化連盟、関東近県の高等学校を訪問し、養成所の事業を紹介するとともに研修生募集広報の協力を依頼した。

・全国高等学校文化連盟の実務担当者会議に出席し、国立劇場養成所の事業を紹介するとともに、各都道府県総合文化祭等における研修生募集広報の依頼を行った。

## ② 全国の文化施設、学校等と協力した研修修了者による普及事業

### 《普及活動の実施実績》

| 分野   | 実施回数 | 参加者数   |
|------|------|--------|
| 歌舞伎  | 1件   | 12人    |
| 大衆芸能 | 3件   | 494人   |
| 能楽   | 12件  | 1,470人 |
| 文楽   | 2件   | 119人   |
| 組踊   | 13件  | 1,067人 |

・若年層やその保護者を対象として、実際に体験して伝統芸能をより身近に感じる機会としてワークショップ「伝統芸能体験教室」を実施した(歌舞伎音楽1回、文楽1回、能楽2回。参加者数のべ92名)。

・国立青少年教育振興機構との相互連携協定に基づく普及事業を実施した。

◇「春のキッズフェスタ2024」(5/25。同機構が主催する若年層を対象とする体験活動)

➢大衆芸能(太神楽)研修講師等の協力により太神楽の体験プログラム「やってみる 太神楽～春のキッズフェスタ特別編～」を実施(参加者数63名)

◇「秋のキッズフェスタ2024」(10/5。同機構が主催する若年層を対象とする体験活動)

➢文楽研修講師であり第3期修了者の吉田襄二郎の協力により、文楽の体験プログラム「文楽人形

に親しもう！」を実施(参加者数 100 名)

◇「サマースクール in オリセン」(8/9。同機構が主催する若年層を対象とする体験活動)

▶ 能楽(三役)の研修修了者を講師に招き、狂言の体験教室を実施(参加者数 21 名)

- ・お茶の水女子大学共同プロジェクト「日本の伝統芸能講座」にて、大衆芸能(太神楽)研修修了者および能楽(三役)研修修了者等による体験ワークショップを実施した。
- ・江東区と連携し、区立小学校 4 校において太神楽の分野でアウトリーチ事業を実施した。

### ③ 研修生募集の周知

#### ◀ 研修見学会・個別相談の実施実績 ▶

| 分野                | 実施回数 | 参加者数 |
|-------------------|------|------|
| 歌舞伎・大衆芸能・<br>文楽合同 | 1 件  | 7 人  |
| 歌舞伎               | 5 件  | 22 人 |
| 文楽                | 5 件  | 29 人 |

- ・養成事業の説明と実際の研修状況を見学してもらう研修見学会や個別相談を実施した。
- ・歌舞伎・太神楽・文楽合同での研修見学会を実施した。

#### ◀ 養成事業の周知・研修生募集等に関する映像配信 ▶

| 実績   |         | 前年同期実績 |         |
|------|---------|--------|---------|
| 配信件数 | 視聴回数    | 配信件数   | 視聴回数    |
| 3 件  | 3,463 回 | 3 件    | 5,114 回 |

- ・SNS で研修風景映像や研修紹介映像等を配信した。

#### ◀ インターネットの活用 ▶

- ・振興会ホームページや国立劇場養成所の SNS 等を活用した。
  - ◇ ホームページに、研修生募集ページにリンクしたバナー広告を掲出した。
  - ◇ SNS で研修風景映像や研修紹介映像等を配信した。
- ・外部のホームページや SNS 等に養成所紹介・研修生募集情報等を掲載した。
  - ◇ 研修生募集対象年齢及び親世代を対象に Google ディスプレイ広告を出稿した。
  - ◇ 情報配信サイト PRTIMES においてプレスリリースを配信した。
  - ◇ 高校生を対象とした進学情報サイトに養成所紹介・研修生募集情報を掲載し、メール配信を実施した。
  - ◇ 文化庁、文部科学省、公益財団法人文楽協会、伝統歌舞伎保存会のホームページ・メールマガジン等に、研修生募集情報や研修生募集ホームページにリンクしたバナー広告を掲出した。
  - ◇ 文部科学省初等中等教育局「教育委員会月報」に研修生募集記事を掲載した。
  - ◇ 歌舞伎公式ホームページ「Kabuki on the web」、能狂言ポータルサイト「KENSYO」の SNS、メールマガジンに研修生募集及び研修見学会の情報を掲載した。

#### ◀ 学校での周知 ▶

- ・伝統芸能コースがある大阪府立東住吉高校で、文楽の実演付きの特別授業「独立行政法人日本芸術文化振興会の業務と意義」を実施した。
- ・学校での周知協力を依頼した(7 校：横浜山手中華学校、日本工学院専門学校、東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校、山梨県立甲府西高等学校、山梨県立わかば支援学校、埼玉県立浦和第一女子高等学校、埼玉県立芸術総合高等学校)。

#### ◀ その他の周知 ▶

- ・一般社団法人伝統歌舞伎保存会主催「小学生のための歌舞伎体験教室発表会」のプログラム内で、養成所紹介及び研修生募集告知のプレゼンテーションを実施。会場ロビーにおいて広報ブースを出展、研修生募集チラシ・ポスターを掲示、研修紹介映像を上映した(8/24)。
- ・任期制退職予定自衛官を対象とした合同企業説明会に参加し、研修生募集告知を行った(8/30)。
- ・外部のイベント等に参加して周知を行った。
  - ◇ 全国地芝居サミット in おがの(10/20～21、埼玉県秩父郡小鹿野町)
  - ◇ 全国高校生伝統芸能フェスティバル(12/15、京都コンサートホール)
- ・新聞・雑誌への募集案内掲載、テレビ・ラジオでの放送による周知を行った(9 件)。
- ・公演プログラム等に研修生募集広告を掲載した。
  - ◇ 振興会主催の文楽公演

- ◇あぜくら会報
- ◇歌舞伎座十二月大歌舞伎公演
- ・チラシ・ポスター等による周知を行った。
  - ◇歌舞伎俳優・歌舞伎音楽・大衆芸能・文楽研修生の合同募集チラシ・ポスターを作成し、各劇場に掲出した。
  - ◇振興会外の公演等で募集チラシを配布
    - 歌舞伎座
    - 松竹大歌舞伎巡業公演
    - 全国各地の文楽関連公演等
    - 外部団体主催の伝統芸能公演、発表会、展示会等
    - 各都道府県・地域の高等学校総合文化祭
  - ◇DMの発送
    - 高等学校、芸術系大学・専門学校、公共ホール、図書館、各高校文化連盟、楽器店、カルチャーセンター、ユネスコ無形遺産登録団体、地芝居団体、報道機関等(2,645件)
    - 7年度の国立劇場鑑賞教室公演案内に募集チラシを同封(10,796件)
    - 国立劇場キャンパスメンバーズ入会案内及び会員校定期DMに募集チラシを同封(1,436件)
  - ◇関連団体による周知協力
    - 全日本郷土芸能協会の会報誌に募集チラシを同封
    - こども歌舞伎スクール寺子屋
    - 清和文楽館
    - 板橋区立郷土芸能伝承館

#### ④ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義

- ・五館合同講義、研修生交流会を12/3に開催し、伝統芸能分野と現代舞台芸術の共同研修を実施した(参加者数：伝統芸能・現代舞台芸術の全分野の研修生59名)。

|      |               |
|------|---------------|
| 講師   | 大倉源次郎(能楽小鼓方)  |
| 講義内容 | 「良き舞台人になるために」 |
| 会場   | 国立能楽堂         |

#### ⑤ 再整備後を見据えた伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の養成・研修事業の在り方の検討[⑤]

- ・新国立劇場の研修公演、振興会の研修公演及び主催公演において、双方の研修生に対して鑑賞機会を提供することで相互交流の深化を図った。

#### ⑥ 外部研修への協力、舞台技術に関する安全管理等についての技術講習会実施に向けた試行的取組

- ・舞台技術職員を対象に技術向上ならびに講習会実施におけるスキルを学ぶため、法定教育及び外部の舞台技術講習会の受講を推進した。

<法定教育>

- ◇テールゲートリフター特別教育(6/5～11/9。21名)
- ◇足場の組立て等作業従事者特別教育(8/3。2名)
- ◇フルハーネス型墜落制止用器具特別教育(8/20・8/27。2名)

<外部の舞台技術講習会>

- ◇KAAT・東京芸術劇場主催舞台技術講座「舞台演出における無線制御と関連法令『技適』って何？」(1/21。1名)
- ◇全公文関東甲信越静支部主催舞台技術研修会「LED照明改修におけるフローとその効果について」(2/12。1名)

- ・舞台技術職員を対象に安全教育ならびに講習会実施におけるスキルを学ぶため、中央労働災害防止協会から講師を招き劇場安全講習会を3/3に開催した。
- ・昨年度に引き続き、全国の会館等で伝統芸能の上演を安全に実施する際の手引きとして「国立劇場の舞台技術—伝統芸能の上演のために—」を振興会ホームページの専用ページにて公開した。

### 3-(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

#### 《中期計画の概要》

#### 3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

##### (2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

高い技術と豊かな芸術性を備えた実演家等を育成するため、実演家等の研修を実施

ア 民間団体の役割を踏まえつつ、研修環境のさらなる充実を図ることで優れたアーティストが切磋琢磨する環境を醸成し、グローバルな視点に立った体系的なカリキュラム等により、安定的、継続的に実演家を育成  
外部専門家等の意見聴取、成果の検証を行い、長期的視点を踏まえて対象とする分野、人数等について不断の見直しを実施

イ オペラ研修及びバレエ研修については、国際的な活躍が期待できる水準の実演家の育成を目標とし、演劇研修については、確かな演技力等を備えた次代の演劇を担う実演家の育成を目標として、第一線で活躍する各分野の専門家等を講師とし、実践的・体系的なカリキュラムにより研修を実施

① オペラ研修(研修期間3年間)

② バレエ研修(研修期間2年間)

③ 演劇研修(研修期間3年間)

##### (3) 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項

ア 研修事業に関する国民の関心の喚起、理解促進のため、ホームページ、SNS等を活用して研修修了者の活動状況等を分かりやすく示すなど、広報活動を充実

イ 学校等との連携による研修成果の活用及び研修生・研修修了者等が実演経験を積む機会の充実のための児童・生徒等の体験学習や劇場外における様々な文化普及活動への積極的参画

ウ 効果的かつ効率的な募集活動、研修見学会等について検討

エ 国立劇場再整備後を見据えた伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の養成・研修事業の在り方の検討

オ 新国立劇場等の人材や施設を活用した公演制作者や舞台技術者等の実地研修等の受入れ、協力、舞台技術に関する安全管理等についての技術講習会実施に向けた検討

#### 《年度計画の概要》

#### 3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

##### (2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

##### ア 研修の実施

民間団体の役割を踏まえつつ、グローバルな視点に立った体系的なカリキュラム等により、安定的、継続的に実演家の育成を行うよう留意

バレエ研修については、より優れたトップアーティストを育成するための一貫した研修実施を目的として、令和6年度より研修体系を変更し、本科と基礎科を設置

舞台芸術グローバル拠点事業を推進、海外研修・夏期研修の充実、稽古場や講師の確保等により研修所入所希望者の増加を図る

・海外研修の実施回数:3回(オペラ研修2回、バレエ研修1回)

・夏期研修の実施回数:1回(バレエ研修1回)

・令和7年度の研修所入所希望者の応募倍率(応募者数÷合格者数):オペラ研修10倍、バレエ研修8倍、演劇研修4倍(平成30年度～令和4年度の平均)以上【モニタリング指標】

・令和12年度までに新国立劇場バレエ団内における団員の入団前所属経験割合が、新国立劇場バレエ研修所50%、海外バレエ関係(バレエ団、教室等)45%、国内バレエ関係(バレエ団、付属研究所等)35%となるよう目指す。【モニタリング指標】

外部専門家等の意見を聴取し、研修修了者の動向把握等による成果の検証を行い、長期的視点を踏まえて対象とする分野、人数等について不断の見直しを実施

① オペラ研修(研修期間3年)

(a) 第25期生(5名)の3年目の研修(修了)

(b) 第26期生(4名)の2年目の研修

(c) 第27期生(5名)の1年目の研修

(d) 第28期生(5名程度)の募集

(e) 研修発表会等を別表8のとおり実施

- ② パレエ研修(研修期間本科4年、基礎科1年)
  - (a) 本科第20期生(5名)の4年目(後期課程2年目)の研修(修了)
  - (b) 本科第21期生(8名)の3年目(後期課程1年目)の研修
  - (c) 本科第22期生(2名)の2年目(前期課程2年目)の研修
  - (d) 本科第23期生(8名)の1年目(前期課程1年目)の研修
  - (e) 本科第22期生(10名程度)の募集
  - (f) 本科第24期生(8名程度)の募集
  - (g) 基礎科の研修及び募集(15名程度)
  - (h) 研修発表会等を別表8のとおり実施
- ③ 演劇研修(研修期間3年)
  - (a) 第18期生(10名)の3年目の研修(修了)
  - (b) 第19期生(12名)の2年目の研修
  - (c) 第20期生(12名)の1年目の研修
  - (d) 第21期生(16名程度)の募集
  - (e) 研修発表会等を別表8のとおり実施
  - (f) 修了後の幅広い活躍を目標とし、5月～6月に国内研修を実施
- イ 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項
  - ① 研修事業についての国民の関心の喚起、理解促進を図るため、ホームページ、SNS等を活用して研修修了者の活動状況等を分かりやすく示すなど、広報活動を充実
  - ② 学校等との連携による研修成果の活用及び研修生等が実演経験を積む機会の充実を図るため、様々な文化普及活動への参画に努める
  - ③ 研修生募集について、ホームページでの告知、研修紹介映像の活用、研修説明会・見学会の実施等により周知し、応募者の確保に努める
  - ④ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義を実施し両分野の相互交流を図る
  - ⑤ 国の文化芸術に関する施策との連携に留意しつつ、新国立劇場等の人材や施設を活用し、外部研修への協力等に努める

## ア 安定的、継続的な実演家の育成

### 《研修方針》

オペラ研修所では、プロのオペラ歌手としての舞台活動を目指している人のために、国際的なレベルの研修を行うことを目的として、3年制の研修を行う。各種音楽レッスンを行うほか、語学、演技、発声法等、オペラ歌手として必要な技能を総合的に研修する。また、コンサート、試演会、春公演等聴衆を意識した演奏や舞台経験を積み、新国立劇場主催公演への出演をはじめ、海外歌劇場の舞台に立てる人材育成を目指す。

バレエ研修所ではプロのダンサーを目指す人のために、ダンサーとして必要な技能の研鑽、知識と教養の付与及び舞台実習を行うことを目的として、4年制の研修を行う。また、研修所入所前に受講できる基礎強化を目的とした、基礎科を開講する。

演劇研修所は、明晰な日本語を使いこなし、柔軟で強度のある精神と身体を備えた次世代の演劇界を担える人材の育成を目的として、3年制の研修を行う。1、2年次は基礎的俳優訓練とともに、第一線の演出家や俳優指導の専門家を軸とする講師陣によるクリエイション演習、シーンスタディを展開し、3年次には修了公演に向けて数本の舞台実習公演を行う。

### ① 研修実績

| 分野    | 期数              | 研修期間 | 年度計画 | 研修実績 | うち修了及び受講終了者 |
|-------|-----------------|------|------|------|-------------|
| オペラ   | 第25期(3年次)       | 3年   | 5名   | 5名   | 5名          |
|       | 第26期(2年次)       |      | 4名   | 4名   |             |
|       | 第27期(1年次)       |      | 5名   | 5名   |             |
| バレエ本科 | 第20期(後期課程)(4年次) | 2年   | 5名   | 5名   | 5名          |
|       | 第21期(後期課程)(3年次) |      | 8名   | 8名   |             |
|       | 第22期(前期課程)(2年次) |      | 2名   | 2名   |             |
|       | 第23期(前期課程)(1年次) |      | 8名   | 8名   |             |
| 演劇    | 第18期(3年次)       | 3年   | 10名  | 10名  | 10名         |
|       | 第19期(2年次)       |      | 12名  | 12名  |             |
|       | 第20期(1年次)       |      | 12名  | 11名  |             |

- ・バレエ研修所では基礎科を設け、週2回程度の「ジュニアクラス」を実施した(3月末時点で21名が参加)。
- ・第20期演劇研修生が10月末で1名退所となった。

### ② 主な授業等の概要

| 分野    | 期数   | 区分  | 合計回数 | 授業内容   |
|-------|------|-----|------|--|
| オペラ   | 第25期 | 実技  | 683  | 実技:<br>オペラ実習、身体表現<br>座学:<br>特別講義(サロン)、五館合同特別講義、語学(英語、イタリア語、ドイツ語)<br>その他:<br>舞台実習、舞台鑑賞    |
|       |      | 座学  | 117  |  |
|       |      | その他 | 19   |  |
|       |      | 合計  | 819  |  |
|       | 第26期 | 実技  | 601  |  |
|       |      | 座学  | 108  |  |
|       |      | その他 | 19   |  |
|       |      | 合計  | 728  |  |
|       | 第27期 | 実技  | 701  |  |
|       |      | 座学  | 115  |  |
|       |      | その他 | 18   |  |
|       |      | 合計  | 834  |  |
| バレエ本科 | 第20期 | 実技  | 505  | 実技:<br>クラシカル・バレエ、身体表現ほか<br>座学:<br>講義、特別講義(サロン)、五館合同特別講義、語学(英語)<br>その他:<br>舞台実習、舞台鑑賞、特別講習 |
|       |      | 座学  | 48   |  |
|       |      | その他 | 69   |  |
|       |      | 合計  | 622  |  |
|       | 第21期 | 実技  | 544  |  |
|       |      | 座学  | 53   |  |
|       |      | その他 | 51   |  |
|       |      | 合計  | 648  |  |

|    |        |     |     |   |
|----|--------|-----|-----|---|
|    | 第 22 期 | 合計  | 648 | 実技：<br>演劇実習、演技/シーンスタディ、声、身体表現、テクニクほか<br>座学：<br>講義、特別講義、五館合同特別講義、戯曲研究/戯曲をよむほか<br>その他：<br>アウトリーチ、国内研修、美術、観劇、見学、公演スタッフ研修ほか |
|    |        | 実技  | 475 |   |
|    |        | 座学  | 45  |   |
|    |        | その他 | 38  |   |
|    | 合計     | 558 |     |   |
|    | 第 23 期 | 実技  | 533 |   |
|    |        | 座学  | 43  |   |
|    |        | その他 | 36  |   |
| 合計 |        | 612 |     |   |
| 演劇 | 第 18 期 | 実技  | 164 |   |
|    |        | 座学  | 8   |   |
|    |        | その他 | 58  |   |
|    |        | 合計  | 230 |   |
|    | 第 19 期 | 実技  | 326 |   |
|    |        | 座学  | 4   |   |
|    |        | その他 | 101 |   |
|    |        | 合計  | 431 |   |
|    | 第 20 期 | 実技  | 316 |   |
|    |        | 座学  | 36  |   |
|    |        | その他 | 91  |   |
|    |        | 合計  | 443 |   |

- ・第一線で活躍する講師陣のもと、実践的・体系的なカリキュラムによって研修を実施した。その成果は、発表会、試演会、修了公演等で広く示され、観客及び専門家から高い評価を得ることができた。
- ・海外のアカデミー、音楽学校等で活躍する講師を招聘し、国際水準の研修を実施した。
- ・全日本空輸株式会社の協賛による支援事業の認定を受けた。
  - ◇ANA スカラシップ(オペラ研修所・バレエ研修所研修生の海外研修サポート等)
  - ◇新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援(演劇研修所研修生のために国内研修に関わる航空券のサポート)
- ・令和 6 年度研修所入所式は昨年度に引き続き、参加者の人数を限定し、関係者には式の様子をインターネット配信した。
- ・入所式に引き続いて、ANA スカラシップ認定証授与式を開催した。

#### 《オペラ研修》

- ・オペラ研修所では、10/17 に「ランチタイム・コンサート」、12/2 に「午後の音楽会～日本歌曲の世界～」をオペラパレスホワイエの特設ステージにて実施した。
- ・就任 2 年目となる佐藤所長のもと、ピアニストやコレペティートルといった音楽スタッフのさらなる充実が図られた。
- ・海外招聘講師についても、佐藤所長の推薦による新しいコーチ(K. ケリー、D. エドワーズ、M. カッツ)を招聘したほか、来日中のオペラ歌手(C. コロンバーラ、A. シラグーザ)に特別マスタークラスを依頼するなど、研修生には新しい刺激となった。

#### 《バレエ研修》

- ・原則 4 年間(前期課程・後期課程各 2 年)の新研修体系に移行した。
- ・昨年度に引き続きバレエ研修所入所前の 13・14 歳を対象に、基礎強化の「ジュニアクラス」を週 2 回程度実施した(3 月末時点で 21 名が参加)。
- ・新研修体系に移行し、より多くの発表の場を設けるため、花伝舎スタジオでのスタジオパフォーマンスを実施した。研修生にとっても目標をもって授業に臨むことができ、また、観客の前で発表することにより、良い刺激と達成感を得ることができた。
- ・花伝舎のスタジオに加えて新宿村スタジオを借用することで、恒常的に 2 スタジオ並行しての研修が可能となり、密度の濃い研修を行うことができた。

#### 《演劇研修》

- ・新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援により、演劇研修第 18 期生が広島研修を実施した(6/3～6)。
- ・日本の演劇界を牽引する演出家のもとでシーンスタディを実施し、古今東西の戯曲に触れ、様々な演出家の要求に応えられる俳優としての素養を培った。
- ・複数名の海外招聘講師の指導のもと、国内では学ぶことのできない研修内容に、研修生にとっても新しい視点を獲得する機会となった。
- ・東京都立葛飾盲学校へのアウトリーチを行い、研修事業の普及に努めた。

### 《海外研修》

- ・ANA スカラシップの一環として海外研修を実施した。

| 区分                 | 研修期間       | 研修先              |
|--------------------|------------|------------------|
| オペラ研修所 25 期生・26 期生 | 9/16～10/4  | ミラノ・スカラ座アカデミー    |
| オペラ研修所 27 期生       | 3/21～4/6   | バイエルン国立歌劇場付属研修所  |
| バレエ研修所 20 期生       | 9/23～10/12 | ミラノ・スカラ座バレエアカデミー |
| 合計                 | 3 回        |                  |

### 《国際交流》

- ・海外のアカデミー、音楽学校等で活躍する講師を招聘し、国際水準の研修を実施した。

| 区分  | 研修期間        | 講師           |
|-----|-------------|--------------|
| オペラ | 5/13～5/24   | キャスリーン・ケリー   |
| オペラ | 6/6.7       | カルロ・コロンバーラ   |
| オペラ | 7/1～7/28    | タラ・フェアクロス    |
| オペラ | 7/4～7/28    | キャスリーン・ケリー   |
| オペラ | 10/28～11/15 | マーティン・カツツ    |
| オペラ | 9/11        | カルロ・コロンバーラ   |
| オペラ | 10/7.10     | アントニーノ・シラゲーザ |
| オペラ | 1/20～2/24   | デイヴィッド・エドワーズ |
| バレエ | 6/24～8/4    | 新井美紀子        |
| バレエ | 11/25～11/29 | ウラジーミル・マラーホフ |
| 演劇  | 7/8～26      | 木村早智         |
| 演劇  | 1/20～28     | エマ・ボニッチ      |

### 《受賞等》

- ・韓国で開催された「ソウル国際ダンスコンクール 2024」にて、バレエ研修所 21 期生 小寺夏鼓がバレエ・ジュニア男子部門で第 1 位、特別賞「ヒューストン・バレエ団夏季インテンシヴ・プログラム受講特待生」、「ヌレエフ賞」(第 1 号受賞者)を獲得した。

### 《主催公演等への出演》

- ・バレエ研修所 20 期生府川萌南が森山開次「新版・NINJA」に出演した。

### 《外部公演への出演》

- ・オペラ研修所 25 期生の野口真瑚、26 期生の後藤真菜美、中尾奎五が富士山静岡交響楽団主催『県民参加による「歓喜の歌」第九コンサート』にソリストとして出演した。

## ③ 研修発表会等の実施

### (a) 研修公演

#### 《研修発表会の実施実績》

| 区分  | 公演名                | 入場者数    | 入場率   | 入場料収入     |
|-----|--------------------|---------|-------|-----------|
| オペラ | サマー・リサイタル 2024     | 692 人   | 72.5% | 2,480 千円  |
| オペラ | 秋のリサイタル 2024       | 324 人   | 41.1% | 1,117 千円  |
| オペラ | 2025 春公演「フィガロの結婚」  | 2174 人  | 77.8% | 10,219 千円 |
| オペラ | スプリング・ガラコンサート 2025 | 423 人   | 35.0% | 1443 千円   |
| バレエ | バレエ・アステラス 2024     | 1,834 人 | 51.3% | 13,982 千円 |

|     |                            |          |       |           |
|-----|----------------------------|----------|-------|-----------|
| バレエ | バレエ・コンサート 2024             | 1,229 人  | 67.8% | 3,273 千円  |
| バレエ | エトワールへの道程 2025             | 1,275 人  | 70.4% | 4,669 千円  |
| 演劇  | 朗読劇「風が吹くとき」                | 647 人    | 63.2% | 1,421 千円  |
| 演劇  | 演劇研修所第 18 期生公演「ロミオとジュリエット」 | 1,425 人  | 78.1% | 4,579 千円  |
| 演劇  | 修了公演「美しい日々」                | 689 人    | 45.6% | 1,991 千円  |
| 合計  | 10 公演(計画 9 公演)             | 10,712 人 | 61.9% | 45,174 千円 |

### 《研修発表会の公演詳細》

|                                  |   |           |     |  |
|----------------------------------|---|-----------|-----|--|
| 新国立劇場オペラスタジオ「サマー・リサイタル 2024」     |   |           |     |  |
| 劇場・日程・回数                         | 新国立劇場小劇場  | 7/25～7/28 | 3 回 |  |
| 出演者                              | オペラ研修所第 25・26・27 期生   |           |     |  |
| 入場料                              | 3,850 円、Z 席 1,650 円   |           |     |  |
| 新国立劇場オペラスタジオ「秋のリサイタル 2024」       |   |           |     |  |
| 劇場・日程・回数                         | 新国立劇場中劇場  | 11/10     | 1 回 |  |
| 出演者                              | オペラ研修所第 25・26・27 期生   |           |     |  |
| 入場料                              | 全席指定 3,850 円、Z 席 1,650 円  |           |     |  |
| 新国立劇場オペラスタジオ 春公演 2025「フィガロの結婚」   |   |           |     |  |
| 劇場・日程・回数                         | 新国立劇場中劇場  | 2/22～24   | 3 回 |  |
| 出演者                              | オペラ研修所第 25・26・27 期生 ほか  |           |     |  |
| 入場料                              | 全席指定 4,950 円、Z 席 1,650 円  |           |     |  |
| 新国立劇場オペラスタジオ「スプリング・ガラコンサート 2025」 |   |           |     |  |
| 劇場・日程・回数                         | 新国立劇場オペラ劇場  | 3/20      | 1 回 |  |
| 出演者                              | オペラ研修所第 25・26・27 期生   |           |     |  |
| 入場料                              | 全席指定 3,850 円、Z 席 1,650 円  |           |     |  |
| 「バレエ・アステラス 2024」                 |   |           |     |  |
| 劇場・日程・回数                         | 新国立劇場オペラ劇場  | 8/3～8/4   | 2 回 |  |
| 出演者                              | バレエ研修所 20 期研修生、21 期生、22 期生 ほか   |           |     |  |
| 入場料                              | S 席 9,900 円、A 席 8,800 円、B 席 6,600 円、C 席 4,950 円、D 席 3,300 円、Z 席 1,650 円 |           |     |  |
| バレエ研修所公演「バレエ・コンサート 2024」         |   |           |     |  |
| 劇場・日程・回数                         | 新国立劇場中劇場  | 11/16～17  | 2 回 |  |
| 出演者                              | バレエ研修所 第 20 期生・第 21 期生・第 22 期生・第 23 期生 ほか                               |           |     |  |
| 入場料                              | 全席指定 2,750 円、Z 席 1,650 円  |           |     |  |
| バレエ研修所「エトワールへの道程 2025」           |   |           |     |  |
| 劇場・日程・回数                         | 新国立劇場中劇場  | 3/8～9     | 2 回 |  |
| 出演者                              | バレエ研修所 第 20 期生・第 21 期生・第 22 期生・第 23 期生 ほか                               |           |     |  |
| 入場料                              | 全席指定 3,850 円、Z 席 1,650 円  |           |     |  |
| 演劇研修所第 18 期生公演 朗読劇「風が吹くとき」       |   |           |     |  |
| 劇場・日程・回数                         | 新国立劇場小劇場  | 8/9～8/12  | 4 回 |  |
| 出演者                              | 演劇研修所第 18 期生  |           |     |  |
| 入場料                              | A 席 2,750 円、B 席 2,200 円、U25 席 1,650 円、Z 席 1,650 円                       |           |     |  |
| 演劇研修所第 18 期生公演「ロミオとジュリエット」       |   |           |     |  |
| 劇場・日程・回数                         | 新国立劇場小劇場  | 12/7～12   | 6 回 |  |
| 出演者                              | 演劇研修所第 18 期生  |           |     |  |
| 入場料                              | A 席 3,850 円、B 席 3,300 円、U25 席 1,650 円、Z 席 1,650 円                       |           |     |  |
| 演劇研修所第 18 期生修了公演「美しい日々」          |   |           |     |  |
| 劇場・日程・回数                         | 新国立劇場小劇場  | 2/11～16   | 6 回 |  |
| 出演者                              | 演劇研修所第 18 期生、研修修了者 ほか   |           |     |  |
| 入場料                              | A 席 3,850 円、B 席 3,300 円、U25 席 1,650 円、Z 席 1,650 円                       |           |     |  |

- ・オペラ研修所春公演 2025「フィガロの結婚」では、演出にデイヴィッド・エドワーズ氏、装置家としてトーマス・ウムフリッド氏を招き、オペラ本公演さながらのリハーサルを受けることができた。SNS 上などでの評判も目を見張るものがあった。
- ・バレエ研修所 20 期生修了公演では「ラ・シルフィード」「ドン・キホーテ」などの主要役やパ・ド・ドゥでそれぞれの役で自身の課題に向き合い、その成果を発表することができた。また、過去の「Dance to the

Future」で上演された福田圭吾によるコンテンポラリー作品「Phases」をリメイクして上演し、好評を得ることができた。

- ・演劇研修所第18期生修了公演では、松田正隆作「美しい日々」を上演した。不安感が色濃く漂う世紀末の東京と九州を舞台に、閉塞感を抱えて生きる若者の姿が描かれた戯曲に向き合い、研修生活の集大成にふさわしい濃度の高い公演を上演できた。
- ・「バレエ・アステラス 2024」では海外で活躍する日本人バレエダンサーとそのパートナーを迎え、新国立劇場バレエ団ダンサー、研修所研修者も参加した。韓国芸術総合学校バレエアカデミーの生徒との交流も深め、研修生にとって貴重な経験となった。

#### ④ 次年度の研修生募集

| 区分  | 選考日         | 応募者数(A) | 受験者数 | 合格者数(B) | 倍率(A/B) | 備考               |
|-----|-------------|---------|------|---------|---------|------------------|
| オペラ | 10/31～11/15 | 44名     | 40名  | 5名      | 8.2倍    | 願書受付 9/9～9/20    |
| バレエ | 11/4～12/15  | 59名     | 56名  | 12名     | 4.9倍    | 願書受付 10/1～10/15  |
| 演劇  | 1/15～1/19   | 33名     | 29名  | 10名     | 3.3倍    | 願書受付 11/25～12/23 |

#### ⑤ 研修修了者の動向把握等

##### 《研修修了者の就業状況(令和7年4月1日)》

| 分野  | 研修修了者総数 | 研修修了者のうち<br>現在従事者数 |
|-----|---------|--------------------|
| オペラ | 121人    | 120人               |
| バレエ | 120人    | 101人               |
| 演劇  | 198人    | 161人               |

##### 《受賞等》

###### 【オペラ研修】

- ・井上大聞(第21期修了)
  - ◇「Piero Boni International Opera Competition」(イタリア・4月)第3位受賞
  - ◇「INTERNATIONAL OPERA SINGING COMPETITION "MILTON MARELLI"」(イタリア・4月)優勝(他の参加者と同率1位)
  - ◇「ジュディッタ・パスタ国際声楽コンクール」(イタリア・5月)特別賞受賞
  - ◇「第1回テッレ・メディチェ国際声楽コンクール」(イタリア・5月)G. ロッシーニ特別賞受賞
  - ◇第33回「マッティア・バティスティーニ国際声楽コンクール」(イタリア・5月)第2位受賞
- ・森翔梧(第22期修了、バリトン)
  - ◇「奏楽堂日本歌曲コンクール」歌唱部門第1位・中田喜直賞・木下記念賞(金)受賞
  - ◇「国際トスティ歌曲コンクール」(イタリア・12/1)に、昨年の日本予選1位によって権利を得たファイナリストとして出場し、第3位を受賞
- ・杉山沙織(第23期修了、メゾソプラノ)
  - ◇「トンマーゾ・トラエッタ国際声楽コンクール」(イタリア・10/2)第2位受賞
  - ◇「サン・コロンバーノ国際声楽コンクール」(イタリア・10/19) ロッシーニ最優秀演奏特別賞受賞
  - ◇「ヴァレリオ・ジェンティーレ国際声楽コンクール」(イタリア・12/8～9)第3位、聴衆賞受賞
- ・和田悠花(第21期修了、ソプラノ)
  - ◇「第2回アレッサンドリア国際コンクール」(イタリア・2/8)第1位受賞

###### 【バレエ研修】

- ・廣川みくり(第11期修了)
  - ◇第25回岡山芸術文化賞グランプリ受賞

##### 《主催公演への出演》

- ・バレエ研修所修了者の多くが新国立劇場バレエ団に在籍しており、主催公演に多数出演した。
- ・オペラ、演劇の主催公演に研修修了者が多数出演した。

##### 《外部公演への出演》

- ・オペラ研修所修了者が、国内の他団体の公演及び海外の歌劇場等での公演に出演した。
- ・原璃菜子((オペラ研修所15期修了、ソプラノ)がイタリア・トリノ王立歌劇場と終身雇用契約を締結した。

#### ⑥ 外部専門家等の意見聴取、成果の検証、対象分野・人数等の不断の見直し

- ・研修事業委員会を開催し、前年度の成果検証に基づき今後の方向性の検討を行った。外部専門家である研修事業委員と各研修所所長が研修所の現状を確認し、研修所の環境、研修内容の改善について意見を交わした。
- ・研修事業委員に授業、公演の視察を依頼し、レポートにて意見を聴取した。
- ・各研修所において定期的に講師会等を開催し、研修内容や今後の方向性について話し合いを行った。
- ・バレエ研修生の選考に当たっては、外部の審査員(1名)を加えて実施した。

### ⑦ 舞台芸術グローバル拠点事業

- ・国際的なレピュテーションの確立を目指し、舞台芸術グローバル拠点事業に取り組んだ。

#### 《海外研修》

| 区分  | 期間         | 研修先              |
|-----|------------|------------------|
| オペラ | 9/16～10/4  | ミラノ・スカラ座アカデミー    |
| オペラ | 3/21～4/6   | バイエルン国立歌劇場付属研修所  |
| バレエ | 9/23～10/12 | ミラノ・スカラ座バレエアカデミー |
| 合計  | 3回(年度計画3回) |                  |

#### 《夏期研修》

| 区分  | 期間         | 研修名                 |
|-----|------------|---------------------|
| バレエ | 8/17～8/18  | バレエ研修所「夏の特別バレエレッスン」 |
| 合計  | 1回(年度計画1回) |                     |

※台風の影響で3日間の予定を2日間に短縮して開催。

#### 《次年度の研修所入所希望者の応募倍率》

| 区分  | 応募者数(A) | 合格者数(B) | 応募倍率(A/B) |
|-----|---------|---------|-----------|
| オペラ | 41名     | 5名      | 8.2倍      |
| バレエ | 59名     | 12名     | 4.9倍      |
| 演劇  | 33名     | 10名     | 3.3倍      |

※演劇について、2025年1月27日に3次試験合格者(女性)1名より入所辞退の連絡があった為、9名が入所予定。

#### 《新国立劇場バレエ団員の入団前所属経験(全団員数70人)》

| 区分         | 新国立劇場<br>バレエ研修所 | 海外バレエ関係<br>(バレエ団、教室等) | 国内バレエ関係<br>(バレエ団、付属研究所等) |
|------------|-----------------|-----------------------|--------------------------|
| 人数         | 24人             | 36人                   | 26人                      |
| 全団員数に占める割合 | 33.3%           | 50.0%                 | 36.1%                    |

※「入団前所属経験」とは、新国立劇場バレエ団入団前のキャリア全てを上記3区分に分類したものである。複数のキャリアを有する団員もいることから、合計人数は全団員数より多くなっている。

## イ 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項

### ① ホームページ等での事業の周知

#### 《SNS等登録者数》

| 区分             | Facebook    | Instagram    | X(旧Twitter)  |
|----------------|-------------|--------------|--------------|
| オペラ研修所         | -           | -            | 924 (+146)   |
| バレエ研修所         | 1,002 (+58) | -            | 2,853 (+329) |
| 新国立劇場バレエ・アステラス | -           | 1,698 (+370) | -            |
| 演劇研修所          | 1,230 (+9)  | -            | 1,987 (+300) |

※( )内の数値は前年度末からの増減。

- ・ホームページやSNS(Facebook, X(旧Twitter))を活用し、研修の実施状況、研修公演の稽古、公演の様子等を随時発信した。各研修所が専用のSNSを開設していることで連続性のある効果的な発信が可能となり、きめ細かな情報発信に奏功した。
- ・オペラ研修所の修了者について、新国立劇場内外での出演情報や受賞情報をホームページに掲載することにより、研修所修了後の活躍についても幅広い広報を行った。
- ・バレエ研修所・演劇研修所においても修了者の活動状況を定期的に把握し、公演への出演予定や受賞歴等をホームページに掲載するとともに、研修公演会場におけるパネル展示等で紹介した。

- ・演劇研修所の紹介映像「10分でわかる！新国立劇場演劇研修所」を制作・公開した。
- ・ANA スカラシップの一環として、以下の広報活動を行った。
  - ◇ANA 国内線機内にてオペラ研修所と ANA スカラシップを紹介する映像を放映(10月より1か月間)、バレエ研修所と ANA スカラシップを紹介する映像を放映(3月より1か月間)
  - ◇ANA グループ機内誌「翼の王国」に各研修所の紹介広告を掲載(オペラ9月号、バレエ11月号、演劇2月号)

## ② 学校等との連携による研修成果の活用、様々な文化普及活動への参画

### ＜普及活動の実施実績＞

| 区分    | 実施回数 | 参加者数 |
|-------|------|------|
| オペラ研修 | 6件   | 707人 |
| バレエ研修 | 0件   | 0人   |
| 演劇研修  | 1件   | 20人  |

- ・オペラ研修所では高齢者用マンションでのサロンコンサート、演劇研修所では東京都立葛飾盲学校へのアウトリーチを行い、研修事業の普及に努めた。

## ③ 応募者の確保

### ＜研修説明会・オープンスクール等の実施実績＞

| 区分    | 実施回数 | 参加者数 |
|-------|------|------|
| オペラ研修 | 0件   | 0人   |
| バレエ研修 | 2件   | 294人 |
| 演劇研修  | 4件   | 88人  |

- ・バレエ研修所では夏の特別バレエレッスンを実施し(8/17・18)、受講者に対してバレエ研修所新研修体系の説明会をあわせて実施した。
  - ※8/16～18の3日間の予定だったが、台風の影響で2日間に短縮して開催した。
- ・演劇研修所はオープンスクールを対面で開催した(8/30・9/21)。
- ・演劇研修所ではオープンスクールをオンラインで開催した(10/12・12/14)。

## ④ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義

- ・五館合同講義、研修生交流会を12/3に開催し、伝統芸能分野と現代舞台芸術の共同研修を実施した。

|      |                                |
|------|--------------------------------|
| 講師   | 大倉源次郎(能楽 大倉流小鼓方 十六世宗家)         |
| 講義内容 | 「良き舞台人になるために」                  |
| 会場   | 講義: 国立能楽堂大講義室<br>交流会: 国立能楽堂内食堂 |

## ⑤ 舞台技術者等に対する研修の実施、外部研修への協力

- ・公益財団法人札幌市芸術文化財団より職員1名の研修を受け入れた(12/9～21)。
- ・大学からインターンシップ等の受入れを行った。

| 学校名                | 日程                   | 人数   | 内容  |
|--------------------|----------------------|------|---|
| 学校法人華学園<br>華服飾専門学校 | 7/29・9/25            | 約19名 | インターンシップ(初台アート・ロフトのクリエイティブチーム2名による業務体験(舞台衣裳と空間デザイン—創造の現場から—)) |
| 昭和音楽大学             | 7/30・8/5・6・8・10      | 44名  | 「音楽マネジメント特殊講義」を実施   |
| 学校法人文化学園<br>文化服飾学院 | 8/19～8/31            | 2名   | インターンシップ(舞台衣裳管理業務)  |
| 武蔵野音楽大学            | 8/22～9/20のうち<br>10日間 | 1名   | インターンシップ(演劇公演における制作現場)  |
| 杉野服飾大学             | 11/5～11/7            | 2名   | インターンシップ(技術部の衣裳業務)  |
| 文化服飾学院             | 2/3～14               | 2名   | インターンシップ(舞台衣裳管理業務)  |
| 東京家政大学             | 2/10～24              | 3名   | インターンシップ(技術部の衣裳業務)  |
| 国立音楽大学             | 2/20～25              | 7名   | インターンシップ(講義、舞台稽古見学、バックステージ見学等)                                |



## 4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する 調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

### [1] 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

#### (1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 伝統芸能に関する調査研究

イ 伝統芸能に関する資料の収集・活用

#### (2) 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 公演記録の作成・活用

イ 普及活動

### [2] 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

#### (3) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 主催公演の上演作品等についての資料調査

イ 現代舞台芸術に関する図書・資料の収集・活用

ウ 資料等の展示公開

#### (4) 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 公演記録の作成・活用

イ 普及活動



#### 4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

| 自己評定                                    | A   |
|---|---|
| <p><b>自己評定の根拠</b></p>                   | <p>以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を上回る成果を得られたため、自己評定はA評定とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化デジタルライブラリーのアクセス件数について、舞台芸術教材を新規公開するなどコンテンツを拡充し、Cookie 取得同意バナー導入後も 118 万件を超えるアクセスがあった。年度計画においてはバナー導入の影響を考慮してモニタリング指標として目標値を設定したが、前中期目標期間実績(年平均約 110 万件)を上回るアクセスを得られた。ユーザーの利便性の向上や広報活動の強化にも一定の成果があったものと考えられる。</li> <li>展示公開の来場者数について、目標値を大きく上回る実績を達成した。</li> <li>特別展「宝生宗家展」は、来場者数が目標値の 159%の 18,184 人に達した。美術史においても大きな影響を及ぼす非常に重要な企画である、と外部専門家から評価を受けた。また、これまで知られていた重要文化財以外の能面についても、表・裏や資料部分をすべて掲載し、研究を反映させた図録を刊行した。販売実績は 1,108 部に上り、調査研究の非常に理想的な成果として高く評価された。</li> <li>近代歌舞伎年表及び上演資料集等の興行記録の調査について、学問の発展の基礎となる事業として、国立劇場が継続して行うべき意義があると、外部専門家から評価を受けた。</li> <li>「ジャパンサーチ」及び「文化遺産オンライン」に国立劇場収蔵資料を多くの画像と詳細な解説付きで登録・公開して一般の利用促進を図り、外部専門家から高い評価を受けた。</li> <li>振興会が主催した初のアメリカ公演に合わせ、ニューヨークで開催された Japan Society の主催展示「Bunraku Backstage」に協力し、文楽関連資料の貸出及び設営を行った。</li> <li>インターネット配信による公演記録映像の有効活用を推進した。伝統芸能分野では、舞踊公演 (Enjoying the Masterpiece of Kabuki Dance)の視聴数(令和 6 年度)が 32 万回(令和 4 年度末の公開以来の累計は約 80 万回)に達し、海外を中心に多数のコメントが寄せられた。現代舞台芸術分野では、バレエ「アラジン」の視聴数が 70 万回を超え、世界最大級の舞台芸術配信プラットフォーム OperaVision が扱った配信での最多視聴数を記録した。</li> </ul> |
| <p><b>数値目標の達成状況<br/>実績/目標 (達成率)</b></p> | <p>文化デジタルライブラリーアクセス件数:1,188,278 件/380,000 件(312.7%)【モニタリング指標】<br/>           展示公開の実施回数:12 回/12 回 (100.0%)<br/>           展示公開の来場者数:96,530 人/73,960 人 (130.5%)<br/>           講座等の実施回数:50 回/47 回 (106.4%)</p>  |
| <p><b>主要な業務実績</b></p>                   | <p>[1] 伝統芸能分野<br/>           [2] 現代舞台芸術分野<br/>           各表参照</p>   |
| <p><b>課題と対応</b></p>                     | <p>[1] 伝統芸能分野<br/>           [2] 現代舞台芸術分野<br/>           各表参照</p>   |

[1] 伝統芸能分野

| 自己評定                             | A  |
|----------------------------------|--|
| <p>自己評定の根拠</p>                   | <p>以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を上回る成果を得られたため、自己評定はA評定とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化デジタルライブラリーのアクセス件数について、舞台芸術教材を新規公開するなどコンテンツを拡充し、Cookie 取得同意バナー導入後も 118 万件を超えるアクセスがあった。年度計画においてはバナー導入の影響を考慮してモニタリング指標として目標値を設定したが、前中期目標期間実績(年平均約 110 万件)を上回るアクセスを得られた。ユーザーの利便性の向上や広報活動の強化にも一定の成果があったものと考えられる。</li> <li>展示公開の来場者数について、目標値を大きく上回る実績を達成した。</li> <li>特別展「宝生宗家展」は、来場者数が目標値の 159%の 18,184 人に達した。美術史においても大きな影響を及ぼす非常に重要な企画である、と外部専門家から評価を受けた。また、これまで知られていた重要文化財以外の能面についても、表・裏や資料部分をすべて掲載し、研究を反映させた図録を刊行した。販売実績は 1,108 部に上り、調査研究の非常に理想的な成果として高く評価された。</li> <li>近代歌舞伎年表及び上演資料集等の興行記録の調査について、学問の発展の基礎となる事業として、国立劇場が継続して行うべき意義があると、外部専門家から評価を受けた。</li> <li>インターネット配信による公演記録映像の有効活用を推進した。特に舞踊公演(Enjoying the Masterpiece of Kabuki Dance)の視聴数(令和 6 年度)が 32 万回(令和 4 年度末の公開以来の累計は約 80 万回)に達し、海外を中心に多数のコメントが寄せられた。</li> <li>「ジャパンサーチ」及び「文化遺産オンライン」に国立劇場収蔵資料を多くの画像と詳細な解説付きで登録・公開して一般の利用促進を図り、外部専門家から高い評価を受けた。</li> <li>振興会が主催した初のアメリカ公演に合わせ、ニューヨークで開催された Japan Society の主催展示「Bunraku Backstage」に協力し、文楽関連資料の貸出及び設営を行った。</li> </ul> |
| <p>数値目標の達成状況<br/>実績/目標 (達成率)</p> | <p>文化デジタルライブラリーアクセス件数:1,188,278 件/380,000 件(312.7%)【モニタリング指標】<br/>           展示公開の実施回数:12 回/12 回 (100.0%)<br/>           展示公開の来場者数:91,119 人/70,360 人 (129.5%)<br/>           講座等の実施回数:21 回/19 回 (110.5%)</p>   |
| <p>主要な業務実績</p>                   | <p>(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調査研究を計画通り実施し、「近代歌舞伎年表名古屋篇」別巻の刊行準備を行った。また、「上演資料集」及び「芸能資料集」の作成、「絵入根本集」の翻刻、「歌舞伎の文献シリーズ」の復刻を行い、文化デジタルライブラリーにおいて成果を公開した。</li> <li>国文学研究資料館との連携により、国立能楽堂が所蔵する貴重書、文献、絵画等をオンラインで公表するため、そのデータベース化を進めた。</li> <li>「ジャパンサーチ」及び「文化遺産オンライン」に、国立劇場収蔵資料(錦絵等博物資料 880 点)を多くの画像と詳細な解説付きで登録・公開し、一般の利用促進を図った。</li> <li>芝居版画等図録第 20 巻、プロマイド資料などのデータベース化を行い、文化デジタルライブラリーへ登録し公開した。</li> <li>文化デジタルライブラリーにおいて、新たなコンテンツとして舞台芸術教材「日本の伝統音楽」を製作し、公開した。</li> <li>伝統芸能全般の文献(図書・解説書・台本・雑誌等)、図画(錦絵・番付・絵画等)、写</li> </ul>   |

|                     |   |
|---------------------|---|
|                     | <p>真、映像・音声資料、舞台装置等の資料について、収集、分類整理を各館で実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各館の資料展示室・閲覧室を開室し、計画どおり展示公開や閲覧業務等を実施した。</li> <li>能楽堂では特別展「宝生宗家展」を実施し、入場者数が目標の159%の18,184人となり、展示図録を刊行して販売実績が1,108冊だった。</li> <li>国立劇場おきなわでは企画展を4回実施した。</li> </ul> <p><b>(2) 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各館の主催公演について、映像・写真等による記録を作成した。</li> <li>各館図書閲覧室・視聴室において、公演記録写真・公演記録映像を出演者及び公演関係者と一般来場者の閲覧・視聴に供するとともに、出演者、教科書等の出版社及び放送局等の依頼に応じて複製物を作成・提供した。</li> <li>無料配信した舞踊公演（Enjoying the Masterpiece of Kabuki Dance）の視聴数（令和6年度）が32万回（令和4年度末の公開以来の累計は約80万回）に達し、海外を中心に多数のコメントが寄せられた。</li> <li>雅楽や民俗芸能など多様な芸能ジャンルの公演記録映像を有料配信した。公演記録映像等の配信に当たっては、必要な著作権等の処理・契約を行った。</li> <li>文楽劇場主催の公演映像（4公演）及び国立劇場・国立文楽劇場の過去の文楽公演映像（文楽プレミアムシアター・4回）の有料配信を行った。</li> <li>文楽劇場では展示内容に関連した公演記録映像を編集し、展示室内で上映した。</li> <li>文楽劇場では、文楽座技芸員による専門的な内容の文楽特別講座を開催した（2回、有料）。</li> <li>国立劇場おきなわでは、令和元年より復元してきたからくり花火についてまとめたウェブサイト（日英対応）を開設した。</li> </ul> |
| <p><b>課題と対応</b></p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>国立劇場等再整備事業に伴う所蔵資料の安全な移転に向けて、資料の整理及びデジタル化等準備を進めている。</li> <li>文楽劇場では国文学研究資料館の国書データベース公開に向けた文楽劇場所蔵の丸本の調査及びリスト作成を行う。</li> </ul>  |

## [2] 現代舞台芸術分野

| 自己評定                            | A  |
|---------------------------------|--|
| <b>自己評定の根拠</b>                  | <p>以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を上回る成果を得られたため、自己評定はA評定とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・展示公開の来場者数について、目標値を大きく上回る実績を達成した。オペラ公演では、日本ロッシーニ協会と連携した展示を行った。</li> <li>・「新国デジタルシアター」を通じたインターネット配信による公演記録映像の有効活用を推進した。特に、OperaVision を通して配信したバレエ「アラジン」の公演映像は 70 万回を超える視聴数となり、OperaVision が扱った配信での最多視聴数を記録した。</li> <li>・調査研究を計画どおり実施し、その成果については、オンラインも活用しながら講座・プログラムへの掲載など活用を図った。</li> <li>・青島広志の講座「教えて、ブルーアイランド先生！新国立劇場で学ぶオペラの歴史」（全 6 回）や演劇公演に関連したギャラリープロジェクトなど、魅力的な講座を多数展開し、好評を得た。</li> <li>・台湾（台中国家歌劇院）及び韓国（韓国国立劇場）の劇場でオペラやバレエの公演映像上映会を実施したほか、フランス・パリで開催された展覧会にオペラ「子どもと魔法」の公演映像を提供した。</li> </ul>  |
| <b>数値目標の達成状況<br/>実績/目標（達成率）</b> | <p>展示公開の来場者数:5,411 人/3,600 人（150.3%）<br/>講座等の実施回数:29 回/28 回（103.6%）</p>  |
| <b>主要な業務実績</b>                  | <p><b>(3) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主催公演の演目内容を調査研究した成果を講座として開催した。開催に当たってはオンラインも活用して多くの方に参加する機会を提供した。</li> <li>・劇場内のオープンスペースを有効活用して舞台装置模型や衣裳を展示する「初台アート・ロフト」を実施した。</li> <li>・初台アート・ロフトに関連して行った、クリエイティブチームによる一般向けの美術ワークショップは、美術面からのアプローチによる新たな観客層の掘り起こしにも繋がった。また、服飾専門学校生を対象としたワークショップでは、18 世紀の衣裳の特徴に焦点を当て、それらがいかに舞台衣裳の技法や表現に採り入れられていったか理解を深め、研究につながる活動等を行った。</li> <li>・国内劇場の現状等についての調査研究の成果を公演プログラムに掲載した。</li> <li>・青島広志の講座「教えて、ブルーアイランド先生！新国立劇場で学ぶ オペラの歴史」（全 6 回）について、昨年度は無料だったものを今年度は有料で開催したが、全ての回で満席の申込を得た（申込数：計 1,035 人）。ピアノ演奏付きの解説とゲスト歌手による歌唱演奏で、参加者からも好評を得た。</li> <li>・演劇公演に関連して実施したギャラリープロジェクトでは、各作品の劇作家や背景となる国の歴史に関わる専門家を迎え、作品の理解を深め、演劇分野の系譜を紐解く、意義のある講座となった。</li> <li>・オペラ「夢遊病の女」「ウィリアム・テル」では、日本ロッシーニ協会と連携し、作品に関連した所蔵品を借用し、情報センター等で展示を行った。</li> </ul> <p><b>(4) 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主催公演の公演記録データベース作成を引き続き実施した。</li> <li>・「新国デジタルシアター」等で公演記録映像 10 件をインターネット配信した。そのうち、オペラ「修道女アンジェリカ/子どもと魔法」「ウィリアム・テル」、バレエ「アラジン」の 3 作品は世界最大級の舞台芸術配信プラットフォームである OperaVision を通して配信し、海外からの視聴率も高い実績を得た。特に、バレエ「アラジン」は 70 万回を超える視聴回数となり、OperaVision が扱った配信での最多視聴数を記録した。</li> <li>・フランス・パリの音楽博物館で開催されたフィルハーモニー・ド・パリ「ラヴェ</li> </ul> |

|                     |  |
|---------------------|--|
|                     | <p>ル・ボレロ」展覧会に、オペラ「子どもと魔法」の公演映像を提供した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・台中国家歌劇院(台湾)の春節特別上映会にて、オペラ「オルフェオとユリディーチェ」、バレエ「眠れる森の美女」の公演映像を上映した。</li> <li>・韓日国交正常化60周年記念事業「日韓映像交換上映会」として、オペラ「トゥーランドット」の公演映像を韓国国立劇場で上映した。</li> </ul> |
| <p><b>課題と対応</b></p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査研究の一環として、収集した資料の公開を行っているが、「夢遊病の女」「ウィリアム・テル」の公演期間中には、日本ロッセーニ協会と連携し、作品に関連した所蔵品を借用し展示を行った。公演との関連により限定的ではあるが、今後も外部団体等と連携した展示の可能性も検討する。</li> </ul>  |

## 4 - [1] 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

### 《中期計画の概要》

- 4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用  
伝統芸能の公開の充実等に資するため、調査研究並びに資料の収集及び活用を行う  
関係機関等と連携した取組を進める
- (1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用
- ア 伝統芸能に関する調査研究を実施
- ① 公演の実施に当たり、過去の公演記録、演出等を調査し、文化デジタルライブラリー又は書籍により公開
  - ② 日本各地の演劇興行に関する記録、日本各地に伝わる能楽資料及び組踊等沖縄伝統芸能の上演に関する記録について、調査研究を実施
  - ③ 伝統芸能に関する古文献等について調査研究するとともに、復刻・刊行等を実施
- イ 伝統芸能に関する資料の収集及び活用を実施
- ① 伝統芸能関係図書、歌舞伎錦絵等博物資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供するとともに、図録等の作成、博物館施設等への貸与等を実施
  - ② 収集した資料のデータベース化の推進やデジタルコンテンツの充実を図り、文化デジタルライブラリー等により公開  
舞台映像等の配信に係る権利処理等を行うための関係機関等と連携  
収集した資料等を活用した展示を企画し、各展示施設等において公開  
関係機関等と連携した取組、多言語化等利便性の向上及び広報活動の強化  
国立劇場等の再整備期間中は、伝統芸能情報館及び国立演芸場での展示は休止し、関係機関等と連携
  - ③ 国立劇場等の再整備期間中において、資料の特性に応じた適切な管理により代替施設で保管
  - ④ 外部の関係機関とのネットワーク構築を推進、情報発信機能の充実について検討
- (3) 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施
- ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存し、閲覧・視聴に供する
- イ 公開講座、公演記録の鑑賞会やICTを活用した公演記録映像の有料配信等を実施

### 《年度計画の概要》

- 4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用
- (1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用
- ア 伝統芸能に関する調査研究
- ① 歌舞伎、文楽及び組踊等沖縄伝統芸能の過去の公演記録等の調査・公開及び公開方法の検討
  - ② 日本各地の歌舞伎・文楽を主とした演劇興行に関する記録、能楽に関する資料及び組踊等沖縄伝統芸能の上演に関する記録の調査研究・刊行等
    - (a) 「近代歌舞伎年表」名古屋篇の索引等の整備
    - (b) 特別展「宝生宗家展」図録(能楽堂)
  - ③ 伝統芸能に関する古文献等の調査研究、文化デジタルライブラリーで公開
    - (a) 「絵入根本集」の翻刻・公開
    - (b) 「歌舞伎の文献シリーズ」の復刻・公開
- イ 伝統芸能に関する資料の収集・活用
- ① 各館で公開する分野に関する図書・資料の収集整理、公演関係者、研究者及び一般の閲覧に供し、図録等の作成、博物館施設等への貸与等を実施  
開架図書の整備、ホームページにおける蔵書検索機能の提供等、利便性に配慮した利用促進  
博物資料等の適切な保存管理、関係機関等との連携等による一層の活用
  - ② 収集した資料のデータベース化、デジタルコンテンツの充実及び各展示施設等における資料等の展示公開
    - (a) 図書、錦絵、プロマイド、公演記録情報等のデータベース化
    - (b) デジタルコンテンツの充実
      - i. 文化デジタルライブラリー舞台芸術教材コンテンツの製作・公開
      - ii. 文化デジタルライブラリー目標アクセス件数: 380,000件【モニタリング指標】  
〈目標水準の考え方〉  
個人情報保護のため、令和6年度より文化デジタルライブラリーを閲覧する際にCookie情報の取得について利用者の同意確認を行う。情報の取得について同意がない場合は、文化デジタルライブラリーの

- アクセス件数を正確に把握できなくなるため、モニタリング指標とする。
- (c) 外部の関係機関とのネットワーク構築の推進、資料の公開
  - (d) 収集した資料等の展示公開(別表9)  
関係機関等と連携した取組、多言語化等来場者の利便性の向上及び広報活動の強化  
国立劇場等の再整備期間中は、伝統芸能情報館及び国立演芸場での展示休止、関係機関等と連携
  - (e) 展示図録の刊行
    - i. 特別展「宝生宗家展」図録(能楽堂・再掲)
  - ③ 国立劇場等の再整備期間中は、設備等の老朽化による保管環境悪化に対応、適切な移転作業及びリスト化を実施、代替施設での安全かつ効率的な保管体制の構築を検討
- (2) 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施
- ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存し、公演関係者・研究者及び一般の視聴・閲覧に供する
  - イ 伝統芸能の理解促進と普及を図るため普及活動を実施
    - ① 伝統芸能に関する公開講座、公演記録映像の有料配信等を別表 10 のとおり実施
    - ② 公演の実施にあわせた関連講座、展示等
    - ③ 組踊等沖縄伝統芸能への理解促進のため、全国の文化施設や学校等における普及活動の充実

## (1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

### ア 伝統芸能に関する調査研究

#### ① 過去の公演記録等の調査・公開

##### 《公演記録等の調査・公開実績》

| 分野  | WEB 公開件数 | 刊行件数 | 合計  |
|-----|----------|------|-----|
| 歌舞伎 | 4 件      | 0 件  | 4 件 |
| 文楽  | 4 件      | 0 件  | 4 件 |
| 組踊  | 0 件      | 2 件  | 2 件 |

- ・歌舞伎・文楽公演の上演演目について、初演から現在に至る上演記録や参考資料等を調査し、その成果を文化デジタルライブラリーにおいて公開した。
- ・上演資料集の公開ページにおいて、演目や上演年月による検索機能を追加し、利用者の利便性をはかった。

##### 《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

###### ＜調査事業委員からの意見＞

- ・紙媒体での刊行も大切であるが、上演資料集を PDF で公開しているように、デジタルを活用して広く世界へ発信することも重要である。

#### ② 演劇興行、上演に関する記録の調査研究・刊行等

##### 《刊行実績》

- ・特別展「宝生宗家展」図録

国立能楽堂特別展「宝生宗家展」では、展示図録を初めて書籍として刊行した(定価 3,630 円)。全図版カラーで掲載し、本展監修の宮本圭造氏(野上記念法政大学能楽研究所所長・教授)による「宝生宗家の能面」と小山弓弦葉氏(東京国立博物館学芸研究部調査研究室長)による「宝生宗家の能装束」の 2 論文を掲載した。さらに英文リストに加え、英文論文要旨も掲載した。会期中に 1,108 冊を販売した(「美術展ナビ」の通販サイトでの販売を含む)。

##### 《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

###### ＜調査事業委員からの意見＞

- ・上演年表等の作成は学問発展の基礎部分を担う重要な事業のため、将来的なデータベースの構築も含め、国立劇場として事業を継続してほしい。
- ・能楽堂の特別展「宝生宗家展」は大変重要な企画であった。最近では、能面が美術史、とりわけ彫刻の面から大変注目されており、大きな重要なジャンルとして認識されている。宝生宗家の能面の内、我々が知っているのは重要文化財のみであったが、今回の展示でそれ以外の能面や資料を見ることができたという点で大きな影響があった。能面の表と裏、資料部分をすべて載せるという手間をかけたことで、図録の売れ行きが良かったのだといえる。一般的に、美術館では図録は 600 部ほど売れたらよいとされているが、かなり大変な数字である(1,108 部)。図録の販売価格に関わらず「買う人」と「買わない人」とに二分化している。研究をこれだけ反映させた図録を刊行し、これほどの数を販売できているということは非常に理想的な形である。

#### ③ 調査研究の成果の活用

- ・調査研究成果の積極的な発信のため、パリディドロ大学(仏)、コレージュドフランス(仏)の研究機関等へ刊行物を寄贈した。

#### ④ 古文献等の調査研究・公開

- ・下記の文献を文化デジタルライブラリーにおいて公開した。

◇ 絵入根本集 6 「えほんあねいもとだてのおおきど 絵本姉妹 達 大礎」の翻刻・公開

◇ 絵入根本集 7 「けいせいちごがふち 契情稚児渕」の翻刻・公開

◇ 歌舞伎の文献シリーズ「しばいがくやすえ 戯場楽屋図会」の復刻・公開

##### 《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

###### ＜調査事業委員からの意見＞

・古文書の翻刻・復刻・公開のように、研究者や専門家と国立劇場とが連携することで実現可能となる事業は、今後も是非取り組んでほしい。

## イ 伝統芸能に関する資料の収集・活用

### 《方針》

伝統芸能全般に関する基本的な新旧の図書、雑誌、博物資料の収集を主軸に実施する。歌舞伎については、錦絵・番付・プロマイド写真・上演台本を、大衆芸能については、落語・講談の速記本、見世物・曲芸の絵画資料と映像・音声資料(ビデオ・CD)等の収集を行う。また、図書情報のデータベース化を進め、研究者及び一般の利用に供する。

能楽堂では、主として能楽に関する研究書、実演資料、図録、一般図書等の芸能図書及び能楽の普及・伝承・研究の上で、特に意義があると認められる資料の収集を行う。

文楽劇場では、一般及び関係者の文楽に対する理解促進につながる文楽関連の芸能図書や博物資料等を中心に収集を行う。

国立劇場おきなわでは、組踊等沖縄伝統芸能を主とし、伝統芸能全般に関する図書・資料、博物資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供する。

### ① 図書・資料の収集整理・活用

#### (a) 収集・公開実績

| 区分       | 収集      |         | 公開       |       |        |        |
|----------|---------|---------|----------|-------|--------|--------|
|          | 図書      | 資料      | 閲覧室利用者数* | 開室日数  | 写真複製使用 | 博物資料閲覧 |
| 伝統芸能情報館  | 2,017 冊 | 1,603 点 | 1,815 人  | 242 日 | 298 件  | 15 件   |
| 能楽堂      | 726 冊   | 1,579 点 | 3,110 人  | 239 日 | 55 件   | 3 件    |
| 文楽劇場     | 550 冊   | 1,387 点 | 497 人    | 240 日 | 63 件   | 1 件    |
| 国立劇場おきなわ | 296 冊   | 297 点   | 4,158 人  | 266 日 | 11 件   | 0 件    |

※国立劇場おきなわはレファレンスルームの利用者数。

### 《アンケート結果》

| 区分                  | 回答数  | 満足数  | 満足回答率 |
|---------------------|------|------|-------|
| 国立劇場図書閲覧室(1/6～3/21) | 33 人 | 32 人 | 97%   |

#### (b) 伝統芸能に関する図書・資料等の博物館施設等への貸与等

| 区分       | 展示名                            | 会場                    | 主催等              | 活用内容                            | 日程              |
|----------|--------------------------------|-----------------------|------------------|---------------------------------|-----------------|
| 国立劇場     | 映画「国宝」                         | —                     | 株式会社クレデウス        | 劇中セット内美術として舞台模型貸出               | 4/19<br>～4/30   |
| 国立劇場     | 生誕 190 年記念 豊原国周                | 太田記念美術館               | 太田記念美術館          | 錦絵 38 点                         | 2/1<br>～3/26    |
| 能楽堂      | 企画展「格式の美—丸紅コレクションの能装束—」        | 丸紅ギャラリー               | 丸紅株式会社           | 能面 10 面の貸出。展示図録への写真掲載。          | 9/25<br>～10/26  |
| 文楽劇場     | 「Bunraku backstage」展           | ニューヨーク州 Japan Society | Japan Society    | 見台、三味線、文楽人形、文楽かしら製作工程 他         | 10/3<br>～1/19   |
| 文楽劇場     | 文楽協会主催地方公演                     | 神奈川県立青少年センター          | 文楽協会             | 文楽解説パネル                         | 9/30<br>～10/23  |
| 文楽劇場     | 「国立劇場 in 丸の内 What is Bunraku?」 | 東京シティアイ パフォーマンスゾーン    | 国立劇場営業部          | 文楽解説パネル                         | 12/15<br>～12/16 |
| 文楽劇場     | 八尾プリズムホール特別公演「吉田玉男の世界」         | 八尾市文化会館プリズムホール        | 公益財団法人八尾市文化振興事業団 | 展示解説パネル                         | 1/24<br>～3/4    |
| 国立劇場おきなわ | 県外公演「琉球舞踊と組踊春秋座特別公演」関連展示       | 京都芸術劇場春秋座             | 学校法人瓜生山学園        | 紅型衣裳 2 点、緋 1 点、芭蕉布 1 点、小道具 13 点 | 6/1             |

#### (c) 関係機関等との連携による活用

- ・「ジャパンサーチ」及び「文化遺産オンライン」に国立劇場所蔵資料(錦絵等博物資料 880 点)を画像と解説付きで登録・公開し、一般の利用促進を図った。
- ・能楽堂において、国文学研究資料館との連携により、貴重書のデジタル化作業を開始し終了した(公開は次年度)。

### ② 資料のデータベース化、デジタルコンテンツの充実、展示公開

(a) データベース化

| 区分     | 実施点数     | 詳細   |
|--------|----------|--|
| 図書     | 5,244 件  | 「国立劇場蔵書検索」での検索を可能にするため、図書の書誌データを図書管理システムのデータベースに登録、公開した。   |
| 資料     | 462 点    | 錦絵 80 点、プロマイド 371 点、上演資料集 WEB 版 8 点、電子図書 3 点。<br>新たに考証・整理が終了した錦絵(芝居版画等)80 点、プロマイド写真(戦前の歌舞伎俳優) 371 点を文化デジタルライブラリーに登録。また、上演資料集 WEB 版及び電子図書を公開。 |
| 上演情報   | 67 公演    | 歌舞伎 7 公演、文楽 8 公演、舞踊・邦楽 8 公演、雅楽・声明 3 公演、民俗芸能 2 公演、特別企画 2 公演、大衆芸能 15 公演、能・狂言 22 公演の公演情報を文化デジタルライブラリーに登録。                                       |
| 公演記録写真 | 34,211 点 | 国立劇場、国立演芸場、国立能楽堂、国立文楽劇場で撮影した各ジャンルの公演記録写真を文化デジタルライブラリーに登録。  |

(b) デジタルコンテンツの充実

《文化デジタルライブラリーアクセス件数【モニタリング指標】》

| 実績          | 年度計画      | 達成率    |
|-------------|-----------|--------|
| 1,188,278 件 | 380,000 件 | 312.7% |

※6 年度より Cookie 取得同意バナーを導入した。Cookie 取得不同意の場合のアクセスは、数値に含まれない。これにより文化デジタルライブラリーのアクセス件数を正確に把握できなくなるため、年度計画においてはモニタリング指標としている。

- ・文化デジタルライブラリーについて、振興会ホームページの各公演情報からのリンクや、公演プログラムへの掲載により、一層の利用の促進を図った。
- ・文化デジタルライブラリーの概要を紹介するチラシ(英語併記)を作成し、振興会の各施設に掲出するほか、外部の美術館等に配布した。また、学校向けの鑑賞教室の案内に同封し、配布した。

《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

＜調査事業委員からの意見＞

- ・デジタルコンテンツの充実と公開が進んでいることはとても素晴らしいことである。

(c) 外部関係機関とのネットワーク構築等

- ・大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館と「学术交流・協力に関する基本協定書」を締結した。

(d) 資料の展示公開

《展示公開実績》

| 会場                    | 展示名称                             | 日程          | 日数<br>(日) | 来場者数(人) |        | 達成率    |
|-----------------------|----------------------------------|-------------|-----------|---------|--------|--------|
|                       |                                  |             |           | 実績      | 年度計画   |        |
| 能楽堂<br>資料展示室          | 入門展「能楽入門」                        | 5/25～8/24   | 71        | 8,015   | 7,200  | 111.3% |
|                       | 収蔵資料展「能狂言絵展」                     | 9/20～11/9   | 44        | 5,015   | 4,500  | 111.4% |
|                       | 特別展「宝生宗家展」                       | 11/23～3/29  | 69        | 18,184  | 11,460 | 158.7% |
|                       | 小 計                              | 3 回         | 184       | 31,214  | 23,160 | 134.8% |
| 文楽劇場<br>資料展示室         | 入門展示「文楽の襲名 ～十一代目豊竹若太夫襲名にちなんで～」   | 4/6～5/12    | 37        | 9,309   | 7,370  | 126.3% |
|                       | 展示「昭和の文楽 ～『義太夫年表 昭和篇』全巻刊行を記念して～」 | 5/25～6/30   | 37        | 4,769   | 3,350  | 142.4% |
|                       | 展示「文楽で学ぶ なまずと西遊記」                | 7/20～9/23   | 66        | 14,280  | 10,730 | 133.1% |
|                       | 展示「国立文楽劇場の 40 年」                 | 10/12～11/24 | 44        | 8,878   | 6,950  | 127.7% |
|                       | 展示「国立文楽劇場 新収蔵品展」                 | 1/3～3/12    | 69        | 11,272  | 8,800  | 128.1% |
|                       | 小 計                              | 5 回         | 253       | 48,508  | 37,200 | 130.4% |
| 国立劇場<br>おきなわ<br>資料展示室 | 第 1 回企画展「打組舞踊」                   | 4/13～6/16   | 65        | 2,485   | 2,500  | 99.4%  |
|                       | 第 2 回企画展「子ども琉球舞踊入門」              | 7/13～9/16   | 66        | 3,288   | 2,500  | 131.5% |
|                       | 第 3 回企画展「大川敵討」                   | 10/5～12/15  | 72        | 2,870   | 2,500  | 114.8% |
|                       | 第 4 回企画展「近現代の男性舞踊家Ⅱ」             | 1/11～3/23   | 72        | 2,754   | 2,500  | 110.2% |
|                       | 小 計                              | 4 回         | 275       | 11,397  | 10,000 | 114.0% |
| 伝統芸能分野 合計             |                                  | 12 回        | 712       | 91,119  | 70,360 | 129.5% |

## ＜能楽堂＞

- ・入門展「能楽入門」は、外国人、学生、親子等の観客層を対象として、能のいでたち(扮装)に注目し、能の五番立に従って主な登場人物を面、装束、小道具等によって展示した。開催期間中に資料展示室前に能面を展示したフォトスポットを新設し、SNS等でも好評だった。
- ・収蔵資料展「能狂言絵展」は、収蔵資料の中から様々な能・狂言絵をテーマとして資料を選び、収蔵後の継続的な調査・研究によって新たな事実が判明した資料については、その調査報告と共に展示を行った。「くろごちゃんファンド」(国立劇場基金)の寄附によって今年度新たに購入した「能絵 十二図」や、昨年7月に出現して国立能楽堂に寄託された柴田是真筆「羽衣図」双福を初公開した。ギャラリートークを「青翔会」(10/22)終演後に開催し、72名の参加があった。
- ・特別展「宝生宗家展」は、宝生宗家に伝わった重要文化財14面、重要美術品56面を含む能面コレクションや能装束を史上初めて大規模に展示した。あわせて宝生宗家に伝来して加賀前田家において作成された宝生宗家文書の写し(野上記念法政大学能楽研究所・法政大学鴻山文庫所蔵)を初めて公開した。展示品のほとんどが現役の能道具であるため、展示期間を3期に分けて展示し、各期それぞれに見どころを用意し、古文書以外を総入れ替えとする展示替を行った。能面については「本面」・「写し」を全て展示した。看板・展示キャプション(日・英)の掲出や、出品リスト(日・英・中・韓)の無料配布をした。また、解説映像(日・英、各13分)を制作し、会場内にて公開し、短縮した展示紹介動画(日・英、各1分)も制作し、SNSで公開した。宝生宗家を講師としたギャラリートークを12/10に開催し、26人の参加があった。

## ＜文楽劇場＞

- ・展示「文楽の襲名 ～十一代目豊竹若太夫襲名にちなんで～」は、十一代目豊竹若太夫襲名にちなみ、文楽劇場開場以来の襲名披露口上と披露狂言の舞台写真をパネルで紹介した。また、新若太夫が所蔵する祖父・十代若太夫ゆかりの品をはじめ、新若太夫の関連資料により若太夫の系譜とその魅力を紹介した。
- ・展示「昭和の文楽 ～『義太夫年表 昭和篇』全巻刊行を記念して～」は、全七巻の最終巻刊行にちなんで調査に利用した番付や公演プログラムに関連した写真、戦時下の社会情勢を色濃く反映した「時局物」と「新作」の写真等を展示し、「芸能の歴史を記録する」本事業への理解を深めるものとした。
- ・展示「文楽で学ぶ なまずと西遊記」は、文楽に関する展示コーナーに加え、夏休み文楽特別公演第1部「親子劇場」の演目にちなんで、「なまず」と「西遊記」に関する解説や資料展示を設け、来場者が観劇の予習や復習に役立てるなど、観劇を通して触れた事柄について楽しく学べる内容とした。
- ・展示「国立文楽劇場の40年」は、開場時から現在の公演までの舞台写真やポスター、観劇記念スタンプ、にらみ鯛大風揮毫原稿、地域行事の写真等を展示し、これまでの40年間を振り返った。また、直近10年間については、近年文楽劇場において積極的に取り組んでいる他業種の企業とのコラボレーション企画の広報活動を中心に紹介した。
- ・展示「国立文楽劇場 新収蔵品展」は、平成26年(開場30周年)以降に受け入れた収蔵品の展示及び解説を行った。文楽劇場の資料収集・活用事業についてグラフ等を用いて紹介し、展示にあたっては、資料に関連する人物の功績を紹介するなど、来場者が収蔵品に親しみを持てるよう工夫した。

## ＜国立劇場おきなわ＞

- ・企画展「打組舞踊」では、宮廷で作られた打組作品をはじめ、姉小舞の名作、民俗芸能としての打組舞踊を紹介し、衣裳・道具類等の展示を行った。
- ・企画展「こども琉球舞踊入門」では、女踊りなど琉球舞踊の主要な分類の特徴や代表的な演目について解説し、衣裳・道具類等の展示を行い、衣裳デザインを楽しめる劇場オリジナルの塗り絵を設置した。
- ・企画展「大川敵討」では、12月研究公演「1838年の史料に拠る 組踊『大川敵討 一糺しの場より敵討まで』」における1838年の舞台・衣装復元にあたっての研究成果と、組踊「大川敵討」について紹介した。
- ・企画展「近現代の男性舞踊家Ⅱ」では、5年4月に開催した企画展「近現代の男性舞踊家Ⅰ」に続き、戦前から戦後にかけて活躍した4名の舞踊家に焦点を当て、衣裳・道具類等の展示を行った。

## ＜関係機関等と連携した取組＞

- ・国文学研究資料館と締結した「学术交流・協力に関する基本協定書」に基づき連携事業を開始し、令和6年度は所蔵する古典籍等について「国書データベース」でのデジタル公開を進めた。
- ・「文化遺産オンライン」で所蔵資料の画像と詳細な資料データ・解説文を公開し、「文化遺産オンライン」から「ジャパンサーチ」へデータ連携することにより、ギャラリー機能を活用した、オンライン展示を作成・公開した。
- ・「デジタルアーカイブフェス2024～活用最前線!～」(主催:国立国会図書館・内閣府知的財産戦略推進事務局)にて、国立劇場所蔵資料のデジタル公開の取組について紹介した。
- ・振興会として初のアメリカ公演に合わせ、ニューヨークで開催されるJapan Societyの主催展示「Bunraku Backstage」に協力し、文楽関連資料の貸出及び設営を行った(10/4～1/19。開室日数75日(一般公開、イベ

ント、ツアー、レセプションを含む)、入場者数 3,942 人)。10/3 の公演終了後にはレセプションが行われ、多くの観劇者及び関係者が展示を観覧した。

- ・荒川区民会館(サンパール荒川)での6月歌舞伎鑑賞教室に際し、関連事業として ARAKAWA1-1-1 ギャラリーにて「歌舞伎のにぎわい展」を開催した(5/22~6/21。入場料無料)。上演演目の衣裳や小道具、国立劇場所蔵の錦絵を展示した。
- ・「初代国立劇場で演じられた公演関連資料から」展(主催：千代田区立日比谷図書館)において国立劇場が寄贈した上演資料集等が展示され、初代国立劇場のこれまでの活動が紹介された。
- ・文楽劇場の展示「文楽で学ぶ なまずと西遊記」において、滋賀県立琵琶湖博物館から日本固有種である2種類のナマズの模型を借り受けて展示するとともに、公演宣伝及び事業広報において相互協力を行った。
- ・美術情報サイト「美術展ナビ」(読売新聞社運営)にて「美術展ナビ×国立劇場コラボ連載 芸能資料定期便」を毎月公開し、国立劇場所蔵資料を紹介した。
- ・「美術展ナビフェス」(読売新聞東京本社主催)に国立劇場と国立能楽堂よりブースを出展し、刊行図録やオリジナルグッズの紹介を行った。
- ・ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント「マグネティック・テープ・アラート：磁気テープ映像の保存に向けてできること」(主催：国立映画アーカイブ)にて、国立劇場所蔵の映像資料の保存事例について紹介した。

#### 《展示公開に関する広報等》

- ・振興会ニュース、あぜくら会会報、ホームページ、X(旧 Twitter)等 SNS にて開催案内や会期中の紹介等広報を行った。
- ・新聞、雑誌、情報サイト等に開催案内や関連記事が掲載された。
- ・国立能楽堂特別展「宝生宗家展」では、広報のためにポスター・チラシを作成し、全国の美術館・博物館に送付した。また、宝生会とコラボしたオリジナルグッズを作製・販売したところ、読売新聞「美術展ナビ」の通販サイトによる1月アクセスランキングで、グッズの「国立能楽堂能舞台アクリルスタンド」が3位に、『宝生宗家展図録』が8位にランクインした。展示と同時期に『少年サンデー』で連載が始まった宝生宗家・宝生和英師監修の漫画「シテの花」の作中に登場する能面も本展で展示しており、宝生宗家や作者・壱原ちぐさ氏の SNS での発信や、読売新聞「美術展ナビ」における漫画「シテの花」の記事での宝生宗家と作者・編集者の対談にて、本展について紹介があり、集客に効果があった。SNS 上での本展への評価も非常に高く、ある有識者の発信では、国立能楽堂の展示史上最大の業績とするものもあった
- ・文楽劇場の展示「国立文楽劇場の40年」において、協力企業の賛同を得て SNS で広報を行った。

#### 《展示公開等に関する映像配信》

| 実績   |          | 前年同期実績 |          |
|------|----------|--------|----------|
| 配信件数 | 視聴回数     | 配信件数   | 視聴回数     |
| 19 件 | 20,107 回 | 16 件   | 10,260 回 |

#### 《アンケート結果》

| 区分               | 会場  | 回収数   | 満足数   | 満足回答率 |
|------------------|-----|-------|-------|-------|
| 「国立能楽堂特別展「宝生宗家展」 | 能楽堂 | 228 人 | 221 人 | 96.9% |

- ・満足度の内訳は、日本人 97.6%(回答者数 206 人)、外国人 90.9%(回答者数 22 人)だった。

#### 《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

##### ＜調査事業委員からの意見＞

- ・「美術展ナビ」でのコラボ連載は有意義な取組である。再整備のために展示を開催できない期間も国立劇場所蔵資料の情報を発信していくことは重要である。
- ・展示「宝生宗家展」では、「大変重要な企画であった。最近では、能面が美術史、とりわけ彫刻の面から大変注目されており、大きな重要なジャンルとして認識されている。宝生宗家の能面の内、我々が知っているのは重要文化財のみであったが、今回の展示でそれ以外の能面や資料を見ることができたという点で大きな影響があった。
- ・展示「文楽で学ぶ なまずと西遊記」では、「夏休み公演の演目に沿うだけではなく、様々な機関から資料を借用し「なまず」というテーマで取り上げていた。夏休みで子供たちがたくさん来ており、演目だけでなく「なまず」そのものについて知ることもできる展示だった」との評価を得た。
- ・展示「国立文楽劇場の40年」では、「開場から最近までのポスターや写真で公演をたどり懐かしく感じ、また、流行りのものとコラボを行うなど、文楽劇場の活動の幅の広さを改めて知ることができた」との感想を得た。

- ・展示「国立文楽劇場 新収蔵品展」では、「最初の壁面の説明パネルで振興会の姿勢と分析がわかりやすく示されており、国立文楽劇場がどのような寄贈を受け、どのような活用を目指しているのかがよくわかった」との評価を得た。

#### ＜文楽公演専門委員からの意見＞

- ・展示「昭和の文楽 ～『義太夫年表 昭和篇』全巻刊行を記念して～」において、「昭和篇の完結は40周年を迎えた国立文楽劇場の数々の事業のなかでも特筆に値するものなので、もっとスペースを確保して編集チームの苦労が窺える資料も並べてもよかったのではないか」との意見を得た。
- ・展示「文楽で学ぶ なまずと西遊記」では、「第一部を観た子ども達の自由研究のテーマとしても打って付けであり、特に自然科学に軸足を置いた「なまず」の展示は、関係諸機関との積極的な連携が図られていて、小規模ながらも充実した内容であった」と好評を得た。
- ・展示「国立文楽劇場 新収蔵品展」では、「文楽劇場ならではの収蔵品それぞれに簡潔ながら丁寧なキャプションが附され、とても見応えがあった」との評価を得た。

#### (e) 展示図録の刊行

- ・特別展「宝生宗家展」図録(詳細は(1)ア「②演劇興行、上演に関する記録の調査研究・刊行等」を参照)

### ③ 再整備期間中の代替施設での安全な保管体制の構築

- ・国立劇場等の再整備期間における収蔵資料及び書籍等の保管等業務について、現施設の老朽化による設備機能低下を考慮しながら、収蔵資料及び書籍等の安全な保管体制構築のための検討を継続して行っている。

## (2) 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

### ア 公演記録の作成・活用

- ・公演に際し、映像・写真による記録を作成した。
- ・出演者・演出家等に、公演記録映像・音声を複製・提供し、他劇場を含めて公演制作等に資するとともに、出版社・放送局等に複製物を提供し、伝統芸能の普及に努めた。
- ・無料配信した舞踊公演(Enjoying the Masterpiece of Kabuki Dance)の視聴数(令和6年度)が32万回(令和4年度末の公開以来の累計は約80万回)に達し、海外を中心に多数のコメントが寄せられた。

#### ＜作成実績＞

| 区分       | 記録件数・内容                |
|----------|------------------------|
| 本館・演芸場   | 映像・音声・写真 28 公演         |
| 能楽堂      | 映像・音声・写真 50 公演         |
| 文楽劇場     | 映像・音声・写真 13 公演         |
| 国立劇場おきなわ | 映像・音声・写真 20 公演、写真 3 公演 |

#### ＜活用実績＞

| 区分       | 視聴      |          |           |          |         |          | 複製        |        |
|----------|---------|----------|-----------|----------|---------|----------|-----------|--------|
|          | 一般      |          | 関係者(出演者等) |          | 合計      |          | 関係者(出演者等) |        |
| 本館       | 266 件   | 670 時間   | 95 件      | 180 時間   | 361 件   | 849 時間   | 181 件     | 317 時間 |
| 能楽堂      | 1,089 件 | 1,973 時間 | 638 件     | 877 時間   | 1,727 件 | 2,849 時間 | 216 件     | 225 時間 |
| 文楽劇場     | 114 件   | 188 時間   | 394 件     | 463 時間   | 508 件   | 651 時間   | 130 件     | 310 時間 |
| 国立劇場おきなわ | 645 件   | 895 時間   | 3,209 件   | 4,036 時間 | 3,854 件 | 4,931 時間 | 20 件      | 33 時間  |

※時間は項目ごとに切上げ又は切捨てして表記しているため、合計と合わない場合がある。

#### ＜文楽劇場＞

- ・展示「文楽の襲名 ～十一代目豊竹若太夫襲名にちなんで～」では展示室内で初代若太夫の紹介をはじめ、十代若太夫の映像やレコード音源を用いた十代若太夫の演奏風景と、新若太夫(呂太夫時代)の公演記録を編集した「豊竹若太夫の名跡」を上映した。
- ・展示「国立文楽劇場の40年」では、展示室内で文楽座総出演による「寿式三番叟」(開場記念式典及び開場10周年記念式典)の記録映像を一部上映した。

## イ 普及活動

### ① 伝統芸能に関する公開講座、公演記録映像の有料配信等

#### (a) 伝統芸能に関する公開講座

| 会場       | 講座等名称                         | 実績  | 年度計画 | 達成率    |
|----------|-------------------------------|-----|------|--------|
| 本館       | アーカイブ映像有料配信<br>(国立劇場くろごちゃんねる) | 8回  | 8回   | 100.0% |
| 能楽堂      | 能楽特別講座                        | 3回  | 1回   | 300.0% |
| 文楽劇場     | アーカイブ映像有料配信<br>(文楽プレミアムシアター)  | 4回  | 4回   | 100.0% |
|          | 伝統芸能講座(文楽特別講座等)               | 2回  | 2回   | 100.0% |
| 国立劇場おきなわ | 公演記録鑑賞会・<br>沖縄伝統芸能公開講座        | 4回  | 4回   | 100.0% |
|          | 伝統芸能分野 合計                     | 21回 | 19回  | 110.5% |

#### <能楽堂>

- ・特別展「宝生宗家展」に関連した特別公開講座(有料1,000円)を2回開催した。1回目は12/10で、20代宝生宗家・宝生和英を講師として家元・能楽師の立場から本展の能面について講義し、119人の参加があり、2回目は2/21で、本展監修の宮本圭造を講師として研究者の立場から「宝生家本面の成立」をサブタイトルとして講義し、98人の参加があった。満足度は1回目が96%、2回目が92%だった。

#### <文楽劇場>

- ・第11回文楽特別講座は、「教えて！呂勢さん」と題し、太夫として近年ますます進境著しい豊竹呂勢太夫に受講希望者から募集した様々な質問を投げかけ、受講者の前で自由に回答してもらうことで、受講者が文楽や文楽技芸員をより身近に感じられる企画とした。講座の冒頭では三味線弾きで近年呂勢太夫と演奏を共にする人間国宝の鶴澤清治に、国立文楽劇場40年を振り返った思い出や呂勢太夫に関するインタビューを行った映像を上映し、受講者の好評を得た。
- ・第12回文楽特別講座は、「吉田和生の人形もの語り」と題し、6年11月に文化功労者として顕彰された吉田和生を講師に迎え、「もの(資料)」と「芸の伝承」をキーワードに開催した。和生が文楽劇場に寄贈した資料等を中心に、師匠・吉田文雀のエピソードも交えて解説を行った。事前に受講希望者から寄せられた質問に答えるコーナーも設け、受講者の好評を得た。

#### <国立劇場おきなわ>

- ・公演記録鑑賞と講座「打組舞踊」では、琉球舞踊公演「打組舞踊の会」に先立ち、過去の貴重な公演映像を鑑賞しつつ打組舞踊について学ぶ講座を行った。併せて、公演出演者である金城美枝子他2名をゲストに迎え、当時の様子や作品に込める思いをインタビューした。
- ・「歌って踊ろう！夏のおけいこ」(8/1～8/3)では、小学生を対象に2日間の舞踊稽古を行い、3日目に発表会を行った。稽古と併せて展示室内で舞踊・組踊についての学習及び映像鑑賞を実施した。
- ・10月企画公演「アジア・太平洋地域の芸能「韓国の梵唄と日本の語り」」に先立つ講座として開催した特別講座「仏教と語りと女性」では、日本の仏教について理解を深め、琵琶法師に始まる語り物の系譜をひもとき、韓国と比較しながら女性との関りについても探究した。
- ・公演記録鑑賞と講座「大川敵討の衣装とからくり花火」第1部では研究公演「1838年の史料に拠る 組踊『大川敵討―糺しの場より敵討まで―』」の公演映像を鑑賞しながら、上演に当たり衣装の研究・復元に携わった職人・研究者に座談会形式で話を伺った。第2部では、当劇場が復元してきた「琉球のからくり花火」の映像をまとめて鑑賞し、花火師・からくり製作者から創意工夫について話を聞いた。また今年度、長野県上清内路の花火師の協力のもと日本古来の「和火」を用いてより忠実に復元した成果を報告した。

#### <<講座に関する広報等>>

- ・振興会ニュース、あぜくら会会報、ホームページ、X(旧Twitter)等SNSにて開催案内等広報を行った。

#### <<公開講座等に関する映像配信>>

| 実績   |        | 前年同期実績 |        |
|------|--------|--------|--------|
| 配信件数 | 視聴回数   | 配信件数   | 視聴回数   |
| 3件   | 1,010回 | 3件     | 2,101回 |

#### (b) 舞台映像等の有料配信

| 実績 | 前年同期実績 |
|----|--------|
|    |        |

| 配信件数 | 視聴回数  | 配信件数 | 視聴回数    |
|------|-------|------|---------|
| 26 件 | 860 回 | 40 件 | 1,393 回 |

- ・「国立劇場くろごちゃんねる」として雅楽や民俗芸能、声明、大衆芸能など、多ジャンルにわたる配信を年8回行った。
- ・「文楽プレミアムシアター」と称し、過去に収録した国立文楽劇場及び国立劇場の文楽公演の記録映像から選りすぐりの作品を有料で配信し、特典として視聴者がダウンロードして利用できる床本集を提供した。

## ② 公演の実施にあわせた関連講座、展示等

### 《公演関連講座・展示等の実施実績》

| 区分       | 件数  | 参加者数     |
|----------|-----|----------|
| 本館       | 0 件 | 0 人      |
| 演芸場      | 0 件 | 0 人      |
| 能楽堂      | 1 件 | 156 人    |
| 文楽劇場     | 4 件 | 23,840 人 |
| 国立劇場おきなわ | 8 件 | 11,863 人 |

#### ＜能楽堂＞

- ・特別企画公演「武文」に関連して、特別公開講座「復曲能「武文」再演にあたって」を開催した。基調講演を立教大学教授・横山太郎が行い、35年ぶりの復曲に際しての台本・演出の再検討について講義し、その後出演者を交えた座談を行った。
- ・宝生流の主催公演(11/23 企画公演復曲能〈空蟬〉、2/28 企画公演復曲能〈雷電〉、企画公演復曲能〈武文〉)において、開催期間中の特別展「宝生宗家展」で展示した能面を舞台上で使用して話題となり、展示の集客にも効果があった。

## ③ 組踊等沖縄伝統芸能の普及活動の充実

- ・学校に実演家が赴いて、浦添市管内の小学生に琉球芸能の魅力を伝えるおでかけワークショップを引き続き実施した。また、県の受託事業で県内3校の学校を対象に「普及公演 組踊鑑賞教室『万歳敵討』」鑑賞前の事前ワークショップを実施した。
- ・沖縄県の首里城復興イベントと同時開催で、首里城にて組踊ワークショップを実施し、公演の告知を兼ねて組踊の普及活動を実施した。

## 4 - [2] 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

### 《中期計画の概要》

- 4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用  
現代舞台芸術の公演の充実等に資するため、調査研究並びに資料の収集及び活用を行う関係機関等と連携した取組を進める
- (2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用
- ア 新国立劇場で上演する現代舞台芸術に関し、上演作品等についての資料調査を実施
  - イ 現代舞台芸術に関する図書、資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供する他の劇場施設等への貸与を実施
  - ウ 収集した資料等を新国立劇場その他の施設において展示し、ICT等を有効利用して公開
  - エ 舞台美術センター資料館については、展示施設としての機能から衣裳等の保管機能への移行を進める
- (3) 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用し、普及活動の実施
- ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存し、閲覧・視聴に供する
  - イ 公開講座、公演記録の鑑賞会やICTを活用した公演記録映像の有料配信等を実施

### 《年度計画の概要》

- 4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用
- (3) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用
- ア 新国立劇場で上演する現代舞台芸術の主催公演等の上演作品等についての資料調査
    - ① 現代舞台芸術に関する調査を新国立劇場での上演に活用、調査結果を活用して講演会等の実施
    - ② 他劇場等の情報収集・活用
    - ③ 主催公演の公演記録映像、写真、舞台演出・美術資料等について整理・保存、他の劇場施設等へ貸与
    - ④ 外部の研究機関等と連携して現代舞台芸術に関する調査研究を行い、その成果を展示等で紹介
  - イ 現代舞台芸術に関する図書、資料等の収集整理、公演関係者、研究者及び一般の閲覧に供し、他の劇場施設等へ貸与
    - ① 情報センターについて、開架図書の整備、ホームページにおける所蔵資料検索サービスの提供等、利便性に配慮した利用促進
    - ② 図書資料管理システムについて、図書等の情報のデータベース化
    - ③ ホームページで公開している「公演記録データベース」の充実
    - ④ 所蔵品管理システムについて、寄贈資料や公演関連資料のデータベース化を実施
  - ウ 収集した資料等の展示公開を、別表 9 のとおり実施  
舞台美術センター資料館については施設に対する活用方法に係るニーズが変化したことから、第 5 期中期目標期間に展示施設としての機能から衣裳等の保管機能へ移行することを目指し、地元への説明を行うなど具体的な作業を進める
- (4) 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施
- ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存し、公演関係者・研究者及び一般の視聴・閲覧に供して、再演及び他劇場の公演、現代舞台芸術の研究等に活用
  - イ 現代舞台芸術の理解促進と普及を図るため、普及活動を実施
    - ① 現代舞台芸術に関する公開講座、公演記録映像の有料配信等を別表 10 のとおり実施
    - ② 公演の実施にあわせた関連講座、展示等

### (3) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

#### ア 主催公演の上演作品等についての資料調査

##### ① 現代舞台芸術に関する調査・調査結果を活用した講演会等の実施

- ・小川絵梨子演劇芸術監督及び演劇研究会委員による演劇研究会を定期開催した。
- ・民間出版社と連携して戯曲を刊行した。
  - ◇10月演劇「ピローマン」(「悲劇喜劇」2024年11月号掲載)
  - ◇12月演劇「白衛軍 The White Guard」(「悲劇喜劇」2025年1月号掲載)
- ・演劇公演において、公演終了後に演出家・出演者が登壇し演出の狙いや制作過程等について語り合う「シアタートーク」を開催した。
- ・新制作オペラの作品理解を深めるため、オペラ「夢遊病の女」「ウィリアム・テル」で指揮者や演出家等のスタッフによるオペラトークを行った。また、オンライン(YouTube)でもアーカイブ配信を行った。
- ・現代舞台芸術に関する調査研究の成果を記事として下記公演プログラムに掲載した。  
オペラ：9冊、演劇：6冊

##### ② 他劇場等の情報収集・活用

- ・「演劇研究会」により国内の劇場(愛知県芸術劇場)を調査研究し、成果を演劇公演プログラムに掲載した。
- ・国内外の劇場について、劇場のホームページや年報等の情報を基に資料収集・調査を実施した。

##### ③ 公演記録の整理・保存・他劇場等への貸与

- ・主催公演の公演記録映像、写真、舞台演出・美術資料の整理・保存を行った。
- ・主催公演のプログラム、上演台本、ポスター等の主催公演資料を管理システムに登録し、公開した。
- ・主催公演の出演者やスタッフ等の情報について、公演記録データベースの作成作業を進めた。
- ・公演記録写真を雑誌社、放送局等へ貸出した。
- ・フランス・パリの音楽博物館で開催されたフィルハーモニー・ド・パリ「ラヴェル・ボレロ」展覧会に、オペラ「子どもと魔法」の公演映像を提供した。

##### ④ 外部機関等との連携による調査研究

- ・学校法人華学園 華服飾専門学校在校生が初台アート・ロフトのクリエイティブチームと共に18世紀衣裳の特徴に焦点を当てた、ストマッカー<V字型パネル状胸衣>をつくるワークショップを実施し、それらがいかにかに舞台衣裳の技法や表現に採り入れられていったかを学んだ。その後も同ワークショップに参加した学生のうち数名が、インターンとして展示の装飾物製作や設営補助に関わった。舞台衣裳に興味を持ち、この分野に就職を希望する学生にとっては数少ない実践の場となっている。
- ・オペラ「夢遊病の女」「ウィリアム・テル」では、日本ロッシーニ協会と連携し、作品に関連した所蔵品を借用し、情報センターとオペラ劇場ホワイエ(「ウィリアム・テル」のみ)にて展示を行った。

#### イ 現代舞台芸術に関する図書・資料の収集・活用

##### ① 情報センターの利用促進

###### (a) 収集・公開実績

| 区分        | 収集   |     | 公開     |      |          |         |           |      |
|-----------|------|-----|--------|------|----------|---------|-----------|------|
|           | 図書   | 資料  | 利用者数   | 開室日  | ビデオブース利用 | タブレット利用 | ビデオシアター利用 | 図書貸出 |
| 情報センター閲覧室 | 389冊 | 11点 | 5,411人 | 230日 | 798人     | 434人    | 1,047人    | 0件   |

###### (b) 現代舞台芸術に関する図書・資料等の他の劇場施設等への貸与等

| 展示名                                     | 会場                        | 主催等  | 活用内容            | 日程            |
|---|---------------------------|--|-----------------|---------------|
| 「オペラの扉 2024 ～コミカルオペラ展 すべて冗談！！愉快的オペラたち～」 | ロームシアター京都<br>及び特設 WEB サイト | 公益財団法人ローム ミュージック<br>ファンデーション、<br>公益財団法人京都市音楽芸術<br>文化振興財団 | 舞台装置模型・<br>衣裳貸出 | 9/11<br>～12/1 |

##### ② データベースの充実

###### (a) 図書資料管理・所蔵品管理システム

- ・単行本、台本、公演プログラム等の図書資料や映像資料等を登録し、収集情報をホームページで公開した。

###### (b) 公演記録データベース

- ・公演ポスター(主催公演・貸劇場公演等)を新たに登録し、公演の充実に資するとともに、所蔵情報をホームページで公開した。

## ウ 資料等の展示公開

### (a) 展示公開実績

| 展示室    | 企画内容           | 日程 | 日数(日) | 来場者数(人) |       | 達成率    |
|--------|----------------|----|-------|---------|-------|--------|
|        |                |    |       | 実績      | 年度計画  |        |
| 新国立劇場内 | 公演関連展示(情報センター) | 随時 | 230   | 5,411   | 3,600 | 150.3% |

### 《新国立劇場内のオープンスペースを活用した衣裳展示等実績》

| 内容                                     | 期間                | 特記事項   |
|--|-------------------|--|
| 初台アート・ロフト<br>「針と糸で繋ぐ未来への扉」展            | 4月1日(月)~9月下旬まで    | 「初台アート・ロフト」について、4月から「針と糸で繋ぐ未来への扉展」と題して展示内容の更新を行った。   |
| 初台アート・ロフト<br>「針と糸で繋ぐ未来への扉」展<br>ワークショップ | 7/21~31           | 初台アート・ロフト「針と糸で繋ぐ未来への扉展」に関連して、初台アート・ロフトのクリエイティブチームが講師となり、参加者が針と糸を使って花のブローチを製作するワークショップを実施した。        |
| 「リカちゃん」×新国立劇場バレエ団<br>特別展示              | 7/27~30           | こどものためのバレエ劇場 2024「人魚姫 ~ある少女の物語~」の会場ホワイエにて、特別協賛社の株式会社タカラミーによる本公演オリジナル「リカちゃん」の特別展示を行った。              |
| 初台アート・ロフト<br>「クリエイターたちの集い」展            | 11/13~2025年2月下旬   | 「初台アート・ロフト」について、11月から「クリエイターたちの集い」展と題して展示内容の更新を行った。  |
| 初台アート・ロフト<br>「クリエイターたちの集い」展<br>ワークショップ | 1/19・25・2/5・3/1・9 | 初台アート・ロフト「クリエイターたちの集い」展に関連して、初台アート・ロフトのクリエイティブチームが講師となり、参加者が針と糸を使って展示の装飾となる花のパーツを製作するワークショップを実施した。 |

### (b) 展示公開に関する広報等

- ・会報誌ジ・アトレ、ホームページ、SNS等にて告知を行った。

### (c) 舞台美術センター資料館の機能移行

- ・舞台美術センター資料館(銚子市)については、衣裳等の保管機能を強化することとし、機能の移行を進めていくに当たって、地元地域への説明等の今後の計画を検討した。

## (4) 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

### ア 公演記録の作成・活用

- ・記録写真をホームページの「舞台写真・公演記録」ページで、記録映像を情報センターで公開した。
- ・「新国デジタルシアター」を通じたインターネット配信による公演記録映像の有効活用を推進した。特に、OperaVisionを通して配信したバレエ「アラジン」の公演映像は70万回を超える視聴数となり、OperaVisionが扱った配信での最多視聴数を記録した。

### 《作成実績》

| 区分         | 実績             |
|------------|----------------|
| 記録件数・内容    | 映像・音声・写真 21 公演 |
| 公開件数(記録写真) | 21 公演          |
| 公開件数(記録映像) | 11 公演 11 件     |

## イ 普及活動

### ① 現代舞台芸術に関する公開講座等

#### (a) 公開講座等実績

| 会場    | 講座等名称          | 実績  | 年度計画 | 達成率    |
|-------|----------------|-----|------|--------|
| 新国立劇場 | 現代舞台芸術講座       | 19回 | 18回  | 105.6% |
|       | 新国デジタルシアター映像配信 | 10回 | 10回  | 100.0% |
|       | 現代舞台芸術分野 合計    | 29回 | 28回  | 103.6% |

- ・青島広志の解説とピアノ演奏、ゲスト歌手の歌唱、公演記録映像を教材としたレクチャー・イベント「教えて、ブルーアイランド先生！新国立劇場で学ぶオペラの歴史」を実施した(全6回。チケット販売実績:1,035枚)。
- ・演劇研究会の成果として、公演ガイドツアーや、演出家等が演劇公演の作品の見どころ等について解説する「演劇嘶」、中高生向けのワークショップ等、演劇制作の現場や舞台の周辺などを様々な切り口で掘り下げる「ギャラリープロジェクト」を開催した。
- ・ギャラリープロジェクトはオンライン(YouTube)でも開催した。

#### 《ギャラリープロジェクト開催実績》

- ・現代舞台芸術講座としてギャラリープロジェクトをオンライン(YouTube)及び対面で開催した。

| 実績  |        | 前年度実績 |        |
|-----|--------|-------|--------|
| 件数  | 参加者数   | 件数    | 参加者数   |
| 13件 | 4,302人 | 13件   | 5,527人 |

※参加者数には、オンラインでの視聴回数を含む。

#### 《公演記録映像の有料配信》

| 実績 |      | 前年同期実績 |      |
|----|------|--------|------|
| 件数 | 参加者数 | 件数     | 参加者数 |
| 0件 | 0回   | 2件     | 436回 |

#### (b) 公開講座等に関する広報等

- ・会報誌ジ・アトレ、公演プログラム、ホームページ、SNS等にて告知を行った。

### ② 公演の実施にあわせた関連講座・展示等

#### 《公演関連講座・展示等の実施実績》

| 区分    | 件数  | 参加者数   |
|-------|-----|--------|
| 新国立劇場 | 14件 | 4,693人 |

※参加者数は配信開始から

- ・上記の他に、新国立劇場内情報センターにて随時公演関連展示を行った(4-3月実績:来場者数5,411人)。
- ・オペラ「夢遊病の女」の上演に合わせ、日本ロッシェニ協会会長 水谷彰良氏所蔵品によるベッリーニ関連資料の展示を情報センターにて行った。
- ・オペラ「ウィリアム・テル」の上演に合わせ、日本ロッシェニ協会会長 水谷彰良氏所蔵品による「ウィリアム・テル」関連資料の展示を情報センターおよびオペラ劇場ホワイエにて行った。



## Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにと るべき措置

### 1 業務運営の効率化

- (1) 組織体制の整備・強化
- (2) 給与水準の適正化
- (3) 契約の適正化
- (4) 共同調達等の取組の推進
- (5) 情報システムの活用
- (6) 予算執行の効率化



## II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 《中期計画の概要》

#### II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

##### 1 業務運営の効率化に関する取組

運営費交付金を充当して行う事業については、一般管理費及び業務経費の合計について、令和4年度比5%以上の効率化を図る

##### 2 組織体制の整備・強化

劇場間の連携強化を図るとともに、再整備期間中の業務及び組織体制の検討を行い、必要な措置を講ずる

##### 3 給与水準の適正化等

国家公務員の給与水準等とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表

##### 4 契約の適正化

「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」に基づく取組を実施、外部有識者等で構成する契約監視委員会による点検など、契約の適正化を推進、毎年度「調達等合理化計画」を策定し、点検、見直し

##### 5 共同調達等の取組の推進

###### (1) 共同調達

各施設の業務内容や地域性を考慮しつつ、他法人や周辺の機関と連携し、コピー用紙等の消耗品や役務について、共同して調達する取組を年度計画に具体的な対象品目を定めた上で進める

###### (2) 省エネルギー、リサイクルの推進

省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクル、ペーパーレス化等を推進

##### 6 情報システムの活用

ICTの活用など効率的な情報システムの整備により、各事業の効果的・効率的な運営を支援

##### 7 予算執行の効率化

運営費交付金の会計処理として、収益化単位の業務ごとに予算と実績を適切に管理

### 《年度計画の概要》

#### II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

##### 1 業務運営の効率化を進めるため、次の措置を講ずる

###### (1) 組織体制の整備・強化

国立劇場等の再整備期間中の業務に応じた組織体制を検討し、必要な措置を講ずる

###### (2) 給与水準の適正化

国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表

を公表

(3) 契約の適正化

ア 「調達等合理化計画」に基づく契約の適正化

イ 契約監視委員会において、定期的に契約の点検を行い、その結果を踏まえた見直しを実施

ウ 入札事務の効率化と競争参加者の利便性向上のため、電子入札を一部の案件で実施

(4) 共同調達等の取組の推進

ア 共同調達等の取組の推進

イ 省エネルギー、リサイクルの推進

(5) 情報システムの活用

ア ICT の活用など効率的な情報システムの整備により、各事業の効果的・効率的な運営を支援

イ ワークフローシステム等の電子決裁を推進

ウ 国立劇場等の再整備期間中の業務の円滑化のため、仮想デスクトップシステム等のクラウドサービスの的確な運用、サービスの見直しやシステム整備、更なる業務の効率化に向けた改善

(6) 予算執行の効率化

運営費交付金の会計処理として、引き続き、収益化単位の業務ごとに予算と実績を適切に管理

|                         |  |
|-------------------------|--|
| 自己評価                    | <b>B</b>   |
| 自己評価の根拠                 | <p>以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を達成しているため、自己評価はB評価とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラウドコールセンターシステムなど情報システムの有効活用により、代替施設における公演や再整備に伴う業務体制の多様化等に対応した。</li> <li>・国立劇場等の再整備期間中の組織体制については、再開場も視野に入れ、状況や業務の変化に応じた改善を図るため、新たな組織体制を検討し、令和7年4月からの運用開始を実現した。</li> <li>・電子決裁の有効活用によるペーパーレス化が一層進んだ。</li> <li>・その他の項目についても、計画どおり必要な措置を講じた。</li> </ul>  |
| 数値目標の達成状況<br>実績/目標（達成率） | 「業務運営の効率化に関する取組」参照   |
| 主要な業務実績                 | <p><b>(1) 組織体制の整備・強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・再開場も視野に入れ、状況や業務の変化に応じた改善を図るため、新たな組織体制を検討し、令和7年4月からの運用に向けて準備を進めた。</li> <li>・伝統芸能伝承者の養成計画を作成し、また、養成事業に係る周知広報等について各館の連携強化を図るため、調査養成部に養成企画課を設置した。</li> <li>・基金部において助成業務の増加に対応するため、各課における所掌の見直しや、文化振興助成課第三係の統合など組織改正を行い、業務運営体制の効率化を図った。</li> </ul> <p><b>(2) 給与水準の適正化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度の給与水準について、検証結果や取組状況を公表した。</li> </ul> <p><b>(3) 契約の適正化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度の「調達等合理化計画」を策定し、調達等の合理化に取り組んだ。</li> </ul> <p><b>(4) 共同調達等の取組の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コピー用紙の調達については、振興会と独立行政法人国立美術館、独立行政法人日本学術振興会及び独立行政法人日本スポーツ振興センターの4者により共同調達を実施した。</li> <li>・トイレトペーパー及びペーパータオルの調達については、公益財団法人新国立劇場運営財団と共同調達を実施した。</li> <li>・省エネルギー及び環境に配慮した業務運営を推進するため、エネルギー管理体制や取組方針を定めた「エネルギー管理基本方針」を策定した。また、「独立行政法人日本芸術文化振興会がその事務及び事業に関し温室効果ガスの排出の削減等のため実行すべき措置について定める計画」に基づき、令和7年度からの隼町地区の電力について、再生可能エネルギーを含む電力調達の契約を行った。</li> </ul> <p><b>(5) 情報システムの活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コールセンターシステム機器の老朽化及び国立劇場再整備に伴う事務所移転への対応として、クラウドコールセンターシステムを導入、運用を開始した。</li> </ul> <p><b>(6) 予算執行の効率化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各課室の予算執行見込について調査し、不用・不足を調整、予算の効率的な執行に努めた。</li> </ul> |

## 1 業務運営の効率化

### 【業務運営の効率化に関する取組】

一般管理費及び業務経費:以下の数式により効率化の達成状況を計っている。

増減比率 (B-A)÷A

A: 令和5年度の予算額(特殊要因経費、新たに追加される業務、公課公租及び人件費を除く)

※運営費交付金算定の基礎となった額

B: 当該年度の予算額(特殊要因経費、新たに追加される業務、公課公租及び人件費を除く)

#### 《一般管理費》

| 区分         | 金額     |
|------------|--------|
| 令和5年度予算(A) | 381百万円 |
| 令和6年度予算(B) | 377百万円 |
| 増減比率       | △1%    |

#### 《業務経費》

| 区分         | 金額       |
|------------|----------|
| 令和5年度予算(A) | 5,076百万円 |
| 令和6年度予算(B) | 5,023百万円 |
| 増減比率       | △1%      |

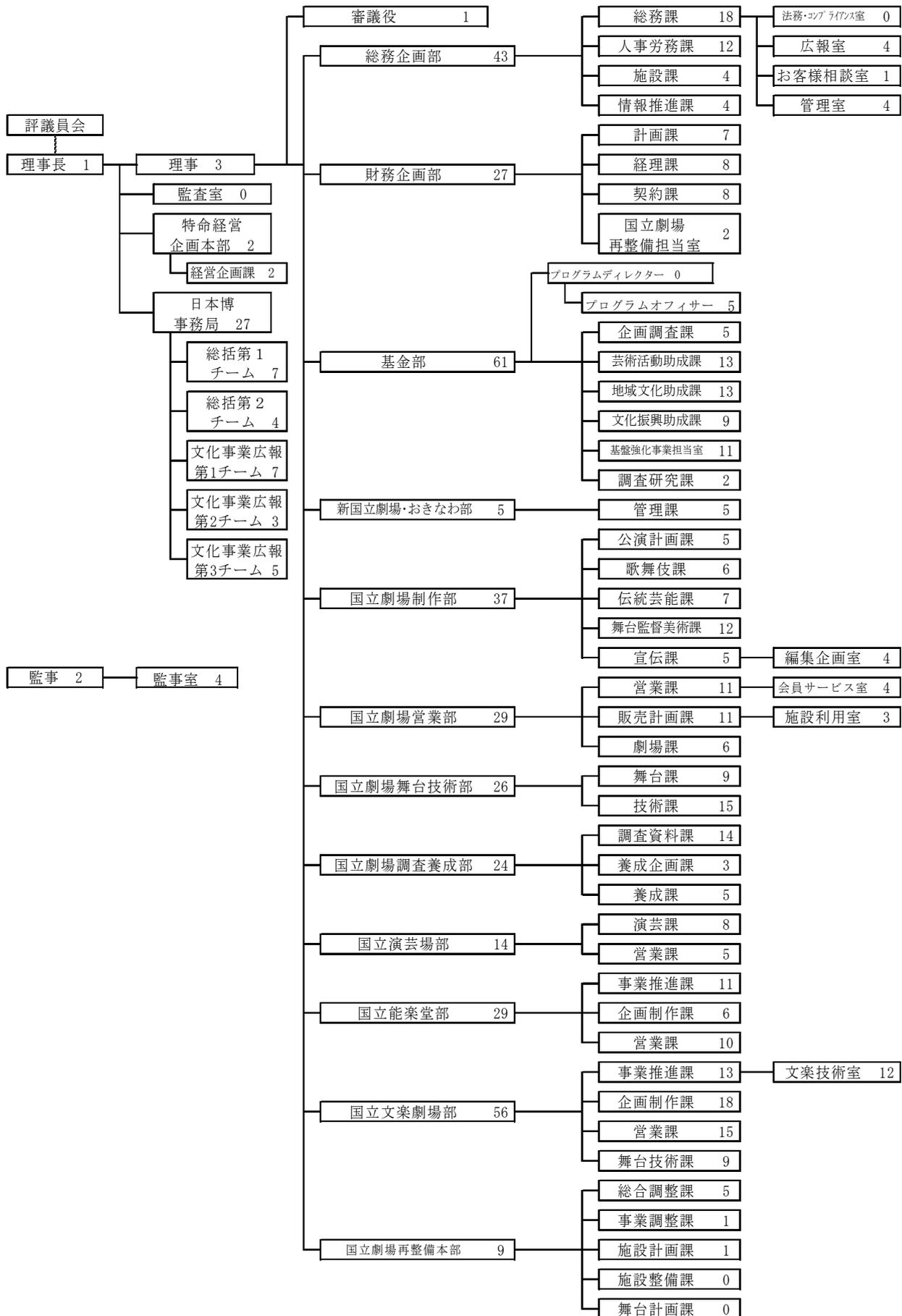
※増減比率は千円単位の予算に基づいて算出しているため、百万円単位での計算と一致しない場合があります。

### (1) 組織体制の整備・強化

- ・再開場も視野に入れ、状況や業務の変化に応じた改善を図るため、新たな組織体制を検討し、令和7年4月からの運用に向けて準備を進めた。
- ・伝統芸能伝承者の養成計画を作成し、また、養成事業に係る周知広報等について各館の連携強化を図るため、調査養成部に養成企画課を設置した。
- ・基金部において助成業務の増加に対応するため、各課における所掌の見直しや、文化振興助成課第三係の統合など組織改正を行い、業務運営体制の効率化を図った。

《組織図》

※ 数字は役員及び常勤職員数(令和7年3月31日現在)



## (2) 給与水準の適正化

### ア 対国家公務員指数への適正な水準の維持

- ・ラスパイレス指数<sup>※</sup>は、111.3（地域・学歴勘案=97.5）であり、地域・学歴を勘案した指数では国家公務員の水準未満であった。
- ・また、全独立行政法人のラスパイレス指数は、102.8（地域・学歴勘案=101.4）であり、当振興会の水準は、地域・学歴を勘案した指数では全独立行政法人の水準未満であった。

※ラスパイレス指数=国の一般職俸給表適用者の給与を100としたときの給与水準の指数

<国からの財政支出>

支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 79.7%

(国からの財政支出額 23,561 百万円/支出予算の総額 29,580 百万円(令和5年度予算))

### イ 給与水準の適正化に関する検証結果・取組状況の公表

- ・引き続き国家公務員との給与の比較を行い、ホームページに「独立行政法人日本芸術文化振興会の役職員の報酬・給与等について」を掲載し、給与水準に係る適正化に関する検証結果及び取組状況を公表した(令和5年度ベース)。

## (3) 契約の適正化

### ア 「調達等合理化計画」に基づく契約の適正化

- ・公正性・透明性を確保しつつ、自律的かつ継続的に調達等の合理化に取り組むことを目的として、令和6年度の「調達等合理化計画」を策定し、公表した。
- ・「調達等合理化計画」に基づき、適正な調達手続きの周知、理解を徹底し、不祥事の発生の未然防止を図るため、「調達手続きの手引き」改訂版を経理関係業務研修会、内部ホームページ及び掲示板により周知を図った。

### イ 契約監視委員会における契約の点検

- ・第31回契約監視委員会(6/18)  
議事：令和5年度契約に関する点検・見直し(審議)、令和6年度調達等合理化計画の策定について(審議)、連続一者応札・応募等事案フォローアップ(令和5年度分)について(報告)、令和5年度調達等合理化計画の自己評価の実施(報告)
- ・第32回契約監視委員会(12/12)  
議事：連続一者応札・応募等事案フォローアップ(令和6年度分)について(審議)、令和6年度調達等合理化計画における進捗状況について(報告)

### 《改善内容》

- ・職員向けの調達手続きの手引きを改定(第9版)し、調達事務の効率的かつ適正な実施を図った。
- ・入札事務の効率化及び契約手続きの公正性・透明性の推進のため、入札参加要件や契約要件の標準的な設定方法等の入札公告等書類の記載事項の見直し及び様式の改定を行った。
- ・工事及び設計コンサルティング業務における入札及び契約の過程並びに契約の内容等に関する情報の公表について見直しを行い、契約の透明性・公正性の向上を図った。
- ・「消費税・地方消費税確定申告書作成及び代理提出業務並びに税務全般に関する相談業務(令和6年12月～令和11年11月)」(仕様内容等を検討し、複数年契約への切替えにより、業務の効率化を行った。)
- ・「令和7・8年度独立行政法人日本芸術文化振興会施設(隼町地区及び国立能楽堂)警備等業務」及び「令和7・8年度国立劇場構内及び国立能楽堂構内清掃業務」(仕様内容等を検討し、総合評価落札方式から最低価格落札方式に切り替えることにより、入札手続きの簡素化を図り、業務の効率化を行った。)
- ・「令和7年度国立劇場及び国立能楽堂構内の産業廃棄物収集運搬・処分業務委託」(事業系一般廃棄物及び再利用廃棄物の収集及び運搬処理業務と切り離すことにより、仕様及び契約内容の明確化を図った。)
- ・「令和7年度公演記録映像収録等業務(本館・演芸場)」(別途調達していた収録機器の賃貸借を統合することにより、業務の効率化を行った。)
- ・「令和7年度国立劇場伝統芸能伝承者養成所研修生の傷害保険」(プレ研修の実施に係る付保及び研修生の人数増減に伴う契約変更にも都度対応して手続きを行っていた従来の方式を、契約期間終了後に実績に基づき精算する契約方式に改め、業務の効率化を行った。)

## ウ 電子入札の実施

- ・入札事務の効率化を図るほか、入札参加者の利便性向上のため、工事及び設計・コンサルティング業務について電子入札を導入している。

## (4) 共同調達等の取組の推進

### ア 共同調達等の取組の推進

#### ① コピー用紙

- ・振興会と独立行政法人国立美術館、独立行政法人日本学術振興会及び独立行政法人日本スポーツ振興センターとの間の共同調達に関する協定に基づき、コピー用紙の共同調達を実施した。

#### ② トイレトペーパー及びペーパータオル

- ・振興会と公益財団法人新国立劇場運営財団との間の共同調達に関する協定に基づき、トイレトペーパー及びペーパータオルの共同調達を実施した。

### イ 省エネルギー、リサイクルの推進

#### ① 地球温暖化対策計画書等の作成、二酸化炭素(CO2)の削減推進

- ・省エネルギー及び環境に配慮した業務運営を推進するため、エネルギー管理体制や取組方針を定めた「エネルギー管理基本方針」を策定した。
- ・「独立行政法人日本芸術文化振興会がその事務及び事業に関し温室効果ガスの排出の削減等のため実行すべき措置について定める計画」に基づき、令和7年度からの隼町地区の電力について、再生可能エネルギーを含む電力調達の契約を行った。

#### ② 光熱水量の節減

- ・国立劇場・国立演芸場が令和5年10月をもって閉場したことにより、隼町地区の電気・ガス・水道使用量が減少した。

| 事項 | 区分                 | 使用量                    | 対前年度増減率 |
|----|--------------------|------------------------|---------|
| 電気 | 本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館 | 2,579,360 kwh          | △ 40.6% |
|    | 能楽堂                | 786,872kwh             | +5.3%   |
|    | 文楽劇場               | 1,210,854 kwh          | +2.0%   |
|    | 合計                 | 4,577,086kwh           | △ 27.0% |
| ガス | 本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館 | 82,916 m <sup>3</sup>  | △ 27.8% |
|    | 能楽堂                | 83,376 m <sup>3</sup>  | +3.9%   |
|    | 文楽劇場               | 87,408 m <sup>3</sup>  | +7.7%   |
|    | 合計                 | 253,700 m <sup>3</sup> | △ 8.2%  |
| 水道 | 本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館 | 9,249 m <sup>3</sup>   | △ 63.1% |
|    | 能楽堂                | 7,430 m <sup>3</sup>   | +11.8%  |
|    | 文楽劇場               | 8,972 m <sup>3</sup>   | △ 1.0%  |
|    | 合計                 | 25,651 m <sup>3</sup>  | △ 37.1% |

#### ③ 廃棄物の減量化

- ・本館・演芸場が令和5年10月をもって閉場したことにより隼町地区の各種廃棄物の廃棄量が減少した。
- ・能楽堂においては、貸劇場公演におけるチラシ廃棄の増加や、来場者が劇場内で食事をとることが増えたことによる弁当容器等廃棄の増加により、一般廃棄物及び産業廃棄物の廃棄量が増加した。

| 事項     | 区分                 | 処理量       | 対前年度増減率 |
|--------|--------------------|-----------|---------|
| 一般廃棄物  | 本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館 | 9,317 kg  | △ 77.7% |
|        | 能楽堂                | 5,317kg   | +34.6%  |
|        | 文楽劇場               | 9,926kg   | △ 16.4% |
|        | 合計                 | 24,560kg  | △ 57.4% |
| 再利用廃棄物 | 本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館 | 22,600 kg | △ 46.8% |
|        | 能楽堂                | 4,041kg   | △ 18.0% |

|       |                    |           |         |
|-------|--------------------|-----------|---------|
|       | 文楽劇場               | 9,390kg   | +2.3%   |
|       | 合 計                | 36,031kg  | △ 36.3% |
| 産業廃棄物 | 本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館 | 33,102 kg | △ 50.9% |
|       | 能楽堂                | 754kg     | +66.4%  |
|       | 文楽劇場               | 5,040kg   | △ 7.2%  |
|       | 合 計                | 38,896kg  | △ 47.0% |

#### ④ ペーパーレス化

- ・電子決裁の活用等によるペーパーレス化が一層進んだ。
- ・国立劇場・国立演芸場が令和5年10月をもって閉場したことにより、コピー枚数が減少した。

| 事 項           | 区 分                | 枚数          | 対前年度増減率 |
|---------------|--------------------|-------------|---------|
| コピー用紙<br>使用量  | 本館・演芸場             | 647,036 枚   | △ 19.6% |
|               | 事務棟                | 1,573,622 枚 | △ 17.0% |
|               | 伝統芸能情報館            | 261,699 枚   | △ 18.0% |
|               | 能楽堂                | 451,533 枚   | +20.3%  |
|               | 文楽劇場               | 285,654 枚   | △ 11.1% |
|               | 合 計                | 3,219,544 枚 | △ 13.4% |
|               | うち管理部門             | 1,073,279 枚 | △ 4.3%  |
| コピー用紙<br>購入枚数 | 本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館 | 1,779,500 枚 | △ 15.5% |
|               | 能楽堂                | 329,000 枚   | +8.4%   |
|               | 文楽劇場               | 269,500 枚   | △ 3.1%  |
|               | 合 計                | 2,378,000 枚 | △ 11.5% |

#### ⑤ グリーン購入法に基づく調達

- ・事務用消耗品を中心に、環境物品等の調達の推進を図るための方針に基づいた物品購入等を行い、可能な限り環境への負荷の少ない物品等の調達に努めた。

### (5) 情報システムの活用

- ・コールセンターシステム機器の老朽化及び国立劇場再整備に伴う事務所移転への対応として、クラウドコールセンターシステムを導入した。
- ・令和5年度末に隼町地区で本格運用が始まったスマートフォンをより安定して利用できるようにするため、同地区及び国立オリンピックセンターに於いて電話回線網の整備を行った。
- ・国立劇場再整備に伴う業務体制の多様化等に対応するため、隼町地区においてインターネット FAX を導入した。
- ・振興会 Web サイトの中核を成す CMS(コンテンツマネジメントシステム)をOSのセキュリティサポートの終了に合わせて更新し、安全に運用を行うための環境を維持するとともに、フォーム入力に関わるセキュリティ強化を行った。
- ・振興会 Web サイトを改修し、外部劇場での主催公演情報をより分かりやすくするための公演カレンダーを追加した。
- ・若年層への芸術文化の普及を促すため、国立劇場こどもサイトの作成を進めた。
- ・舞台技術部署が舞台図面の作成等に利用している高性能の業務用パソコンを更新し、安定して業務を行うための環境を整えた。
- ・文化デジタルライブラリーシステムのデータバックアップ機能を充実させ、ランサムウェアの被害を受けた場合にもデータの復旧を行えるようにした。
- ・管理業務システム、文書管理システム及び施設利用システムの更新に向けた検討を進めた。
- ・助成業務システムの更新に向けた検討を進め、担当部署等との協議を深めた。

### (6) 予算執行の効率化

- ・各課室の予算執行見込について把握し、不用・不足を調整する等、効率的な予算執行に努めた。

## Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画

- 1 予算
- 2 収支計画
- 3 資金計画
- 4 保有資産の処分



### Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画

#### 《中期計画の概要》

##### Ⅲ 予算(人件費の見積もりを含む)、収支計画及び資金計画

実績を勘案しつつ、国民の鑑賞機会の確保と芸術活動の独創性等に十分留意した上で、社会情勢に対応した事業展開において安定的な自己収入の確保を図るとともに、保有財産の有効活用やクラウドファンディング等を活用した外部資金の獲得など多様な財源確保に努め、計画的な収支計画による運営を図る

管理業務の効率化を進めるため、各事業年度において適切な効率化を見込んだ予算による運営に努める

1 予算(中期計画の予算) 別紙1のとおり

2 収支計画 別紙2のとおり

3 資金計画 別紙3のとおり

4 保有資産の処分

「独立行政法人の保有資産の不要認定に係る基本的視点について」に基づき、保有の必要性を不断に見直し、保有の必要性が認められないものについては、不要財産として国庫納付等を行う

##### Ⅳ 短期借入金の限度額

短期借入金の限度額は、10億円

短期借入金が想定される理由は、運営費交付金の受入の遅延が生じた場合である

##### Ⅴ 不要財産又は不要財産となることが見込まれる財産の処分等に関する計画

すでに廃止を決定した船橋第三職員宿舎、習志野職員宿舎について、独立行政法人通則法第46条の2の規定に基づき、中期目標期間中に当該不要財産を国庫納付する

##### Ⅵ 重要な財産の処分等に関する計画

重要な財産を譲渡、処分する計画はない

##### Ⅶ 剰余金の使途

決算において剰余金が発生したときは、次の経費等に充てる

1 助成事業の充実

2 公演事業の充実

3 伝統芸能伝承者養成事業・現代舞台芸術実演家等研修事業の充実

4 調査研究・資料の収集活用・公演記録の作成活用等事業の充実

5 研修器具、芸能資料等の購入・修理

6 観劇者サービス、情報提供の質的向上、老朽化対応等のための施設・設備の充実

#### 《年度計画の概要》

##### Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画

目標自己収入額:3,178百万円

1 予算 別紙 1 のとおり

2 収支計画 別紙 2 のとおり

3 資金計画 別紙 3 のとおり

4 保有資産の処分

保有の必要性を不断に見直し、保有の必要性が認められないものは不要財産として国庫納付等を行う

|                         |   |
|-------------------------|---|
| 自己評価                    | <b>B</b>  |
| 自己評価の根拠                 | <p>以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を達成したため、自己評価はB評価とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効率的な業務運営を見込んだ予算の策定を行い、法人全体で予算執行の抑制に努めた。</li> <li>・運営費交付金を適切かつ効率的に使用するため、第3四半期に交付金財源の予算について見直しを行った。</li> <li>・養成研修事業において、事業への理解促進と安定した外部資金の獲得のため、引き続き継続的な寄附受入れを目的とした「国立劇場養成所サポーター」への寄附を募った。</li> <li>・各館の公演等事業への寄附金を得るため、引き続き、「国立劇場基金(くろごちゃんファンド)」への寄附を募った。</li> </ul> |
| 数値目標の達成状況<br>実績/目標(達成率) | 自己収入の確保状況:3,267百万円, /3,178百万円(102.8%)   |
| 主要な業務実績                 | <p><b>1 予算</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に外部資金を獲得すべく、国立劇場基金、国立劇場養成所サポーターの寄附募集等を展開した。</li> </ul> <p><b>2 収支計画</b></p> <p><b>3 資金計画</b></p> <p><b>4 保有資産の処分</b></p>  |
| 課題と対応                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・入場料収入や施設使用料収入について、国民の鑑賞機会の確保等に留意しつつ、公演収支の分析や料金の見直し等により安定的な自己収入の確保に向けた検討を行うとともに、様々な外部資金の獲得に向けた取組を進める。</li> <li>・国立劇場・国立演芸場公演を代替劇場において実施する中で、収支面が計画通り進行しないことも想定されるため、一層細やかな執行管理に努める。</li> </ul>   |

## 《方 針》

収入面に関しては、実績を勘案しつつ、外部資金等を積極的に導入することにより、計画的な収支計画による運営を図る。

※ 以下、計数は、それぞれ四捨五入により単位未満を処理しているため、合計において一致しない場合がある。

### 《自己収入の確保状況》

| 区分   | 助成事業    | 公演事業      | 養成研修事業 | 調査研究事業 | 法人共通    | 合計        |
|------|---------|-----------|--------|--------|---------|-----------|
| 実績   | 791 百万円 | 1,839 百万円 | 34 百万円 | 16 百万円 | 587 百万円 | 3,267 百万円 |
| 年度計画 | 567 百万円 | 1,991 百万円 | 25 百万円 | 9 百万円  | 586 百万円 | 3,178 百万円 |
|      |         |           |        |        | 達成率     | 102.8%    |

- ・芸術文化振興基金等の運用収入、主催公演や研修発表会等の入場料収入、劇場施設の使用料収入、所蔵資料の複製使用料、映像配信による収入等により、安定的な自己収入の確保を図った。
- ・寄附金・補助金等の外部資金を積極的に獲得した。

### 《外部資金の獲得状況》

| 区分                     | 件数(件)   | 金額(千円)       |
|------------------------|---------|--------------|
| 芸術文化振興基金に対する民間出せん金     | 86 件    | 401,456 千円   |
| オーケストラ支援への寄附           | 1 件     | 300,000 千円   |
| 国立劇場基金(くろごちゃんファンド)     | 1,104 件 | 28,576 千円    |
| 公演事業等への寄附              | 1 件     | 400,000 千円   |
| 主催公演における共催負担金          | 2 件     | 11,186 千円    |
| 公演事業への協賛               | 6 件     | 4,390 千円     |
| 文楽アメリカ公演 共催負担金・企業協賛    | 3 件     | 11,500 千円    |
| 養成事業継続寄附(国立劇場養成所サポーター) | 1,666 件 | 3,896 千円     |
| 国庫財源以外による外部資金の獲得状況(小計) | 2,869 件 | 1,161,004 千円 |
| 文化庁芸術祭主催公演請負代金         | 1 件     | 31,505 千円    |
| 国庫財源による外部資金の獲得状況(小計)   | 1 件     | 31,505 千円    |
| 合計                     | 2,870 件 | 1,192,509 千円 |

- ・「くろごちゃんファンド」(国立劇場基金)では、リーフレットをリニューアルし、寄附金の活用状況を出演者によるお礼メッセージ動画とともに Web サイト等で報告するなど、広報にも注力し、引き続き積極的な寄附募集を行った。
- ・「くろごちゃんファンド」への多額の寄附により紺綬褒章を受章された方への伝達式を行った。振興会が令和 4 年 1 月に公益団体認定を受けて以来、初めての紺綬褒章の受章者となった。
- ・文楽アメリカ公演に対して、キッコーマン株式会社及びサントリーホールディングス株式会社から協賛金を得た。また、「特別協力」として、ANA ホールディングス株式会社から航空券等の手配において協力を得た。
- ・2 月、振興会と遺贈寄附の協定を締結している三井住友信託銀行との共催により、日本橋の三井本館において、文楽アメリカ公演のパネル展と文楽人形遣いの吉田玉助によるトークイベントを開催した。文楽アメリカ公演で使用した舞台背景映像は、令和 5 年度に実施したクラウドファンディングによって制作したものであり、本イベントは、クラウドファンディングの支援者への報告とともに、一般に対して振興会の寄附事業をアピールする機会にもなった。

# 1 予算

(単位：百万円)

| 区 分              | 計画額    | 実績額    | 増△減   |
|------------------|--------|--------|-------|
| <b>収 入</b>       |        |        |       |
| 運営費交付金           | 11,669 | 11,669 | 0     |
| 雑収入              | 54     | 64     | 10    |
| 文化芸術振興費補助金       | 11,184 | 11,317 | 134   |
| 施設整備費補助金         | 503    | 307    | △197  |
| 文化資源活用事業費補助金     | 344    | 344    | 0     |
| 文化芸術活動基盤強化基金事業収入 | 155    | 222    | 67    |
| 基金運用収入           | 202    | 208    | 6     |
| 寄附金収入            | 795    | 795    | 0     |
| その他の助成事業収入       | -      | -      | -     |
| 公演等事業収入          | 2,543  | 2,223  | △320  |
| 公演受託事業収入         | 3,324  | 3,342  | 19    |
| 計                | 30,772 | 30,491 | △281  |
| <b>支 出</b>       |        |        |       |
| 一般管理費            | 2,396  | 1,462  | 934   |
| うち人件費            | 1,003  | 1,019  | △16   |
| うち物件費            | 1,392  | 443    | 950   |
| 事業費              | 9,327  | 9,071  | 256   |
| うち人件費            | 2,229  | 2,210  | 19    |
| うち助成情報提供等事業費     | 234    | 235    | △1    |
| うち国立劇場事業費        | 2,169  | 1,961  | 208   |
| うち国立劇場おきなわ事業費    | 660    | 637    | 23    |
| うち新国立劇場事業費       | 4,036  | 4,028  | 8     |
| 文化芸術振興費          | 11,184 | 307    | 197   |
| うち人件費            | 146    | 338    | 5     |
| うち物件費            | 11,037 | 11,134 | 50    |
| 施設整備費            | 503    | 174    | △27   |
| 文化資源活用事業費        | 344    | 10,960 | 77    |
| 文化芸術活動基盤強化基金事業費  | 155    | 222    | △67   |
| うち人件費            | 58     | 62     | △4    |
| うち物件費            | 97     | 160    | △63   |
| 基金助成事業費          | 1,255  | 1,230  | 25    |
| うち人件費            | 212    | 168    | 44    |
| うち物件費            | 1,043  | 1,062  | △19   |
| 公演等事業費           | 2,745  | 2,374  | 371   |
| 公演受託事業費          | 3,324  | 3,306  | 18    |
| 計                | 31,232 | 29,443 | 1,789 |

## 《主な増減理由》

### (1) 収入

- 施設整備費補助金については、計画額には令和6年度補正予算事業の国立能楽堂 温室効果ガス排出削減事業(156百万円)、国立文楽劇場 安全・老朽化対策工事(91百万円)、国立劇場おきなわ 小劇場吊物機構設備整備 第1期(110百万円)、新国立劇場(オペラ劇場) 舞台機構設備整備(146百万円)について計上したのに対し、実績額には、令和6年度補正予算事業の国立能楽堂 温室効果ガス排出削減事業(0百万円)、令和5年度補正予算事業の国立能楽堂 能舞台照明設備改修工事(144百万円)、国立文楽劇場 安全・老朽化対策工事(69百万円)、国立劇場おきなわ 大劇場舞台機構設備整備 第1期(吊物制御PC)(54百万円)、新国立劇場 二酸化炭素消火設備容器弁交換工事(10百万円)、新国立劇場 オペラ劇場舞台機構設備整備(上手トラッキングワゴン1及び3)(29百万円)

を計上したことにより、結果として197百万円の減となった。

- ・公演等事業収入については、入場料収入の減等により320百万円の減となった。

## (2) 支出

- ・一般管理費のうち人件費については、退職手当が見込みより多かったこと等により、16百万円の増となった。また、物件費については、国立劇場再整備等事業の繰越等により、950百万円の減となった。
- ・事業費のうち国立劇場事業費、国立劇場おきなわ事業費について保守修繕費の繰越等により、事業費全体で256百万円の減となった。
- ・施設整備費については、計画額には令和6年度補正予算事業の国立能楽堂 温室効果ガス排出削減事業(156百万円)、国立文楽劇場 安全・老朽化対策工事(91百万円)、国立劇場おきなわ 小劇場吊物機構設備整備 第1期(110百万円)、新国立劇場 (オペラ劇場) 舞台機構設備整備(146百万円)について計上したのに対し、実績額には、令和6年度補正予算事業の国立能楽堂 温室効果ガス排出削減事業(0百万円)、令和5年度補正予算事業の国立能楽堂 能舞台照明設備改修工事(144百万円)、国立文楽劇場 安全・老朽化対策工事(69百万円)、国立劇場おきなわ 大劇場舞台機構設備整備 第1期(吊物制御PC)(54百万円)、新国立劇場 二酸化炭素消火設備容器弁交換工事(10百万円)、新国立劇場 オペラ劇場舞台機構設備整備 (上手トラッキングワゴン1及び3)(29百万円)を計上したことにより、結果として197百万円の減となった。
- ・公演等事業費については、業務委託費等の減により、371百万円の減となった。

## 2 収支計画

(単位：百万円)

| 区 分            | 計画額    | 実績額    | 増△減    |
|----------------|--------|--------|--------|
| <b>費用の部</b>    |        |        |        |
| 国立劇場公演等事業費     | 10,952 | 10,478 | △474   |
| 新国立劇場公演等事業費    | 4,196  | 4,340  | 144    |
| 基金助成事業費        | 12,880 | 12,859 | △21    |
| 一般管理費          | 2,646  | 1,261  | △1,385 |
| 財務費用           | 8      | 8      | 0      |
| 雑損失            | —      | 28     | 28     |
| 臨時損失           | —      | 1      | 1      |
| 計              | 30,681 | 28,975 | △1,706 |
| <b>収益の部</b>    |        |        |        |
| 運営費交付金収益       | 10,706 | 9,989  | △717   |
| 事業収入           | 2,065  | 1,729  | △336   |
| 受託事業収入         | 3,324  | 3,296  | △28    |
| 財産利用収入         | 36     | 38     | 2      |
| 資産見返負債戻入       | 603    | 368    | △235   |
| 賞与引当金見返に係る収益   | 259    | 252    | △7     |
| 退職給付引当金見返に係る収益 | 54     | △175   | △229   |
| 補助金等収益         | 11,682 | 11,356 | △326   |
| 施設整備費補助金収益     | 0      | 62     | 62     |
| 寄附金収益          | 795    | 793    | △2     |
| 財務収益           | 692    | 741    | 49     |
| 雑益             | 6      | 34     | 28     |
| 臨時利益           | —      | 1      | 1      |
| 計              | 30,221 | 28,483 | △1,738 |
| 純利益            | △460   | △492   | △32    |
| 積立金取崩額         | 460    | 465    | 5      |
| 総利益            | —      | △27    | △27    |

### 《主な増減理由》

#### (1) 費用の部

- ・一般管理費については、国立劇場再整備事業で繰越が発生したこと等の要因により、1,385百万円の減となった。

## (2) 収益の部

- ・事業収入については、劇場入場料等の減等の要因により、336百万円の減となった。

## 3 資金計画

(単位：百万円)

| 区 分           | 計画額    | 実績額    | 増△減    |
|---------------|--------|--------|--------|
| 資金支出          | 84,614 | 85,813 | 1,199  |
| 業務活動による支出     | 29,780 | 29,599 | △181   |
| 投資活動による支出     | 22,598 | 31,568 | 8,970  |
| 財務活動による支出     | 255    | 259    | 4      |
| 翌年度への繰越金      | 31,983 | 24,347 | △7,636 |
| 資金収入          | 84,616 | 85,813 | 1,197  |
| 業務活動による収入     | 41,570 | 42,560 | 990    |
| 運営費交付金による収入   | 10,570 | 11,669 | 1,099  |
| 補助金による収入      | 23,682 | 23,816 | 134    |
| 公演等事業による収入    | 2,543  | 1,512  | △1,031 |
| 公演受託事業による収入   | 3,324  | 3,355  | 31     |
| 養成事業による収入     | 32     | 31     | △1     |
| 基金運用による収入     | 202    | 208    | 6      |
| その他の収入        | 1,217  | 1,968  | 751    |
| 投資活動による収入     | 2,103  | 2,569  | 466    |
| 施設整備費補助金による収入 | 503    | 307    | △196   |
| その他の収入        | 1,600  | 2,263  | 663    |
| 財務活動による収入     | 20,500 | 20,201 | △299   |
| 民間出えん金受入による収入 | 500    | 201    | △299   |
| 金銭出資の受入による収入  | 20,000 | 20,000 | 0      |
| 前年度よりの繰越金     | 20,443 | 20,443 | 0      |

### 《主な増減理由》

#### (1) 資金支出

- ・投資活動による支出については、文化芸術活動基盤強化基金補助金の一部運用の実施等の要因により、8,970百万円の増となった。

#### (2) 資金収入

- ・業務活動による収入については、消費税の還付や寄附金収入の増等の要因により、990百万円の増となった。
- ・投資活動による収入については、有価証券の償還による収入の増等の要因により、466百万円の増となった。

## 4 保有資産の処分

### (1) 実物資産の保有状況等

| 施設名          | 数 | 所在地       | 用途   | 保有目的及び利用状況   |
|--------------|---|-----------|------|--|
| 国立劇場(本館・演芸場) | 1 | 東京都千代田区   | 劇場施設 | 伝統芸能の保存・振興を図るための拠点施設として設置され、伝統芸能の公開、伝承者の養成等の事業を安定的、継続的に実施するために必要な施設である。<br>なお、国立劇場(本館・演芸場)については、国立劇場再整備等事業のため、令和5年10月をもって一時閉場しており、再整備後に再開場の予定である。<br>令和6年度の稼働率の実績:P.104 参照 |
| 国立能楽堂        | 1 | 東京都渋谷区    |      |  |
| 国立文楽劇場       | 1 | 大阪府大阪市中央区 |      |  |
| 国立劇場おきなわ     | 1 | 沖縄県浦添市    |      |  |
| 新国立劇場        | 1 | 東京都渋谷区    | 劇場施設 | 現代舞台芸術の振興・普及を図るための拠点施設として設置さ   |

|                   |   |                    |      |  |
|-------------------|---|--------------------|------|--|
|                   |   |                    |      | れたものであり、現代舞台芸術の公演、実演家の研修等の事業を安定的、継続的に実施するために必要な施設である。<br>令和6年度の稼働率の実績:P.104 参照                                       |
| 新国立劇場<br>舞台美術センター | 1 | 千葉県銚子市             | 保管施設 | 現代舞台芸術の公演に必要な舞台装置・衣装等を保管し、新国立劇場におけるレパートリー公演を安定的、継続的に実施するために必要な施設であり有効に活用されている。                                       |
| 職員宿舎              | 3 | 東京地区(2)<br>大阪地区(1) | 職員宿舎 | 東京・大阪に事業所を保有しており、円滑な人事異動など業務上、安定的かつ継続的に職員宿舎を確保する必要があり、研修生の利用も含めた適切な管理運営を図っている。<br>保有宿舎全 39 戸(うち入居戸数 26 戸。入居率 66.7%)。 |

## (2) 金融資産の保有状況

### ア 金融資産の名称と内容、規模

定期預金： 3,700 百万円

有価証券： 605 百万円

投資有価証券：101,180 百万円

長期性預金： 4,900 百万円

### イ 保有の必要性(事業目的を遂行する手段としての有用性・有効性)

芸術文化振興基金については、芸術文化振興基金の運用の基本的考え方を踏まえ、毎年度芸術文化振興基金運用計画を策定し、長期的・安定的な運用を行っている。(運用状況は I-1-(3) 基金の管理運用 を参照)

政府出資金見合いの資金については、「政府出資金見合いの資金及びその運用に関する基準」に従い、伝統芸能の公開事業及び現代舞台芸術の公演事業を安定的に継続するため、可能な限り長期的な運用を行うこととしている。

### ウ 資産の売却や国庫納付等を行うものとなった金融資産の有無、取組状況

該当事項はない。

## 《参 考》

### 1. 剰余金

損益計算の結果、令和6事業年度の当期総損失は27百万円である。

### 《損失が生じた主な理由》

#### [収入支出決算]

- (1) 公演等事業収入が、年度計画予算に対し320百万円減少した。その主な内容は次のとおり。
- ・劇場入場料収入の減351百万円
  - ・共催公演等収入の増23百万円
- (2) 公演等事業費が、年度計画予算に対し371百万円減少した。その主な内容は次のとおり。
- ・国立劇場公演等事業費(公演費等)の減243百万円

#### [損益計算]

- ・運用中の投資有価証券のアモチゼーション計上により、4百万円の損失の増となった。
- ・貯蔵品の廃棄損・評価損の計上により、4百万円の損失の増となった。

### 2. 運営費交付金債務

令和7年3月31日現在における運営費交付金債務残高は2,072百万円である。

(単位：百万円)

| 期首残高<br>/当期交付額 | 当期振替額        |                  |                |                   |       | 引当金見返との<br>相殺額 | 期末残高  |
|----------------|--------------|------------------|----------------|-------------------|-------|----------------|-------|
|                | 運営費交付金<br>収益 | 運営費交付金<br>精算収益化額 | 資産見返<br>運営費交付金 | 建設仮勘定見返<br>運営費交付金 | 資本剰余金 |                |       |
| 12,738         | 9,989        | 0                | 185            | 0                 | 0     | 492            | 2,072 |

### 3. 目的積立金等の状況

(単位：百万円)

|                   | 令和5年度末 | 令和6年度末 | 令和7年度末 | 令和8年度末 | 令和9年度末 |
|-------------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 前期中期目標期間繰越積立金     | 3,745  | 3,279  |        |        |        |
| 目的積立金             | -      | -      |        |        |        |
| 積立金               | 0      | 590    |        |        |        |
| うち経営努力認定相当額       |        |        |        |        |        |
| その他の積立金等          | -      | -      |        |        |        |
| 運営費交付金債務          | 1,069  | 2,072  |        |        |        |
| 当期の運営費交付金交付額 (a)  | 11,798 | 11,669 |        |        |        |
| うち年度末残高 (b)       | 1,069  | 1,003  |        |        |        |
| 当期運営費交付金残存率 (b÷a) | 9.06%  | 8.60%  |        |        |        |



## IV その他業務運営に関する重要事項

- 1 その他業務の運営に関する取組
- 2 施設及び設備に関する計画
- 3 人事に関する計画
- 4 その他振興会の業務運営に関し必要な事項



## IV その他業務運営に関する重要事項

### 《中期計画の概要》

#### VIII その他業務運営に関する重要事項

##### 1 内部統制

(1) 外部の有識者、各分野の専門家等で構成する評価委員会において、振興会の目標等を踏まえ、組織、運営、事業などについて評価

組織の改善・事業の見直し・事務の改善等への反映

(2) 運営費交付金等の有効活用、理事長のマネジメントの強化、監査機能の充実

(3) 法令等に基づき法人文書を適正に作成、管理

(4) 国民の理解が得られるよう、分かりやすく説明する意識を徹底

ホームページにおける情報アクセスを容易にするなど、情報開示を推進

##### 2 情報システムの整備・管理及び情報セキュリティ対策

「情報システムの整備及び管理の基本的な方針」にのっとり情報システムの適切な整備・管理、法令等に基づいた適切な情報の開示、政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準群を踏まえた適切な情報セキュリティ対策の推進

##### 3 施設及び設備に関する計画

(1) 施設・設備に関する計画に沿った整備の推進

各劇場等施設について長期的な視野に立った整備計画を策定し、施設・設備に関する計画に沿った整備を推進

(2) 国立劇場再整備に関する事業の推進

「国立劇場の再整備に係る整備計画」に基づいたPFI事業実施に向けた手続きの推進、PFI事業における業績監視、国立劇場等の再開場に向けた新たな国立劇場の在り方の検討

##### 4 人事に関する計画

(1) 方針

ア 職員の計画的、適正な配置を図るとともに、効果的な人事交流を実施

イ 事務能率の維持、増進を図る

① 職員に対する実務研修等の充実

② 適切な労務管理の実施、多様で柔軟な働き方を推進するための制度の検討・導入

ウ 人材確保・育成方針に基づき、デジタル分野等専門的分野も含めた必要な人材の確保・育成を実施

(2) 人員に係る指標

給与水準の適正化を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進

##### 5 中期目標の期間を超える債務負担

中期目標期間を超える債務負担については、振興会の業務運営に係る契約の期間が中期目標期間を超える場合で、当該債務負担行為の必要性及び資金計画の影響を勘案し、合理的と判断されるものについて実施

##### 6 積立金の使途

前期中期目標の期間の最終年度において、独立行政法人通則法第44条の処理を行ってなお積立金があるときは、その額に相当する金額のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、以下のものに充てる

(1) 中期計画の剰余金に規定されている経費

(2) 次期へ繰り越した経過勘定損益影響額等に係る会計処理

(3) 自己財源により取得した固定資産の未償却残高相当額に係る会計処理

##### 7 その他振興会の業務の運営に関し必要な事項

国立劇場おきなわの管理運営については、沖縄芸能・文化の独自性とその伝統を活かし、地方自治体等地域の協力を得るため、公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団に委託して行う

新国立劇場の管理運営については、芸術家、芸術団体等の創意、工夫を取り入れるとともに民間等の協力を得るため、公益財団法人新国立劇場運営財団に委託して行う

委託に当たっては、経費の見直しや自己収入の確保等の方策により収支構造の改善等に計画的に取り組むとともに、契約内容の検証を行い、更に効率化を図る

### 《年度計画の概要》

#### IV その他業務運営に関する重要事項

##### 1 その他業務の運営に関する取組

(1) 内部統制の充実・強化

ア 令和5年度の事業の実施結果について、自己点検評価、外部専門家からの意見聴取、外部の有識者・各分野の専門家等で構成する評価委員会における業務の実績に関する評価を実施

- イ 理事長のリーダーシップの下に業務の適正を確保するための体制、内部監査、監事監査に係る機能の充実・強化、法令遵守の周知徹底や役職員を対象としたコンプライアンス研修等の実施
- ウ リスク管理委員会において、業務ごとに内在するリスクを把握、リスク顕在時における対応策を策定
- エ 文書システムによる電子決裁を活用し、法人文書の適正な作成、管理を実施
- オ 国民が最新の情報を円滑に得られるよう、ホームページにおける情報アクセスを容易にし、情報開示を推進より効果的な情報発信に向けたホームページの改修について検討

## (2) 情報セキュリティ対策

- ア 「情報システムの整備及び管理の基本的な方針」にのっとり情報システムの適切な整備・管理
- イ 政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準群を踏まえて作成した情報セキュリティポリシーに沿って、自己点検、システム監査を実施し、適切な情報セキュリティの確保を図る
- ウ 脆弱性情報を的確に把握し、遅滞なく対応、ウイルスや不正アクセス等の情報を収集、役職員に対して積極的に情報提供を行うとともに対応訓練や研修を実施

## 2 施設及び設備に関する計画

- (1) 「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画」に基づき、長期的な視野に立った整備計画を策定し、別紙4のとおり施設・設備に関する計画に沿った整備を推進
- (2) 国立劇場等の再整備については、国立劇場再整備に関するプロジェクトチームにより策定された「国立劇場の再整備に係る整備計画」に沿い検討を進める

## 3 人事に関する計画

### (1) 方針

- ア 職員の計画的・適正な配置、効果的な人事交流の実施
- イ 事務能率の維持、増進を図る
  - ① 職員に対する実務研修等の充実
  - ② 適切な労務管理、多様で柔軟な働き方を推進する制度の検討・導入
- ウ 人材確保・育成方針に基づき、デジタル分野等専門的分野も含めた必要な人材の確保・育成を実施

### (2) 人員に係る指標

給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進

## 4 その他振興会の業務の運営に関し必要な事項

国立劇場おきなわの管理運営については、沖縄芸能・文化の独自性とその伝統を活かし、地方公共団体等地元の協力を得るため、公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団に委託して行う

また、新国立劇場の管理運営についても、芸術家、芸術団体等の創意、工夫を取り入れるとともに民間等の協力を得るため、公益財団法人新国立劇場運営財団に委託して行う

|                         |  |
|-------------------------|--|
| 自己評価                    | <b>B</b>   |
| 自己評価の根拠                 | <p>以下に示すとおり、概ね年度計画における所期の目標を達成しているため、自己評価はB評価とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立劇場再整備等事業については、12月に国立劇場再整備に関するプロジェクトチーム(文部科学副大臣主宰)により行われた「国立劇場の再整備に係る整備計画」の改定に基づき、次期入札に向け、国立劇場再整備委員会や各作業部会を開催し、要求水準の見直し等について検討するなどの準備を開始した。</li> <li>・内部統制の充実や人事に関する取組等について、年度計画に沿って着実に実施した。</li> </ul>   |
| 数値目標の達成状況<br>実績/目標(達成率) | 数値目標なし   |
| 主要な業務実績                 | <p><b>1 その他業務の運営に関する取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内部統制の充実・強化を図り、評議員会、公演専門委員会ほか外部専門家等の意見を事業に反映した。</li> <li>・適切な情報セキュリティ対策を講じた。</li> <li>・政府機関等のサイバーセキュリティ対策のための統一基準ガイドラインの更新に基づき、振興会情報セキュリティポリシー等の更新を進めた。</li> <li>・コンプライアンス及び安全管理に関する取組の強化に努めた。</li> </ul> <p><b>2 施設及び設備に関する計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立劇場再整備について、次の入札公告に向けた要件その他の検討に当たり、必要な助言を得るため、「国立劇場再整備に関する有識者検討会」を開催し、「国立劇場再整備に関する有識者検討会 中間まとめ」を作成、振興会ホームページで公表した。</li> <li>・国立劇場再整備等事業については、関係者と調整及び協議を進め、12月に国立劇場再整備に関するプロジェクトチーム(文部科学副大臣主宰)により「国立劇場の再整備に係る整備計画」の改定が行われた。この整備計画に基づき、次期入札に向けた準備を開始した。</li> </ul> <p><b>3 人事に関する計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材確保・人材育成等に関する基本方針を計画的に推進した。</li> <li>・人員配置については、各部長から要望を広く聞き、適切な人事異動を行うとともに、任期を定めた採用の強化等、人件費の抑制を踏まえた採用を実施した。</li> <li>・労務管理において、法令遵守の徹底、職員の心身の健康管理及び就労の安全を図るため、安全衛生組織、顧問弁護士及び社会保険労務士と連携して対応を行った。</li> </ul> <p><b>4 その他振興会の業務運営に関し必要な事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立劇場おきなわ及び新国立劇場の運営委託について、継続的に事務・経費の効率化を図りつつ、適切に運営した。</li> </ul> |

## 1 その他業務の運営に関する取組

### (1) 内部統制の充実・強化

#### ア 自己点検評価、外部専門家等からの意見聴取

##### ① 自己点検評価について

##### 《5年度自己点検評価の経過》

|          |                                 |
|----------|---------------------------------|
| 6年2月～3月  | 各公演専門委員会、事業委員会において事業に対する意見聴取を実施 |
| 6年3月     | 各部において自己点検評価を実施                 |
| 6年3月末～5月 | 財務企画部計画課を中心に自己点検評価を取りまとめ        |
| 6年5月8日   | 理事長により自己点検評価を決定                 |
| 6年6月28日  | 評議員会において、5年度の業務の実績に関する評価を審議・決定  |

##### ② 外部専門家等からの意見聴取

| 名称               | 区分              | 日程        | 議題等   |
|------------------|-----------------|-----------|---|
| 評議員会             | 第65回            | 6/28      | 令和5事業年度業務実績及び収入支出決算についての審議、令和5事業年度評価についての報告、令和5年度及び第4期中期目標期間における業務実績に対する文部科学大臣評価結果についての報告、令和7年度計画及び計画予算についての審議等 |
|                  | 第66回            | 10/31     |   |
|                  | 第67回            | 3/26      |   |
| 評価委員会            | 令和5年度第2回        | 5/17      | 令和5年度評価の実施  |
|                  | 第3回             | 6/11      |   |
|                  | 第4回             | 6/24      |   |
|                  | 令和6年度第1回        | 11/29     | 令和6年度評価についての審議等   |
| 芸術文化振興基金運営委員会    | 第66回            | 9/18      | 令和5年度評価の決定、令和7年度審査基準・助成対象活動募集案内の決定、令和7年度助成金の分野別配分予算案の決定、令和7年度助成対象活動及び助成金交付予定額の決定等                               |
|                  | 第67回            | 1/20      |   |
|                  | 第68回            | 3/17      |   |
| 公演専門委員会          | 歌舞伎公演専門委員会      | 7/9・3/11  | 令和6年度公演計画の説明・意見聴取等、令和6年度公演状況の報告、令和7年度公演計画の説明・意見聴取等  |
|                  | 文楽公演専門委員会(本館)   | 7/8・3/13  |   |
|                  | 舞踊公演専門委員会       | 書面開催・3/24 |   |
|                  | 邦楽公演専門委員会       | 書面開催・3/12 |   |
|                  | 雅楽・声明公演専門委員会    | 書面開催・3/18 |   |
|                  | 民俗芸能公演専門委員会     | 6/19・3/12 |   |
|                  | 大衆芸能公演専門委員会     | 6/27・3/21 |   |
|                  | 能楽公演専門委員会       | 2/7・3/7   |   |
|                  | 文楽公演専門委員会(文楽劇場) | 9/5・3/5   |   |
| 短期公演等専門委員会(文楽劇場) | 7/31・2/27       |           |   |
| 事業委員会            | 養成事業委員会         | 7/11・3/10 | 令和5年度評価結果の報告、令和6年度の事業実施状況、令和7年度事業計画についての意見聴取等   |
|                  | 調査事業委員会         | 7/30・3/12 |   |
|                  | 養成事業委員会(おきなわ)   | 2/20      |   |
|                  | 調査事業委員会(おきなわ)   | 3/28      |   |
|                  | 公演事業委員会(おきなわ)   | 9/17・3/28 |   |

### イ 内部統制システムの充実、内部監査・監事監査に係る機能の充実・強化、法令遵守の徹底等

#### ① 内部統制システムの充実

##### (a) 役員会の開催

- ・役員会を毎月2回開催し(8月を除く)、業務に係る重要事項を審議した。
- ・運営会議を毎月2回開催し(8月を除く)、審議事項の協議に加えて運営上のテーマについて議論した。

##### (b) 情報伝達

- ・状況に応じた基本的な方針を理事長・理事による「理事懇談会」において随時協議し、その内容については、役員会での発言、担当役員から関係部署への指示、又は総務・人事労務担当課等担当部署からの連絡により、周知と意思疎通を図った。
- ・部長会を開催し、各部相互における情報共有を随時行った。

・事故等発生時は、報告書等で関係者への情報共有や報告を迅速に行い、対応した。

### (c) 内部統制委員会等の定期開催

- ・内部統制委員会を開催した(第1回:9/3~9/9(書面開催)、第2回:1/27~1/31(書面開催))。
- ・課長研修の一環として1年次職員9名、2年次職員1名に内部統制研修を行った(10/22)。

## ② 監査

### (a) 監事監査

- ・定期監査、重要書類の回付等により業務の執行状況及び会計経理事務の処理状況を監査した。

#### 《定期監査(令和5事業年度及び令和6事業年度監査)の経過》

|      |   |
|------|---|
| 4/18 | 令和6事業年度監査計画 理事長へ提出                          |
| 6/14 | 監事と会計監査人とのディスカッション(会計監査人による令和5事業年度監査結果報告)   |
| 6/14 | 令和5事業年度監査報告 理事長へ提出<br>※指摘すべき重大な事項は認められなかった。 |
| 2/5  | 監事と会計監査人とのディスカッション(会計監査人による令和6事業年度監査計画説明)   |

### (b) 内部監査

- ・内部監査要綱に基づき内部監査を実施した。

|      |   |
|------|---|
| 8/19 | 内部監査計画の作成及び監事への通知   |
| 9~2月 | 監査実施  |
| 3/5  | 監査報告書 理事長へ提出<br>※監査報告書に意見を記載(使用していない内規等の廃止・改正、適切な資産除却手続き)<br>※監事に監査報告書の写しを送付(3/6)<br>※監査報告書を法人内に周知(3/6) |

- ・情報セキュリティポリシーに基づき、情報セキュリティ監査を実施した。

|      |                            |
|------|----------------------------|
| 1/29 | 情報セキュリティ監査計画の作成及び被監査部課への通知 |
| 2月   | 監査実施                       |
| 2/27 | 監査報告書 最高情報セキュリティ責任者へ提出     |

- ・法人文書管理規程に基づき、法人文書管理監査を実施した。

|     |                          |
|-----|--------------------------|
| 1/9 | 法人文書管理監査計画の作成及び被監査部課への通知 |
| 2月  | 監査実施                     |
| 3/3 | 監査報告書 総括文書管理者へ提出         |

## ③ 法令遵守の徹底等

- ・各職域の担当者が個別に法務相談ができる、法律顧問による法務相談窓口を引き続き設置し、4月に職員に対し利用方法を再度周知した。
- ・前年度から引き続き、コンプライアンス及び安全管理に関する取組の強化に努めた。
- ・最新の法令改正等の安全衛生に関する情報を入手し、コンプライアンスの向上に資するため、顧問弁護士や社会保険労務士および中央労働災害防止協会から法令改正に関する情報の提供を受け、厚生労働省や中央災害防止協会等のウェブサイトでも適宜確認を行った。
- ・労働安全衛生法に基づき、危険や有害な業務を行う職員に対して、以下の法定特別教育を実施した。
  - ◇テールゲートリフター特別教育の受講(6/5・12・19・7/10・14・21・31・11/9)
  - ◇足場の組立て等作業従事者特別教育の受講(8/3)
  - ◇フルハーネス型墜落制止用器具特別教育の受講(8/20・27)

## ウ リスク管理委員会

- ・リスク管理委員会を開催した(第1回:6/24~6/28(書面開催)、第2回:9/30~10/4(書面開催) 第3回:3/24~3/28(書面開催))。

## エ 法人文書の適正な作成・管理

- ・文書管理システムによる電子決裁を活用し、法人文書の適正な作成・管理を行うため、全職員に向けて文書管理

研修を行った。

- ・文書類の決裁における専決者を適切に設定し、迅速な決裁を行うことで事務の円滑かつ確実な処理を図るため、文書関連規程の改正を実施した。

## オ 情報開示の推進

- ・公文書等の管理に関する法律(平成 21 年法律第 66 号)及び内規に基づいた適正な法人文書管理のため、各課における文書管理担当者の任命、標準文書保存期間基準の設定及び見直し、文書管理状況の点検を実施した。また、文書の廃棄や文書の保存期間の延長について、法律及び内規に則した適切かつ慎重な実施がなされるよう周知徹底を行った。

## (2) 情報セキュリティ対策

### ア 適切な情報セキュリティの確保

- ・振興会セキュリティポリシーの理解増進及び意識向上を目的として、外部の e ラーニングサービス及び独自資料を活用した情報セキュリティ教育を全役職員(常勤及び非常勤)、アルバイト及び医師・看護師等利用者全員を対象に実施した。
- ・標的型メール攻撃に関する教育・意識啓発を目的とした「標的型メール攻撃に対する訓練」を実施した。
- ・各職員(常勤及び非常勤)が情報セキュリティ対策を適切に実施しているかを確認するために自己点検を実施した。
- ・政府機関等のサイバーセキュリティ対策のための統一基準群が令和 6 年 7 月に改定されたことに基づき、振興会情報セキュリティポリシーの更新に向けた作業を進めた。

### イ 脆弱性・ウイルス・不正アクセスへの対応

- ・振興会ホームページについて第三者機関によるセキュリティ診断を実施し、発見された脆弱性への対応を講じた。
- ・内閣サイバーセキュリティセンター等から公表されるソフトウェアの脆弱性情報に対して、随時振興会内の全情報システムを調査し、必要な対策を行った。
- ・内閣サイバーセキュリティセンター又は情報システム管理運用委託業者等から提供される脆弱性情報、ウイルス情報、不審メール情報等を振興会内電子掲示板に掲載し、重要性又は緊急性の高い情報については適宜全職員向けにメールで注意喚起を行った。また、年末年始等の長期休業期間における情報セキュリティ対策事項を適宜周知した。

## (3) 振興会のこれからの考える検討グループ

- ・振興会のこれからの考える場として、職員参加型の検討グループを立ち上げ、ミーティングを開催した(6/14、7/4・5、7/24・29、9/9・13、12/16、2/3・12、3/14・21)。「振興会のミッションを考える」課題に取り組み、振興会のミッションを再確認する作業を進めた。また、部署間の連携不足、組織内の情報共有不足の解消について意見交換を行った。引き続き、現状の課題を分析し提案へと進める。

## 2 施設及び設備に関する計画

### (1) 施設・設備に関する計画に沿った整備

#### ア 「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画」に基づく整備

- ・施設・設備は、経年により老朽化が進んでおり、劇場運営において安全性を確保するため、予防保全を目指して計画的に保守・点検等を行った。

#### 〈施設整備費補助金による施設・設備の整備等〉

|   |            |
|---|------------|
| 国立能楽堂 能舞台照明設備改修工事                       | 143,561 千円 |
| 国立文楽劇場 安全・老朽化対策工事                       | 69,183 千円  |
| 国立劇場おきなわ 大劇場舞台機構設備整備 第 1 期(吊物制御 PC)     | 54,494 千円  |
| 新国立劇場 二酸化炭素消火設備容器弁交換工事                  | 10,384 千円  |
| 新国立劇場 オペラ劇場舞台機構設備整備(上手トラッキングワゴン 1 及び 3) | 28,600 千円  |

### (2) 国立劇場等再整備等事業

#### ① 本館・演芸場等準町地区の施設・設備の再整備について

- ・国立劇場再整備等事業について、「国立劇場再整備に関する有識者検討会」の第 2 回(4/8)、第 3 回(4/25)及び第 4 回(5/9)を開催し、「国立劇場再整備に関する有識者検討会 中間まとめ」を振興会ホームページで公表した

(5/15)。

- ・「国立劇場の再整備に関するプロジェクトチーム」において、8/21に「国立劇場の再整備に係る整備計画」の改定に向けた方向性が示され、振興会ホームページで公表(8/29)、12/26に「国立劇場の再整備に係る整備計画(令和4年12月19日一部改定)」が改定され、振興会ホームページで公表した(12/27)。
- ・令和6年度補正予算が成立し、次の入札に向け、劇場施設において現時点で確実に見込まれる再整備費用の物価高騰相当分について、必要な財政措置(200億円)が行われた(12/17)。
- ・国立劇場再整備等事業アドバイザー業務(TA・FA)の発注にあたって、建設コンサルタント選定委員会を6回開催した(9/2、10/2、10/24、11/13、12/23、2/21)。
- ・再整備期間中、文化庁から借用している絵画の一部を一時返却するため、外部施設で燻蒸処理を行った後、文化庁東京庁舎の保管庫へ移送した(11/28～12/6)。
- ・再整備期間中、振興会が所蔵する絵画等を平塚市美術館へ寄託するため、外部施設で燻蒸処理を行った後、同館の保管庫へ移送した(2/12～2/28)。

## ② 国立劇場再整備に関する新たな取組

- ・国立劇場再開場後の将来を見据えた運営計画の検討及び策定等を行うことを目的に、「国立劇場再整備に関する将来運営計画検討チーム」(以下「検討チーム」という。)を設置した(4/5)。
- ・訪日外国人観光客等への対応及び自己財源の拡充を図るため、検討チームの下に「公演鑑賞×レストランの運営検討ワーキンググループ」を設置し(8/19)、新たな国立劇場において鑑賞しながら飲食ができるレストランの設置構想に向けた検討を進め、中間報告を取りまとめた。
- ・急増する訪日外国人観光客に対する主催公演への誘客やバックステージツアーなど魅力的なサービスの提供に資するため、外部有識者による職員研修を3回実施した(①「諸外国の劇場運営」8/30、②「訪日外国人観光客の動向とその対応について」11/8、③「文化芸術のマーケティング」3/5)。

## ③ 閉場期間中の国立劇場等施設の活用

- ・閉場期間中の国立劇場等施設を有効活用した事業を実施することを目的に、民間企業等による新たな企画提案の募集及び審査を行い、株式会社エイチ・アイ・エスを選定し、同社と連携協力協定を締結した(7月)。
- ・株式会社エイチ・アイ・エスと共同で、インバウンド誘致を目的とした体験型バックステージツアーと歌舞伎公演鑑賞を組み合わせた商品の開発・販売、ユニークメニューの誘致を行った。

## ④ 未来へつなぐ国立劇場プロジェクトの推進

### (a) 記念グッズの販売

- ・初代国立劇場メモリアルグッズ第2弾として、舞台床板をリメイクして製作した商品や「初代国立劇場 花道置き時計」「初代国立劇場 提灯」「初代国立劇場 定式幕ディベア」(再販)等をぴあ株式会社のサイト等で販売した。

## 3 人事に関する計画

### (1) 方針

#### ア 職員の計画的・適正な配置、効果的な人事交流の実施

- ・事務職員の新規採用、舞台技術及び情報システム分野における中途採用、舞台技術や調査研究及び助成分野における任期付職員の採用を実施した。
- ・国の機関、国立大学法人及び地方自治体等との人事交流を実施し多様な人材の確保による組織の活性化を図った。
- ・国立劇場おきなわ運営財団及び新国立劇場運営財団の要請により振興会職員を派遣し、両財団における円滑な委託業務の実施に資することができた。

| 受入                       |     | 派遣                  |    |
|--------------------------|-----|---------------------|----|
| 国の機関及び国立大学法人からの出向者       | 20人 | 国の機関への実務研修者         | 1人 |
| 公益財団法人さいたま市文化振興事業団からの出向者 | 1人  | 国の機関への職員の出向         | 2人 |
| 公益財団法人可児市文化芸術振興財団からの出向者  | 1人  | 国立劇場おきなわ運営財団への職員の派遣 | 1人 |
| 一般財団法人建築コスト管理システム研究所     | 1人  | 新国立劇場運営財団への職員の派遣    | 2人 |

#### イ 事務能率の維持、増進

##### ① 各種研修の実施、外部研修への職員の派遣

### (a) 各種研修の実施

研修の実施にあたっては階層や職務内容に応じた各種研修を積極的に実施するとともに、外部機関が実施する研修への参加を積極的に促し職員のスキルアップを支援した。

#### 《内部研修実績》

| 研修名                          | 実施日                 | 参加者数 |
|------------------------------|---------------------|------|
| 新入職員研修(1年次職員)                | 4/1～4/5             | 9名   |
| 基幹業務システム研修(令和6年4月入職の職員)      | 4/8                 | 29名  |
| 部長業務研修(1年次職員)                | 5/27・5/29・6/12・6/13 | 9名   |
| 公演研修(1年次職員)                  | 5月～1月               | 9名   |
| パソコン研修(eラーニング講座)(1・2年次職員)    | 6/10～8/31           | 22名  |
| 情報セキュリティ研修(職員及びアルバイト)        | 6/26～7/19           | 487名 |
| メンター制度の実施                    | 7月～3月               | 22名  |
| 職員研修会①「諸外国の劇場運営について」         | 8/30                | 81名  |
| 職員研修会②「訪日外国人観光客の動向とその対応について」 | 11/8                | 76名  |
| 職員研修会③「文化芸術のマーケティング」         | 3/5                 | 103名 |
| 公演研修(1年次職員)                  | 6月～1月               | 9名   |
| 公演研修(2年次職員)                  | 8月～1月               | 13名  |
| 営業研修(1年次職員)                  | 9月～2月               | 9名   |
| 営業研修(2年次職員)                  | 11月～2月              | 13名  |
| 課長業務研修(1年次職員)                | 10/22・11/13・12/11   | 9名   |
| メンター制度の実施                    | 7/1～3/31            | 22名  |
| 情報システム管理責任者等向け研修             | 10/21～11/22         | 27名  |
| 令和6年度施設担当職員研修会               | 10/28・10/29         | 34名  |
| ワーク・ライフ・バランス研修               | 9/20～10/31          | 341名 |
| 第9回経理関係業務研修                  | 11/15～12/27         | 263名 |
| 令和6年度ハラスメント相談員研修             | 11/28～12/27         | 14名  |
| 令和6年度ハラスメント防止研修              | 1/10～2/28           | 441名 |
| 文楽劇場部制作系職員へのメンタルヘルス研修        | 1/21                | 9名   |
| 令和6年度若手職員ステップアップ研修           | 1/16・1/24           | 24名  |
| 障害者対応研修                      | 2/18～3/19           | 312名 |
| 文書管理研修                       | 12月下旬～1月下旬          | 343名 |

### (b) 外部研修への職員の派遣

#### 《外部研修実績》

| 研修名                       | 実施日           | 参加者数 |
|---------------------------|---------------|------|
| 第53回会計事務職員契約管理研修          | 5/21～6/19     | 1名   |
| 公文書管理研修Ⅰ(独法等向け第1回)        | 5/22          | 2名   |
| 公文書管理研修Ⅰ(独法等向け第2回)        | 10/23         | 1名   |
| 実践的サイバー防御演習プレCYDER        | 5/30          | 1名   |
| 公文書管理研修Ⅱ(第1回)             | 6/24～6/25     | 2名   |
| テールゲートリフター特別教育            | 6/5・6/12・6/19 | 11名  |
| テールゲートリフター特別教育            | 7/10～7/31     | 9名   |
| テールゲートリフター特別教育            | 11/9          | 1名   |
| 令和6年度 給与実務研修会(諸手当関係)      | 7/25、7/29     | 3名   |
| 令和6年度 給与実務研修会(人事院勧告)      | 8/30          | 1名   |
| 令和6年度 給与実務研修会(俸給決定及び支給関係) | 10/18         | 1名   |
| 足場の組立て等作業従事者特別教育          | 8/3           | 2名   |
| フルハーネス型墜落制止用器具特別教育        | 8/20・8/27     | 2名   |
| 全国劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会   | 9/10          | 1名   |

|  |             |    |
|--|-------------|----|
| 令和6年度 勤務時間・休暇制度実務研修会                               | 9/10        | 1名 |
| 第62回政府関係法人会計事務職員研修                                 | 10/2～11/15  | 2名 |
| 令和6年度 障害者等による文化芸術活動推進事業 劇場・音楽堂等による共生社会実現のための人材養成講座 | 10/3        | 2名 |
| 令和6年度文部科学省文教団体共同職員研修会(第1回)                         | 11/5～11/7   | 4名 |
| 令和6年度文部科学省文教団体共同職員研修会(第2回)                         | 11/25～11/27 | 1名 |
| 第43回政府出資法人等内部監査業務講習会                               | 11/11～15    | 1名 |
| 第33回消費税中央セミナー                                      | 11/27       | 2名 |
| 2024年度 CYDER 集合演習 Aコース                             | 12/6        | 1名 |
| 行政コンプライアンスセミナー                                     | 12/17       | 2名 |
| KAAT 舞台技術講座 2025                                   | 1/21        | 1名 |
| 令和6年度地域別劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会                      | 1/29        | 4名 |
| 令和6年度地域別劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会                           | 2/12        | 1名 |
| ミュージアム・アクセシビリティ講座                                  | 10/17～2/20  | 3名 |
| さいたま舞台技術フォーラム 2025                                 | 2/27        | 2名 |
| ACPC カスタマーハラスメント対策セミナー                             | 3/17        | 4名 |

## ② 適切な労務管理、多様で柔軟な働き方を推進する制度の検討・導入

### (a) 適切な労務管理

#### i. 安全衛生委員会、顧問弁護士および社会保険労務士との提携

・顧問弁護士および社会保険労務士と提携し、労務管理に関する問題点を調査し、改善に向けて、規程・運用の見直しを行った。

#### ii. ハラスメント防止への取組

・ハラスメントに関する苦情相談を受ける職員(相談員)を配置し、職員が相談しやすい環境を維持した。  
 ・管理職および全職員向けに必要な研修を実施した。

#### iii. メンタル不全対策の実施

・産業医であるメンタルヘルスの専門医と連携し、面談等の相談業務を実施した。  
 ・ストレスチェックを実施した(11/1～11/29、受検者378名)。  
 ・文楽劇場の制作系職員にメンタルヘルス研修を実施した(1/21、参加者9名)。  
 ・新規採用職員が振興会に支障なく定着できるようにサポートすることを目的として、新規採用職員をメンティとし、若手先輩職員をメンターとするメンター制度を実施した(7/12～3/31。メンティ9名、メンター13名、計22名)。研修を通じて、若手社員の定着率向上やキャリア形成の支援、社内コミュニケーションの活性化など、多くの効果が得られた。

#### iv. 安全衛生管理への取組

・安全衛生委員会、産業医及び衛生管理者、舞台安全保持委員会と連携し、職場環境の改善に必要な措置を講じた。

### (b) 多様で柔軟な働き方を推進する制度の検討・導入

・国立劇場閉場による代替劇場での公演に伴い、用務地における適正な勤務時間管理に努めるとともに、勤務の実態に合わせた柔軟な運用になるよう、変形労働制の導入等、就業規程の改正の検討を進めた。  
 ・ワーク・ライフ・バランス研修を実施し、常勤職員を対象に意見聴取を行った(9/20～10/31、参加者341名)。  
 ・令和7年度の育児・介護休業法改正に伴い、育児休業規程等の改正とともに、職員への情報周知準備を行った。  
 ・就業規程を改正し、夏季休暇の取得期間を拡大した(改正前：7/2～9/30から5日間、改正後：6/1～10/30から5日間)。

## ウ 必要な人材の確保・育成

### (1) 方針

・人材確保・育成方針等に関する基本方針に基づき、以下の取組の向上を図った。  
 ◇職員の計画的、適正な配置を図るとともに、外部機関との人事交流を適切に進め、多様な人材を確保・育成した。  
 ◇各種研修を行い、各職員の能力開発、専門性の確保及び意識改革を行うとともに、適切な労務管理実施した。  
 ◇外部の研修に職員を積極的に派遣し、その資質の向上を図ること、多様で柔軟な働き方を推進するための制度導入を検討した。

◇任期付職員制度を活用し、高度な専門性と豊富な知識・経験を有する者を採用した。

## (2) 人員に係る指標

- ・引き続き国家公務員との給与の比較を行い、ホームページに「独立行政法人日本芸術文化振興会の役職員の報酬・給与等について」を掲載し、給与水準に係る適正化に関する検証結果及び取組状況を公表した(5年度ベース)。
- ・人員配置については、各部長から要望を広く聞き、適切な人事異動を行うとともに、任期を定めた採用の強化等、人件費の抑制を踏まえた採用を実施した。

## 4 その他振興会の業務運営に関し必要な事項

### (1) 国立劇場おきなわ運営委託(公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団)

#### ア 委託契約の状況

4/1～3/31 の組踊等沖縄伝統芸能に係る業務及び劇場の管理運営に関する業務委託契約について 636,421 千円を限度として締結した。その後、1/23 付けで業務委託契約の限度額を 639,259 千円に変更した。

#### イ 委託内容

- ①組踊等沖縄伝統芸能の公演
- ②組踊(立方・地方)伝承者の養成
- ③組踊等沖縄伝統芸能に関して調査研究を行い、また資料を収集し、利用に供すること
- ④劇場施設を組踊等沖縄伝統芸能の保存又は振興を目的とする事業その他のための利用に供すること
- ⑤劇場施設の管理運営
- ⑥前各号の業務に附帯する業務

#### ウ 運営に関する協議及び報告の状況

- ①業務委託に係る規程の改正等を協議
- ②各四半期終了後に受託業務状況報告書を受領
- ③委託期間終了後に受託業務実績報告書を受領
- ④固定資産取得報告書及び不用通知書を受領

#### エ 運営委託の方針・連絡体制の整備等

運営財団の業務が業務委託契約書に定める事業計画書及び収支計画書に沿った形で実施されていることについて、随時公演等の視察を行い、その際の意見交換や定期的に提出を受ける受託業務状況報告書により、検証を行っている。また、財団の理事会、評議員会には常に振興会職員が出席するなど、連絡体制の強化に努めている。

#### オ 情報開示の推進

公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団の業務及び財務等に関する情報を開示するため、ホームページにより以下の情報を公開している。

定款、役員名簿、事業報告書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録、事業計画書、収支予算書、委託に係る事業概要、組織図、事務分掌

#### カ 効率化状況等

##### ① 委託費の推移

| 年度   | 令和2年度      | 令和3年度      | 令和4年度      | 令和5年度      | 令和6年度      |
|------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 金額   | 679,753 千円 | 676,604 千円 | 674,712 千円 | 656,355 千円 | 639,259 千円 |
| 前年度比 | 98.4%      | 99.5%      | 99.7%      | 97.3%      | 97.3%      |

##### ② 自己収入の確保等の方策による収支構造の改善

県や国からの補助金や受託金の外部資金獲得を行い、入場料収入については、公演回数や開演時間などを適切に設定し、計画に沿った収入の確保に努めている。また、劇場施設の利用について積極的な広報やサービス向上に努め利用料の増収による収支構造の改善を図っている。

##### ③ 効率化に関する取組

###### (a) 外部委託の推進

入札公告等は劇場敷地内に掲示するとともに、ホームページで競争入札参加に必要な公示(入札参加資格等入札情報を含む入札公告等)を掲載し、入札機会の拡大を図った。

## (b) 省エネルギー、リサイクルの推進

ペーパーレス化について、会議資料等の電子データ配布や紙配布の際の両面コピー及び両面印刷を実施している。

### 《使用量・処理量》

| 事項      | 区分       | 使用量/処理量               | 対前年度増減  |
|---------|----------|-----------------------|---------|
| 光熱水量    | 電気使用量    | 1,945,398 kwh         | +4.6%   |
|         | ガス使用量    | 45,395 m <sup>3</sup> | +42.8%  |
|         | 水道使用量    | 2,437 m <sup>3</sup>  | +9.0%   |
| 廃棄物     | 一般廃棄物    | 730 kg                | +92.1%  |
|         | 産業廃棄物    | 879 kg                | △ 51.2% |
| ペーパーレス化 | コピー用紙使用量 | 637,260 枚             | +25.7%  |
|         | 用紙購入枚数   | 417,500 枚             | △ 16.1% |

## (c) 情報システムの活用

財団内のネットワークシステムを活用し、関係者への迅速な連絡、スケジュール管理及び供用施設の予約状況の確認を行うことで、財団全体の情報共有化を図り、業務効率を向上させる工夫を行った。

## (2) 新国立劇場運営委託(公益財団法人新国立劇場運営財団)

### ア 委託契約の状況

4/1～3/31 の現代舞台芸術の公演等及び劇場の管理運営に関する業務委託契約について 4,276,270 千円を限度として締結した。

### イ 委託内容

- ①現代舞台芸術の公演
- ②現代舞台芸術の実演家その他関係者の研修
- ③現代舞台芸術に関して調査研究を行い、資料を収集し、利用に供すること
- ④劇場施設を現代舞台芸術の振興又は普及を目的とする事業その他のための利用に供すること
- ⑤劇場施設の管理運営
- ⑥附帯する業務

### ウ 運営に関する協議及び報告の状況

- ①業務委託契約に関する規程の改正を協議
- ②各四半期終了後に受託業務状況報告書を受領
- ③委託期間終了後に受託業務実績報告書を受領
- ④固定資産取得報告書及び不用通知書を受領

### エ 運営委託の方針・連絡体制の整備等

運営財団の業務が業務委託契約書に定める事業計画書及び収支計画書に沿った形で実施されていることについて、随時公演等の視察を行い、その際の意見交換や、定期的に提出を受ける受託業務状況報告書により、検証を行っている。また、財団の主要な会議には常に振興会職員が出席するなど、連絡体制の強化に努めている。

### オ 給与水準の適正化等

- ・新国立劇場運営財団の職員給与については、振興会職員給与規程に準拠した規程を整備し、適正に執行している。
- ・人事院勧告に基づく振興会の措置に準じ、給与及び手当の改定を行った。

### カ 情報開示の推進

公益財団法人新国立劇場運営財団の業務及び財務等に関する情報を開示するため、ホームページにより以下の情報を公開している。

定款、役員名簿、事業報告、収支計算書、正味財産増減計算書、キャッシュ・フロー計算書、貸借対照表、財産目録、事業計画書、収支予算書、目的・事業、組織、調達情報、年報、一般事業主行動計画

### キ 効率化状況等

#### ① 委託費の推移

| 年度   | 令和2年度        | 令和3年度        | 令和4年度        | 令和5年度        | 令和6年度        |
|------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 金額   | 4,440,663 千円 | 4,446,986 千円 | 4,421,219 千円 | 4,254,801 千円 | 4,267,393 千円 |
| 前年度比 | 109.3%       | 100.1%       | 99.4%        | 96.2%        | 100.3%       |

## ② 自己収入の確保等の方策による収支構造の改善

公演事業に係る支出は入場料収入、寄附金・協賛金収入等で賄っているところであり、それぞれ計画に沿った収入の確保に努めている。入場料収入については、公演回数、曜日、開演時間などを適切に設定し、公演内容の充実と効果的な広報宣伝のもと増収を図っている。寄附金・協賛金収入等については、賛助会員や協賛企業の獲得に努め、オンライン寄附など多角的な資金獲得に力を入れている。

## ③ 効率化に関する取組

### (a) 随意契約の見直し及び外部委託の推進

令和6年度の外部委託契約52件のうち、委託業務34件(うち複数年契約29件)、物品の製造販売工事等3件の合計37件について一般競争入札等を行っている。このうち、業務の効率化を目的として日本芸術文化振興会と共同で入札を行った契約が1件ある。令和6年度に行った入札及び公募は19件(うち複数年契約11件)であり、このうち翌年度以降の契約のものが18件となっている。

### (b) 省エネルギー、リサイクルの推進

#### 《使用量・処理量》

| 事項      | 区分       | 使用量/処理量               | 対前年度増減  |
|---------|----------|-----------------------|---------|
| 光熱水量    | 電気使用量    | 5,950,468 kwh         | +0.7%   |
|         | ガス使用量    | 47 m <sup>3</sup>     | △ 60.8% |
|         | 水道使用量    | 11,236 m <sup>3</sup> | △ 0.0%  |
| 廃棄物     | 一般廃棄物    | 28,466 kg             | +8.6%   |
|         | 再利用廃棄物   | 15,049 kg             | △ 0.7%  |
|         | 産業廃棄物    | 15,790 kg             | △ 3.4%  |
| ペーパーレス化 | コピー用紙使用量 | 1,668,370 枚           | △ 0.6%  |
|         | 用紙購入枚数   | 1,494,000 枚           | △ 11.5% |

※R5年9月以降R6年度も引き続き楽屋食堂の厨房の使用がなかったため、ガス使用量が減少した。

※ペーパーレス化が進んだことにより、コピー用紙の使用量・購入枚数が減少した。

### (c) 情報システムの活用

- ・クライアント端末 OS の統一によるセキュリティ強化と業務効率化：次期クライアント端末の調達において、これまで技術部で使用されていた Mac 端末を全台 Windows 端末へ移行することとした。これにより、財団内の端末 OS を統一し、セキュリティレベルの更なる向上と、情報システム関連業務の効率化を図った。
- ・外部ベンダーとの連携強化によるネットワークセキュリティの維持：財団のネットワーク運用を委託しているベンダーとの連携をより一層強化し、緊密な情報共有を図ることで、財団内の情報セキュリティを常に安全な状態に保つよう努めた。
- ・脆弱性対応による情報システムの安全性確保：IPA(独立行政法人情報処理推進機構)等から公開されるソフトウェアの脆弱性情報に対し、迅速かつ継続的に財団内の情報システムを調査し、必要に応じて速やかにセキュリティ対策を実施した。
- ・全ユーザー対象の月例 e ラーニングによる情報セキュリティ意識の向上：情報セキュリティ意識の向上とインシデント発生の未然防止を目的として、外部の e ラーニングサービスを活用し、財団の全ユーザーを対象とした月例の e ラーニングを開始した。

# 令和6事業年度評価報告書

第22期（令和6年4月1日から令和7年3月31日まで）

令和7年6月

独立行政法人日本芸術文化振興会



本報告書は、独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会要項第 1 条及び評議員会規則第 1 条第 2 項に基づき、令和 7 年 6 月 26 日に開催された第 68 回評議員会に報告され、審議の結果、適切であると認められ、承認されたものである。

独立行政法人日本芸術文化振興会



独立行政法人日本芸術文化振興会  
令和6事業年度評価報告書

令和7年6月

独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会

## はじめに

本評価委員会は、独立行政法人日本芸術文化振興会評議員会規則第 8 条の規定に基づき、振興会の業務の運営に関する評価を行うため設置されたものである。

このたび、理事長の諮問を受け、令和 6 事業年度の業務の実績に関して、厳正かつ客観的な評価を行った。

評価は、前年度に引き続き、振興会が実施した当該年度に係る自己点検評価報告書をもとに、まず各委員が評価意見書の提出を行い、次に振興会からの説明を聴取しながら、合議により最終的な評価を行った。

本評価委員会は、評価結果について、原則として年度計画に定められた項目ごとに取りまとめ、評価報告書として提出するものである。

評価においては、振興会の業務運営をより良いものとするための意見を付しており、次年度以降の各事業の充実及び発展に活用されることを期待する。

## 評価実施の経緯

|            |                  |
|------------|------------------|
| 第 1 回評価委員会 | 令和 6 年 11 月 29 日 |
| 第 2 回評価委員会 | 令和 7 年 5 月 16 日  |
| 第 3 回評価委員会 | 令和 7 年 6 月 11 日  |
| 第 4 回評価委員会 | 令和 7 年 6 月 18 日  |

# 令和6事業年度評価報告書 (日本芸術文化振興会評価委員会)

## I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 1 文化芸術活動に対する援助

#### (1) 概観

- 芸術文化振興基金と文化芸術振興費補助金による助成の交付件数は、昨年度と同水準を維持できたのに加え、新設の文化芸術活動基盤強化基金(補助金)については42件を採択し、文化芸術振興費補助金による委託事業の件数も前年度を上回るなど、文化芸術活動に対する援助の充実が図られたと評価できる。
- 評価結果の助成対象団体への伝達と意見交換・助言等を行う意見交換会が、団体数、延べ実施回数ともに前年度より大幅に増え、団体への丁寧な聞き取りと助言が実施されたと言える。
- 助成事業に関する初めての年次報告書の刊行は、助成事業の概況や実績データなどを把握しやすくし、助成する側・される側双方にとって有益な取組である。

#### (2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- 助成対象活動の事後評価は、団体にとっては自らの活動を検証する参考となるため、今後もぜひ続けてほしい。また、PD・POによる助言に対する満足度がより向上するよう、適切な人材を確保願いたい。
- 海外のアーツカウンシルには充実した内容のアンニュアルレポートがあり、こうした好事例の参照なども進めながら、年次報告書の充実を図り、国民に周知してほしい。

#### (3) 自己点検評価に対する意見

- 従来の基金・補助金による支援に加えて、大型の文化芸術活動基盤強化基金による支援にも適切に対応し、効率的な審査・運営を行うとともに、助成効果を測る公演等調査の件数が目標値を大きく上回った。さらに、年次報告書の刊行により助成実績も含めた成果の公開も行われており、評定としてはAが適切と判断できる。

## 2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

### 自己点検評価に対する意見

- 伝統芸能の公開については、令和 6 年度は国立劇場及び国立演芸場で実施してきた公演を代替施設において通年で実施した初年にあたり、設定された目標値は、代替施設での相応の実績がない中で計画された数値であった。伝統芸能の中でも、とくに代替施設における歌舞伎、文楽公演の入場者数が目標値を大きく下回ったが、これ以外の伝統芸能の公開・現代舞台芸術の公演実績には高く評価できる点が多く、総合評定としては B が適切と判断できる。

### 2-[1] 伝統芸能の公開

#### (1) 概観

##### 《全般》

- 公演数については計画どおり実現したが国立劇場等の閉場に伴い、令和 6 年度は代替施設での公演が本格化した初年度という状況の中で、入場者数、公演収支の改善については目標値を下回った。
- 各劇場において、芸能分野と劇場の個性を踏まえた公開の工夫が行われ、環境・設備が異なる代替施設での歌舞伎・文楽公演も、舞台設営や演出などに今までにない工夫が加えられている。
- 従来、国立劇場で公演を行っていた雅楽や民俗芸能のように、公演ができなくなったり、公演回数が減ったりした分野があり、課題が浮き彫りとなった。
- 外国人向け公演の入場者数、オンライン動画配信の視聴数については、目標値を大きく上回った。

##### 《歌舞伎》

- 代替施設での通し狂言「彦山権現誓助剣」は外部専門家から「誠実な古典上演」「当節必見」と高評価を得るとともに、文楽と同演目（「夏祭浪花鑑」）を同時期に上演するなど、代替施設に観客を誘導する企画が実施された。
- 国立劇場とは公演条件が異なる中で、新国立劇場中劇場での花道の特設、花道正面席の設置、開演前の舞台装置撮影の許可など、これまでになかった取組が行われたことは評価できる。
- 花道が設けられず、廻り舞台も完備していない施設では、国立劇場の魅力であった本格的な通し狂言などの上演も難しく、なじみの薄い施設での観劇を逡巡するファンも多かったと思われ、入場者数は目標値を大きく下回った。

### 《文楽》

- 東京圏では4公演が代替施設の6会場で開催され、舞台設営や出演者の演技等、従来にない負担があったと思われるが、「妹背山婦女庭訓」は通し上演ができ、振興会の公演理念が継続できた。
- 文楽劇場では、年間を通して開場40周年記念と銘打って充実した公演が続き、入場者数が目標値を上回った公演もあったことは評価できる。
- 東京圏と文楽劇場では、吉田和生文化功労者顕彰記念、豊竹若太夫襲名披露の公演も行われ、上演の企画と内容は充実したものであった。
- 振興会による初めてのアメリカ公演が実現され、伝統芸能の魅力の海外発信が確実に前進した。
- 東京では国立劇場の閉場に伴い、2会場に会期を分けた代替施設での公演もあり、戸惑う観客も多かったと思われる。

### 《舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等》

- 「鎌倉建長寺で楽しむ座敷舞」や「江戸っ子びいきの名曲」、「総本山智積院の声明」などは高い企画力が発揮された公演であった。しかし、邦楽の入門公演の入場者数は目標値の半分にとどまったほか、雅楽、民俗芸能、琉球芸能の公演は開催できず、課題も大きいと言える。
- 文楽劇場での開場40周年記念「東西名流舞踊鑑賞会」は、東西の舞踊家が総出演する豪華で祝意に満ちた公演で、振興会ならではの企画である。上方舞の各流派家元や重鎮の継続的な競演は、芸の継承に大きく貢献するとともに、新たな演出や振付曲、稀少な曲の上演により、技芸と演目の幅を広げる成果もあった。

### 《大衆芸能》

- 東京圏での代替施設が順調に確保でき、国立演芸場閉場前と同等の公演が実現できていることは評価できる。なかでも花形演芸会は同一の施設が使用できていて、公演に安定感を与えていると思われる。また、入場者数は、東京圏では国立演芸場閉場前とほぼ同じ達成率となり、文楽劇場では計画を上回る達成率となった。
- 文楽劇場の「浪曲名人会」は、浪曲界初の人間国宝に認定された京山幸枝若がこの会で初の長講を披露する公演で、目標値を大きく上回る入場率となった。「上方演芸特選会」も好調で、大手芸能プロダクション以外の演芸人の舞台を

鑑賞できる機会を創出している。

### 《能楽》

- ほぼすべての公演が満席数に近い入場者となっている。定例公演、普及公演、企画公演、鑑賞教室と、明確な制作方針に沿った戦略的な展開が功を奏し、継続的な来場を促す仕組みになっている。
- 企画公演では、能楽以外の伝統芸能も積極的に組み込むことで、上演内容の広がりが見られ、来場者の拡大が図られている。公演日にはロビーで関連文化の紹介も盛んに行われ、これも観客にとっては、来場の楽しみに加えられている。
- 「実方」、「空蟬」、「武文」など、復曲能の上演にも定期的、積極的に取り組み、「宝生宗家展」で展示された能面の名品を復曲能で使用するなどは振興会ならではの企画である。

### 《組踊等沖縄伝統芸能》

- 組踊、琉球舞踊、沖縄芝居、三線や箏曲などの音楽、民俗芸能の公演で、それぞれの上演企画が注目度を向上させる内容を持つとともに、年間のこれらの公演計画が、沖縄伝統芸能への関心者の拡大につながったと判断できる。アジア・太平洋地域の芸能や研究公演といった、国立劇場おきなわならではの企画も継続できており、沖縄伝統芸能の理解を深めるのに役立っている。
- 研究公演では「1838年の史料に拠る組踊『大川敵討』」を上演し、舞台構造や衣装の再現を通して歴史的知見の実演化を果たした。また、研究そのものに加えて実演家の技芸向上にも貢献した。

### 《演目の拡充》

- 振興会全体としては、国立劇場・国立演芸場の閉場というマイナス条件の中でも、10作品の演目が拡充され、伝統芸能の継承・振興という振興会の役割を果たしている。
- 文楽、能楽、組踊はそれぞれの本拠とする劇場で復曲や復活、新演出、新作の上演が行われて成果を上げた。また、歌舞伎は専用劇場がない中で上演の稀な場面を付け、筋をわかりやすく通すなどの工夫が見られた。

### 《青少年等を対象とした公演》

- 代替施設での歌舞伎以外は、計画とほぼ同じかこれを上回る入場者数となった。なかでも文楽劇場の夏休みの親子劇場、国立劇場おきなわの「組踊の世

界」、沖縄芝居鑑賞教室は入場者数の目標達成率が高い。

- 文楽劇場の親子劇場では、子ども限定で音声同時解説サービスを無料提供し、次世代の観客育成に取り組んだ。
- 国立劇場おきなわの青少年対象公演は、県内学童への周知、学校行事としての組込み、劇場までの貸切バス費用助成など、早くからの営業活動と費用助成に取り組んだ結果と評価できる。

### 《伝統芸能の公開の実施に際しての留意事項(連携協力等)》

- 国立劇場・国立演芸場の閉場による代替施設での公演については、自治体等との共催・連携協力が大幅に増加した。また、国立劇場おきなわでは、主催公演に加え、沖縄県文化振興会などとの共催公演を多く開催しており、劇場での伝統芸能公演回数の増加が図られている。
- 公演での連携協力先の団体・機関とは、講座の開催、入場料の優遇、広報など、様々な取組が行われているが、代替施設での公演は今後も長く続くことから、連携協力の実効向上のための企画や活動を期待したい。
- オンラインでの動画配信を通じて、居住地域にとらわれない鑑賞の機会を、国内外に広く提供した。特に舞踊公演の記録映像は32万回を超える視聴数となった。

### 《快適な観劇環境の形成》

- 観客の利便性・安全性の確保、観劇の雰囲気盛り上げる取組は、代替施設でも図られており、外国人向けの多言語によるプログラムや音声ガイドも行われている。
- 代替施設以外では、消防訓練、避難誘導等訓練、消火訓練が実施され、災害等に備えた対応が着実に進んでいると判断できる。
- 各劇場で販売するグッズのデザインに工夫が重ねられ、観客誘致にも役立っている。

### 《広報・営業活動の充実》

- 各劇場で、劇場が立地する地域や学校、団体などへの直接的な広報・営業活動が担当者などによって地道に進められている。
- SNS を利用した広報活動が多彩化しながら拡大しつつあり、登録者数は増加傾向にある。国立劇場おきなわホームページへのアクセス件数は大幅に増加するなど、情報提供も活発化していると認められる。

- 文楽劇場での富裕層向け Web 広告や、国立能楽堂での学齢期の子どもを持つ保護者向けアプリへのバナー広告など、それぞれの劇場が独自の広報・営業活動を展開していることも評価できる。

### 《劇場施設の使用効率の向上等》

- 舞台使用だけではなく、各施設の利用が行われている。稽古室については、閉場した国立劇場も貸出は継続し、使用実績のある団体等にダイレクトメールを送るなど、各劇場の状況にあわせて、使用効率の向上に向けた取組が行われている。
- 施設の利用促進への取組として、国立能楽堂レストランでの舞台利用団体と連携した特別メニュー提供や、国立劇場おきなわでの 24 時間受付の稽古室利用申込は、今後の施設利用の使用効率の向上の観点から注目できる。

## (2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- 国立劇場・国立演芸場の再整備は、国家として重要な文化施策であり、予算等事業規模からも政府の責務として取り組むべきで、その実現に向けた早急な事業遂行が望まれるが、閉場した劇場での公演分野については、振興会による伝統芸能公演の理念と魅力が発揮・維持できるよう、代替施設は、その対象範囲を公共施設以外にも広げることを含めた上で、より適切かつ安定的な確保が必要である。
- 代替施設での公演では、その劇場の特性を生かした企画や建長寺での舞踊イベントのような劇場以外の場・施設での公演企画など、より多様な取組を進めてほしい。
- 観劇が長時間にわたる歌舞伎、文楽の観客にとっては飲食も重要であり、代替施設での公演には、それへの対応が必要である。
- 伝統芸能の観客減への対応として、集客や情報サービスなどを一元的に取り扱う広報戦略室を設置するなど、根本的な対策が必要ではないか。

## (3) 自己点検評価に対する意見

- 国立能楽堂・国立文楽劇場・国立劇場おきなわの公演は、それぞれが年度目標を十分に達成している。しかし、国立劇場閉場に伴っていくつもの代替施設で行われた公演は、上演工夫を重ねながら計画通り実現されたものの、従前とは大きく異なる劇場・舞台の環境条件のもとでの魅力創出の困難さ、施設立地等による伝統芸能ファンの戸惑いと団体での来場の制約、公演期間の限定など

があり、入場者数の減少が当初の想定を超え、目標値を大きく下回った。このことから評定としてはCと判断せざるを得ない。伝統芸能の継承・振興の目的を遂行するための財政的措置を含めた対応が必要である。

## 2-[2] 現代舞台芸術の公演

---

### (1) 概観

#### 《全般》

- 各分野とも、新制作や日本初演、世界初演など新国立劇場ならではの意義ある舞台が制作されている。
- 公演数、入場者数などはいずれも目標値を達成し、集客への様々な努力も成果を上げている。オンライン動画配信では、バレエ「アラジン」が70万回を超える視聴数となった。

#### 《オペラ》

- 「夢遊病の女」を海外劇場との共同制作で初上演し、日本初の原語(フランス語)による大作「ウィリアム・テル」の上演も行われ、オペラ公演の新制作に積極的に取り組む姿勢がうかがえる。
- 「ウィリアム・テル」や「椿姫」では日本人歌手の実力が発揮された。特に、高い歌唱技術が求められる「ウィリアム・テル」では、新国立劇場合唱団が活躍し、新国立劇場ならではの作品となった。

#### 《バレエ》

- 国際級のトッププリンシパルが在籍する現在の新国立劇場バレエ団は、牧阿佐美の「ラ・バヤデール」、ビントレーの「アラジン」などレパートリーのオリジナリティも魅力にあふれ、さらにフォーサイズなどをレパートリーに取り入れ、若手にもチャンスを提供するなど、充実度が高い。
- 公演数を増やす中で、入場者数も目標値を上回り、「眠れる森の美女」などで若手ダンサーを積極登用するなど、意欲的な公演が続いている。
- キャストそれぞれが高いテクニック・表現力で完成度の高い舞台を作り上げ、新国立劇場バレエ団ダンサー4名が外部団体主催の賞を受賞するに至った。

#### 《現代舞踊》

- 「DANCE to the Future 2024」では、若手ダンサー2名が新たに振付家として作品を発表し、振付家の育成にもつながる優れた企画であった。新国立劇場バレ

エ団にとってもコンテンポラリー作品のレパートリーが広がり、公演の質向上につながる取組となった。

### 《演劇》

- 「こっこっプロジェクト」の成果と言える「ターバイ」の上演や、「デカログ」全 10 話を 4 カ月かけて上演したことは、環境や人材が揃っている新国立劇場でなければ実現できない意欲的な企画である。
- 「白衛軍」は日本初演であり、第 32 回読売演劇大賞において優秀作品賞を受賞した。

### 《青少年等を対象とした公演》

- 「人魚姫」「新版 NINJA」「オバケッタ」など良質な子ども向け作品を上演し、目標の入場者数を達成した。
- 新国立劇場外では、京都市で高校生を対象としたオペラ公演を上演し、新国立劇場合唱団による学校巡回公演も 12 回実施された。
- 公演に際して実施した公演オリジナル「リカちゃん」の展示や、こどもバックステージツアーなどは、子どもたちに舞台芸術への関心を深めてもらう機会となった。

### 《現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項(連携協力等)》

- 全国の劇場との連携、協力体制が生まれ、北海道、兵庫県、新潟県、長野県でバレエと現代舞踊の公演を行った。新国立劇場合唱団の外部出演も多く、新国立劇場の公演や合唱団が対外的に高い評価を受けていると判断できる。
- 韓国国立劇場等との連携協定締結や、スペイン、イタリアの 3 劇場とのオペラの共同制作など、国際交流の進展にも大きく寄与している。

### 《快適な観劇環境の形成》

- 新たな取組として、バレエ・オペラの一部公演で、特別な席を設定し、優先入場や専用ラウンジの設置も実施した「グランエクスペリエンス」や、和食と日本酒による「ウェルカムラウンジ」を実施し、新国立劇場のファン獲得に努めた。
- オペラとバレエで計 8 回、終演後に英語版バックステージツアーを実施し、多様な層への鑑賞者開発を充実させている。
- 視覚障害者、聴覚障害者に向けての音声ガイドやポータブル字幕機の貸出を行い、きめ細かな観劇サポートが推進できている。

### 《広報・営業活動の充実》

- 劇場に直結している初台駅の列車接近メロディにおける公演演目の音楽利用、トークイベントの実施、大学やホテルとの連携など、多様な広報・営業活動が進められている。
- ホームページへのアクセス件数や SNS への登録者数も前年より増加しており、広報の拡充が図られていると判断できる。欧米の舞台芸術サイト・雑誌への広告掲載など、国内だけでなく海外への発信に対する高い意識が反映されている。

### 《劇場施設の使用効率の向上等》

- オペラ劇場、中劇場、小劇場ともに稼働率が高く、これ以上の使用効率の向上は図れない状況となっている。稽古室についても、主催公演などでの使用で埋まっており、使用効率は現状維持となる。

## (2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- 新国立劇場の事業について、特に都心・関東地区以外の地方では関心を持たれることが少ない。地方公演も少しずつ増えているが、例えば、「新国立劇場バレエ関西定期公演」などを立ち上げることが期待される。こうした公演の全国展開は新国立劇場での研修希望者増につながり、演者の技能向上にも貢献できる。また、研修等への経済的支援者も全国から募ることができる。
- バレエ・オペラのバックステージツアーなどの取組は、これまで現代舞台芸術分野に興味のなかった初心者への関心の喚起や、将来の観客創出につながる企画である。鑑賞者・支援者の拡充、将来の鑑賞者開発への投資として注力してほしい。
- 劇場へのメールによる意見等に対する回答率が、伝統芸能分野と比べて低くなっている。意見内容にもよるが、対応策を練っておく必要があると思われる。

## (3) 自己点検評価に対する意見

- オリジナル作品の企画・上演に努めるとともに、上演作品をレパートリーとして蓄積し質の高い公演を実施しており、公演内容と入場者数からも、新国立劇場の企画力の高さがうかがえる。公演数、入場者数、公演収支の改善については、いずれも目標値を達成しており、評定としては B が適切と判断できる。

## 2-[3] 日本博の運営・実施

---

### (1) 概観

- 文化資源の磨き上げによる満足度の向上を目的に、委託型、補助型、参画型の3類型を設けて事業を実施しており、その内容は極めて多岐にわたっている中で、採択団体に対しては、新規に事業の効果検証計画書と効果検証報告書の作成・提出を義務づけた点は評価できる。
- 日本博について海外からの認知を得るため、SNS 広告、Web 広告により公式ホームページへの誘導を図った結果、令和 5 年度と比較し、海外からのホームページ閲覧数やアクセスユーザー数、Instagram のフォロワー数が大幅に増えたことは、戦略的なプロモーション等の成果として評価できる。

### (2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- 分野や範囲も広い日本博事業の評価指標が、採択先における来場者満足度だけであるという点は、事業全体を適正に評価できているのか疑問に感じる。また、この指標に対する測定を来場者・参加者のアンケートで行っているが、アンケート回答数が事業によって差が大きく、効果測定のあり方と結果認定には検討の余地がある。アンケート回答数の少ない事業は、自己点検評価書にその事由を書き込むなど、評定の妥当性が判断できるようにする必要がある。
- 外国人観光客誘致の一方では、オーバーツーリズムが大きな問題となっており、今後採択すべき事業の数や質、内容について、よりしっかりとした検討が必要と考えられる。

### (3) 自己点検評価に対する意見

- 委託型・補助型の採択事業に関する効果測定のあり方などに、改善が必要と思われる点があるものの、採択事業の外国人来訪者満足度の達成率は120%を超えており、評定としてはAが適切と判断できる。

### 3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

#### 自己点検評価に対する意見

- 伝統芸能分野、現代舞台芸術分野とも所期の目標をほぼ達成するとともに、今後を見据えた様々な企画や事業に取り組んでおり、総合評定としては B が適切と判断できる。

#### 3-[1] 伝統芸能の伝承者の養成

##### (1) 概観

- 国立劇場伝統芸能伝承者養成所の機能強化のために養成企画課が新設され、国立劇場等の再整備期間中も国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて養成事業を着実に継続している。
- 「国立劇場養成所サポーター」会員が 151 名と増加し、今後の展開が期待される。
- 養成研修の人数は、ほぼ計画通りであり、充実したプログラムが組まれて研修が進んでいる。研修志願者と研修生確保についても、外部団体との積極的な連携が進んでおり、研修生と研修修了者による発表会もほぼ計画通り行われ、高い入場率をあげている発表会もある。
- 研修応募を検討している方に対しての「プレ研修」は、実際に経験することで概要をつかめ、応募するかどうかの判断材料となり、好企画である。

##### (2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- 国立劇場・国立演芸場の再整備中、養成所の安定的な運営と機能強化ならびに研修志願者と研修生の確保は、より積極的に進める必要がある。依然、応募者は減少傾向にあり、研修途中の辞退者も散見される。養成所サポーターなどの協力を得ながら、各分野の発表会に加え、各分野合同の発表会を開催し、養成所の成果アピールを行いつつ、将来の展望が開けるような試みを続けてもらいたい。
- プレ研修のような制度の新設は大きな意義があり、未来につながるものなので、ぜひ恒常的な制度として整備することが望まれる。また、小学生等を対象にした体験プログラムも今後検討してほしい。

##### (3) 自己点検評価に対する意見

- 養成所の機能強化を担当する養成企画課の設置、養成所サポーター会員の増

加と連携、学校や外部団体への養成所案内が積極的に行われ、ほぼ計画通りの研修生の入所もある。評定としてはBが適切と判断できる。

### **3-[2] 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修**

---

#### **(1) 概観**

- 計画通りの研修修了者を出すとともに、研修所入所者を高い倍率をもって確保できている。研修発表会は10公演となり、計画を上回って開催された。研修修了者の各種コンクールでの受賞も多く出ており、研修成果は着実に上がっている。
- バレエ研修所では、計画通り原則4年間の全日制一貫研修実施を目的とした新研修体系への移行が行われた。また、研修所入所前に受講できる基礎強化を目的とした基礎科を本格的に開始するなど、より優れたトップアーティストを育成するための一貫した研修環境の整備が進んでいる。

#### **(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言**

- 地方出身者や海外の若者にとっても、新国立劇場の研修所が目指すべき場所となるよう、さらなる制度充実を期待する。
- 現状では稽古場の安定的確保が課題であり、研修環境の整備に引き続き留意してもらいたい。

#### **(3) 自己点検評価に対する意見**

- 修了者の輩出と新研修生の受入が計画通り行われるとともに、新たな研修プログラムへの移行など、研修プログラムの充実化が進んでおり、評定としてはBが適切と判断できる。

## 4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

### 自己点検評価に対する意見

- 伝統芸能分野、現代舞台芸術分野とも、所期の目標を大きく上回る成果が上っており、総合評定としてはAが適切と判断できる。

### 4-[1] 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

#### (1) 概観

- 近代歌舞伎年表及び上演資料集等の興行記録の調査・刊行を計画通り行い、振興会ならではの事業が着実に進んでいる。
- 文化デジタルライブラリーでは、舞台芸術教材が新たに公開されるなど充実化が進み、アクセス件数は目標値を大きく上回ることができた。
- 国文学研究資料館との連携による能楽資料の公開に向けたデータベース化のほか、ジャパンリサーチや文化遺産オンラインへの資料画像公開も行われ、多角的な資料活用が進んでいる。
- 国立能楽堂における「宝生宗家展」は、来場者数が目標値を大きく上回った。能面を詳細に掲載した図録は調査研究の成果として高く評価され、振興会ならではの取組である。
- 無料配信した舞踊公演の記録映像の視聴数は累計で80万回に達し、海外からもコメントが寄せられるなど反響があったが、有料配信については前年度の実績を下回った。

#### (2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- 調査研究成果や収蔵資料、公演映像のオンライン上での公開が進んでいるが、未整理の資料も多くあり、その調査研究等を速やかに進めてほしい。また、再整備期間中も国立劇場の所蔵資料の管理を適切に行うとともに広く活用できるように留意してもらいたい。
- 教育上の観点から、講義や出版物に、伝統芸能に関する映像等を簡便な手続き、あるいは出典明記で利用できる仕組みを整えてほしい。

#### (3) 自己点検評価に対する意見

- 伝統芸能関係に関する所蔵資料や外部資料の調査研究と成果公開は、振興会の活動が国内で最も活発かつ有益であり、内容・質ともに高い水準で実施さ

れた。また、「宝生宗家展」は展覧会・図録とも、振興会だからこそ実現できたと考えられ、評定としてはAが適切と判断できる。

#### 4-[2] 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

---

##### (1) 概観

- 主催公演に関する記録の作成を行うとともに、公演記録のデータベース化と公開が着実に進んでいる。
- 公演とあわせた関連諸資料の展示を劇場情報センターや初台アート・ロフトで開催し、来場者数は目標値を大きく上回ることができた。
- バレエ「アラジン」のインターネット配信の視聴数が70万回を超えた。国際的な広報という意味でも意義が大きく、新国立劇場の公演が世界発信され、高い水準に達している表れであると評価する。

##### (2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- 情報センターの所蔵資料の充実に一層努めてほしい。公演記録データベースは年月を重ねるにつれて重要性が増すため、伝統芸能に関する「文化デジタルライブラリー」のような調査研究の充実と公開が望まれる。
- 現代舞台芸術に対する知識や情報について学校を通じて児童・生徒へ提供する取組を検討されたい。これによって学校における芸術教育の充実と次代を担う演者、支援者、観客のさらなる創出を図ってほしい。

##### (3) 自己点検評価に対する意見

- 従来から継続している調査研究、資料収集が着実に進んでいて、情報センターでの展示の来場者数は目標値を大きく上回った。評定としてはAが適切と判断できる。

## Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

### (1) 概観

- 養成事業の拡充に伴い効率化と機能強化を目的に養成企画課を新設し、助成業務の増加に対応するための組織替えも行われた。さらに国立劇場・国立演芸場の再整備を視野に入れての組織再編の準備が進められた。各課の所掌の見直しや各劇場の連携の強化などにより業務運営体制の効率化が図られた。
- 情報システムの活用（クラウドコールセンター・電子決裁）により、業務の効率化が推進され、契約や調達の合理化・共同化などが着実に実行された。また、「エネルギー管理基本方針」が策定されるとともに、省エネや環境に配慮した電力調達等が行われた。

### (2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- 各方面で業務の効率化が進んでいるが、振興会が担う文化芸術の継承と向上を第一義とし、予算も含め、業務内容と分担の適確化をより推進してほしい。

### (3) 自己点検評価に対する意見

- 代替施設における公演や再整備に伴う業務体制の多様化等に対応し、今後の振興会の事業展開の効率化を図るための組織再編や情報システムの効率化を進めており、評定としてはBが適切と判断できる。

### Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画

#### (1) 概観

- 自己収入は、公演事業が目標値を下回ったが、養成研修事業、調査研究事業など他の事業区分は目標値を上回り、全体では目標値を超えることができた。
- 外部資金の獲得を積極的に行い、特に養成事業継続寄附（国立劇場養成所サポーター）はその額・件数ともに昨年度より大きく増加した。振興会としては初めての文楽アメリカ公演についても企業協賛等を獲得するなど、実績を上げた点は評価できる。

#### (2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- 公演事業のみ自己収入の確保が目標値に届かなかった。代替施設での公演の影響やその他の影響などを多面的に分析し、より魅力的な公演を実現するための予算配分を行うとともに、事業実施における新たなノウハウの蓄積につなげてほしい。
- 公演収入減、公演制作費抑制、公演魅力の減退という悪循環が起きないように予算、収支計画が必要である。そのためには、国による公演等事業予算の措置が求められる。
- 国立劇場基金（くろごちゃんファンド）や養成事業継続寄附（国立劇場養成所サポーター）などの寄附募集においては、寄附者自身も事業に参加していると一層感じられるよう、効果的な取組を進めてほしい。

#### (3) 自己点検評価に対する意見

- 自己収入実績額は公演事業が目標値を下回ったが、全体として目標値を達成している。また、民間の寄附など外部資金の獲得は昨年度の額を下回ったものの、件数は昨年度を超えており、評定としてはBが適切と判断できる。

## IVその他業務運営に関する重要事項

### (1) 概観

- 年度計画に基づく内部統制の充実・強化、人事に関する業務、国立劇場おきなわ及び新国立劇場の運営委託などを適切に進められた。なかでも国立劇場再整備事業については、「国立劇場再整備に関する有識者検討会」を開催するとともに、「国立劇場の再整備に係る整備計画」の改定をもとに、次期入札に向けた準備が開始された。
- 振興会のこれからを考える職員参加型の検討グループを立ち上げ、組織の課題についてミーティングが行われた。特に、職員自らが自組織のミッションを再確認する作業は重要であり、これが継続的に取り組まれている点を評価する。

### (2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- 国立劇場再整備については、日本の文化施策としても喫緊の課題であるが、業務進展が遅く、しかも情報開示が適切とは言えない。早急に改善し、再整備の見通しを示す必要がある。
- 新たな国立劇場において、訪日外国人観光客等への取組として鑑賞しながら飲食ができるレストランの設置構想に向けた検討を進めたとあるが、過去に劇場併設の飲食施設が撤退した事例も踏まえて検討を進めるべきである。
- 閉場中の施設の有効活用については、これまでの利用団体からの意見を聴取しつつ、適切な情報発信に取り組まれない。
- 振興会の運営において職員の意識や能力は重要な経営資源である。国立劇場再整備を進める中でも業務が増加・多様化するものと思われる。課題が多く多忙な中であって成果を上げるためにも、引き続き職員の労働環境の向上、職員の定着率の向上など適切な労務管理に努められたい。

### (3) 自己点検評価に対する意見

- 年度計画を適切に進めるとともに、先行きは不透明でありながらも、振興会の最重点事項である国立劇場再整備については次期入札に向けた準備を開始した。評定としてはBが適切と判断できる。

## 評価委員会としての意見

- 「中期計画」の標題でもある「その他業務運営に関する重要事項」という括りは、人事に関する業務や国立劇場おきなわ及び新国立劇場の運営委託、国立劇場再整備事業業務などを含むことから違和感があり、たとえば「振興会運営に関する業務と重点事項」のように「その他」という表現は改訂すべきである。

令和6年度独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会 委員名簿  
(任期：令和6年7月1日～令和7年6月30日)

委員長 小川直之（國學院大學名誉教授）

委員長代理 大久保充代（公公益財団法人八尾市文化振興事業団業務  
執行理事兼事務局長 八尾市文化会館長）

委員 小玉祥子（演劇ジャーナリスト）

委員 桜井多佳子（舞踊評論）

委員 氷川まりこ（伝統文化ジャーナリスト）

委員 広瀬依子（追手門学院大学文学部講師）

委員 古谷伸太郎（公認会計士）

## 独立行政法人日本芸術文化振興会評議員会規則

平成15年10月31日  
改正 平成21年 3月27日  
改正 令和 7年 3月26日  
評議員会決定

### 第1章 審議事項

第1条 評議員会は独立行政法人日本芸術文化振興会法第12条の規定に基づき理事長の諮問に応じ、独立行政法人日本芸術文化振興会（以下「振興会」という。）の業務の運営に関する重要事項を審議する。

2 前項の審議事項には、振興会の業務の運営に関する評価を含むものとする。

### 第2章 議事

第2条 評議員会に議長を置き、評議員の互選で定める。

第3条 議長は、会議の議事を整理する。

第4条 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名した評議員が議長の職務を代理する。

第5条 評議員会は、評議員の過半数の出席がなければ会議を開き、議決することができない。

第6条 評議員会の議事は、出席評議員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第7条 評議員会に出席することのできない評議員は、書面をもって票決をなし、又は他の評議員に票決を委任することができる。この場合は、出席とみなす。

### 第3章 評価委員会

第8条 第1条第2項に定める評価を行うため、評議員会に評価委員会を置く。

2 評価委員会の人数及び任期等は理事長が定める。

### 第4章 規則の改正

第9条 この規則を改正等しようとするときは、評議員会において評議員の3分の2以上の同意を得なければならない。

第10条 評議員会の事務は、総務部総務課において処理する。

### 附 則

この規則は、平成15年10月31日から施行する。

附 則（平成21年3月27日評議員会決定）

この規則は、平成21年3月27日から施行し、平成21年4月1日から適用する。

附 則（令和7年3月26日評議員会決定）

この規則は、令和7年3月26日から施行し、令和7年4月1日から適用する。

## 独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会要項

平成15年10月31日  
改正 平成16年 4月 1日  
改正 平成17年 3月16日  
改正 平成20年 6月19日  
改正 平成21年 4月 1日  
改正 令和 4年 4月 1日  
改正 令和 7年 4月 1日

独立行政法人日本芸術文化振興会理事長裁定

第1条 評議員会に置かれる評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、独立行政法人日本芸術文化振興会（以下「振興会」という。）の業務の運営に関する評価を行い、その結果を評議員会に報告する。

第2条 評価委員会は、7人以内の評価委員（以下「委員」という。）で組織する。

第3条 委員は、振興会の業務の運営に関する評価に必要な学識経験を有する者のうちから、理事長が任命する。

第4条 委員の任期は、1年とし、7月1日に委嘱することを常例とする。ただし、欠員の補充による委員の任期は、現任者の残任期間とする。

2 委員は再任を妨げない。

第5条 評価委員会に委員長を置き、委員の互選で定める。

第6条 委員長は、会議の議事を整理する。

第7条 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員が委員長の職務を代理する。

第8条 評価委員会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開き、議決することができない。

第9条 評価委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

第10条 評価委員会に出席することのできない委員は、書面をもって票決をなし、又は他の委員に票決を委任することができる。この場合は、出席とみなす。

第11条 評価委員会の事務は、企画部企画課において処理する。

### 附 則

1 この要項は、平成15年10月31日から施行する。

2 この要項の施行後最初に任命された委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成17年9月30日までとする。

### 附 則

この要項は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成17年3月31日独立行政法人日本芸術文化振興会理事長裁定）

この要項は、平成17年3月31日から施行する。

附 則（平成20年6月21日独立行政法人日本芸術文化振興会理事長裁定）

1 この要項は、平成20年7月1日から施行する。

2 この要項による改正後最初に再任される委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成21年6月30日までとする。

附 則（平成21年4月1日独立行政法人日本芸術文化振興会理事長裁定）

この要項は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（令和4年4月1日独立行政法人日本芸術文化振興会理事長裁定）

この要項は、令和4年4月1日から施行する。

附 則（令和 7年 4月 1日独立行政法人日本芸術文化振興会理事長裁定）  
この要項は、令和 7年 4月 1日から施行する。





---

独立行政法人日本芸術文化振興会

## 令和6事業年度 業務実績報告書

令和7年6月26日発行

発行：独立行政法人日本芸術文化振興会（Japan Arts Council）

編集：企画部 企画課

〒102-8656 東京都千代田区隼町4番1号

TEL：03-3265-7411（代表）

<https://www.ntj.jac.go.jp/>